

名城大学FD・SD活動報告書

令和4年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

目 次

1. はじめに	
● 令和4年度のFD・SD活動を振り返って	1
大学教育開発センター委員会委員長 山田 宗男	
2. 令和4年度大学教育開発センター委員会	
● 委員構成	5
● 活動記録	7
3. 令和4年度FD・SD活動一覧	
(FD・SDフォーラム、FD・SD学習会、新任教員FD・SD研修会、 授業改善アンケート、名城大学FD NEWS、名城大学教育年報、FD・SD活動報告書、 教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会等への派遣)	13
4. 令和4年度正課外教育活動一覧	
(入学前オリエンテーション、入学前学習プログラム(MECプログラム)、 名城サプリメント教育、学習サポートルーム)	17
5. 令和4年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告	23
● 法学部・法学研究科	
● 経営学部・経営学研究科	
● 経済学部・経済学研究科	
● 理工学部・理工学研究科	
● 情報工学部	
● 農学部・農学研究科	
● 薬学部・薬学研究科	
● 都市情報学部・都市情報学研究科	
● 人間学部・人間学研究科	
● 外国語学部	
● 総合学術研究科	
● 教職センター	
6. トピックス	
● 第24回FD・SDフォーラム実施報告	123
● 第16回～第17回FD・SD学習会実施報告	145
● 新任教員FD・SD研修会実施報告	180
● 教育功労賞表彰報告	191
7. 資料	
● 大学教育開発センター要項	199
8. おわりに	
● あ と が き	201

1. はじめに

令和4年度のFD・SD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会

委員長 山田 宗男

早急な終息が望まれるコロナ禍は3年目に突入し、昨年度に引き続き厳しい制約下での教育活動を強いられる1年でした。それでも本学では、対面・遠隔授業の併用や講義収録システムの活用による欠席者への対応など、これまでの経験を活かし、大きな問題もなく授業運営・教育活動を行いました。これは言うまでもなく、教職員の方々の教育を止めない思いとご尽力の賜物であったと確信すると共に、敬意を表します。

また今年度は、第三期認証評価を受審しました。第三期認証評価では、特に「内部質保証の実質化」に焦点が当てられ、「教育の質保証」に関しても厳しい実地調査（9月26-27日の2日間）が行われました。未だ、最終的な結果は届いておりませんが、問題なく終えることが出来たと確信しています。本学においては、ダッシュボード分析、学修成果の可視化、外部評価の実施等による教育改善について、ミクロ・ミドル・マクロの3つのレベルでの質保証が十分になされており、各学部における教員／職員一体での取り組みの賜物であると思います。特に、総合企画部、大学教育開発センターをはじめ関係各署の職員の皆様には、質保証システムの整備から自己点検書の作成に至るまで、膨大な準備作業に尽力いただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

大学教育開発センター委員会では、コロナ禍における教育の実践と共に、今後益々重要となる数理データサイエンス・DX人材育成を見据えたFD・SDフォーラム・FD・SD学習会の開催、名城サプリメント教育および学習サポートルームのリモート対応など、コロナ禍に対応した各種取り組みを可能な限り行いました。今年度においても、コロナ禍によって諦めた、あるいは、廃止した取り組みは一つもなく、ご尽力をいただいた委員をはじめご協力をいただいた教職員の皆様には、重ねて御礼申し上げます。以下に今年度の取り組みについて省察します。

先ず、授業改善アンケートについては、質問項目の継続的な見直しを図ると共に、学生自身の授業に対する姿勢についても振り返りができる質問を加えるなど、質問内容についても継続的に改善を重ねています。今年度の回答率も、前期：45.0%、後期：32.2%と比較的高い値となりました。これは、コロナ禍でのLMSによる遠隔講義の経験によって、LMSの日常利用が学生に馴染んできたことや、LMSを基本とする教員・学生間のやり取りが定着しつつあること、さらには遠隔講義の経験によって、講義の内容や方法への関心が高まった結果であると考えられます。アンケートの回答率に関しては、学生への周知徹底や動機付けとの相関も大きいことから、回答マニュアルの整備、アンケートの回答を促すポスターの講義室への貼付、学生ホールおよび食堂での周知、授業改善アンケート集計結果閲覧コーナーの設置など、引き続き努力していきたいと考えています。

学修成果の可視化に関する外部調査については、全学部全学科にて実施していただいております。本調査の目的は、学生個々の学修行動・学修成果について調査・可視化することで、教育の成果がどの程度上がっているかを把握するものであり、今後の教育プログラムの在り方やFD・SDの進め方、さらには学生指導方法の見直し等に役立つ情報を得ようとするものです。現段階では

JSAAP, PROG, GPS-Academic等の外部団体による調査を活用する試行段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えられています。またこの調査は、単年度対象の調査ではなく、年次推移に関する分析・検討が重要となります。今年度も多くの学部・学科において、複数年次を対象とした調査が実施され、学修成果の可視化に関する重要性の認知とその活用が進んでいることが伺えます。本調査の実施に関しては、引き続き援助の準備を進めていますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

今年度のFD・SDフォーラムは、メインテーマを「データサイエンス教育の現状と展望」としました。国立大学法人 滋賀大学 学長の竹村彰通先生、本学経済学部 教授の勝浦正樹先生を講師としてお招きし、竹村先生からは、メインテーマであるデータサイエンス教育の現状と展望について、勝浦先生からは、今年度より全学開講した「データサイエンス・AI入門」科目の実施報告および点検結果についてご講演いただきました。当日は多くの参加があり、質疑応答も活発に行われ、データサイエンス教育への関心の高さが伺えました。お忙しい中、貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には心より御礼申し上げます。

令和4年度新任教員FD・SD研修会については、5月に、「実践！遠隔講義に役立つGoogleサービス」のテーマで開催しました（5月6日（金）、対面開催）。LMSをはじめ、本学において授業に利活用可能なICTツールとソフトウェアについて紹介すると共に、G-Mail, Google Drive, Google スプレッドシートおよびGoogle フォームの活用手法について、オンラインでのレポート課題の実施を例に、実践方式で解説しました。本学の専任教員に着任された先生方を対象に、授業運営や学生指導に中って困っていることや苦心していることなどを意見交換し共有することで、FD・SD活動の動機付けおよび教員の交流を深める機会としく思っており、来年度も引き続き開催していきたいと考えています。

FD・SD学習会については、7月に、「GPS-Academicを活用した学修成果の可視化と活用について」のテーマで第16回FD・SD学習会を開催しました（7月15日（金）、Zoomによるオンライン開催）。学修成果の可視化手法として多くの学部で実施されているGPS-Academicについて、その結果の分析手法と活用方法について、株式会社ベネッセiキャリア 大社接続営業部西日本営業課 課長 藤井公雄氏を講師としてお招きし、実施例を交えて解りやすく解説いただきました。

さらに9月には、「アクティブラーニング型授業としての反転授業」のテーマで第17回FD・SD学習会を開催しました（9月12日（月）、Zoomによるオンライン開催）。With/After コロナに向けて、対面授業と遠隔講義を併用した有効な授業手法の一つとして注目されている反転授業に関して、具体的な実施例とその効果検証結果について、芝浦工業大学 工学部 教授の角田和巳先生を講師としてお招きし、ご紹介いただきました。

FDニュースについては、令和5年3月にVol.17を発刊いたしました。数理・データサイエンス・AI教育が求められる背景等について解りやすく紹介しました。FDニュースは、FD・SDに関する学内外の最新の取り組みおよび高等教育改革の最新動向等を、スピーディーかつ端的に情報提供・共有するための媒体として今後も積極的に発刊していきたいと考えています。

本学におけるFD・SDの取り組みは、本来の趣旨を念頭に教職員の創発によって取り組みを深

めていく体制とすることで、現場感覚に基づいた実践的なFD・SD活動が遂行可能である点が他大学にない特色であると思います。また、「With コロナ」「After コロナ」時代においては、ICT活用を主軸としたこれまでにない教育改革が必須であり、それに伴うFD・SD活動も変革の時期を迎えていると思います。教職員の皆様におかれましては引き続き、より一層のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

2. 令和4年度

大学教育開発センター委員会

令和4年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職名	氏名	職名	氏名
大学教育開発センター長	委員長・教授	山田 宗男		
学務センター長	教授	山本 雄吾		
法学部	准教授	仁井田 崇	教授	渡邊 互
経営学部	教授	堀川 新吾	准教授	相川 奈美
経済学部	教授	伊藤 健司	准教授	名和 洋人
理工学部	教授	古川 裕之	准教授	片桐 誠之
情報工学部	准教授	米澤 弘毅	准教授	宇佐見 庄五
農学部	准教授	村野 宏達	教授	林 利哉
薬学部	教授	大津 史子	教授	湯川 和典
都市情報学部	教授	酒井 順哉	教授	稲葉 千晴
人間学部	教授	岡戸 浩子	准教授	西山 亮二
外国語学部	教授	ポール・ウィキン	助教	萩藤 大明
総合学術研究科	准教授	神藤 定生		
教職センター	教授	竹内 英人		
学務センター	事務部長	犬飼 斉		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

令和4年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

【教育支援専門委員会（12名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	座長
法学部	教授	渡邊 亙	
経営学部	准教授	相川 奈美	
経済学部	准教授	名和 洋人	
理工学部	准教授	片桐 誠之	
情報工学部	准教授	宇佐見 庄五	
農学部	教授	林 利哉	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	稲葉 千晴	
人間学部	准教授	西山 亮二	
外国語学部	助教	萩藤 大明	
学務センター	事務部長	犬飼 齊	

【FD・SD専門委員会（14名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	
学務センター	センター長	山本 雄吾	
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	教授	堀川 新吾	
経済学部	教授	伊藤 健司	座長
理工学部	教授	古川 裕之	
情報工学部	准教授	米澤 弘毅	
農学部	准教授	村野 宏達	
薬学部	教授	大津 史子	
都市情報学部	教授	酒井 順哉	
人間学部	教授	岡戸 浩子	
外国語学部	教授	ポール・ウィキン	
総合学術研究科	准教授	神藤 定生	
教職センター	教授	竹内 英人	

令和4年度 大学教育開発センター委員会活動記録

- [第1回 令和4年4月7日(木)]

【はじめに】

1. 大学教育開発センター委員会について
 - (1) 令和4年度委員について
 - (2) 令和4年度開催日程について
 - (3) 令和4年度委員会欠席の際の取り扱いについて(委任状)

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 令和3年度 大学教育開発センター委員会(第11回)

【審議事項】

1. 令和4年度副委員長の選出について
2. 令和4年度委員会活動について
 - (1) 令和4年度事業活動計画(大学教育開発センター)について
 - (2) 令和4年度専門委員会の設置について
3. 院高度化費について
 - (1) 令和4年度院高度化費の使途及び予算配分額について
 - (2) 令和4年度大学院生研究助成(A)・(B)の募集要項、申請書等について
 - (3) 令和4年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査方法・項目について
 - (4) 令和4年度大学院生研究助成(A)・(B)申請学生リストについて
 - (5) 令和4年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当及び審査スケジュールについて
 - (6) 令和4年度大学院生FD企画参加(プレFD)の助成について
4. 令和4年度新任教員FD・SD研修会の開催について

【報告事項】

1. 令和4年度入学者向けMECプログラムの最終報告について
2. 令和4年度学習サポートルーム相談員の一次募集結果及び二次募集について
3. 令和4年度前期名城サプリメント教育シラバスについて
4. 令和4年度名城サプリメント教育・学習サポートルームの周知について

- [第2回 令和4年5月12日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第1回)

【審議事項】

1. 各学部・研究科等におけるFD・SD取組を推進する組織の活動について
2. 令和4年度FD・SDフォーラム/FD・SD学習会の年間予定について
3. 令和4年度前期授業改善アンケートについて

4. 授業改善アンケート結果データの利用願いについて（外国語学部）

5. 令和4年度FD・SD活動の刊行物の発刊について

【報告事項】

1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について

2. 令和4年度大学院生研究助成（A）・（B）の審査担当について

3. 令和4年度大学院生研究助成（A）・（B）の申請状況、審査スケジュールについて

• [第3回 令和4年6月2日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第2回）

【審議事項】

1. 令和4年度大学院生研究助成の採択者決定について

2. 令和4年度名城大学教育年報（教育実践報告）募集要項について

3. 第16回FD・SD学習会の実施について

【報告事項】

1. 令和4年度新任教員FD・SD研修会の実施報告について

• [第4回 令和4年7月7日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第3回）

【審議事項】

1. 令和5年度入学前オリエンテーションについて

2. 令和5年度MECプログラムについて

【報告事項】

1. 令和4年度前期授業改善アンケートの実施について

【その他】

1. 第17回FD・SD学習会「アクティブラーニング型授業としての反転授業」の実施について

• [第5回 令和4年8月2日（火）】【メール開催】

【審議事項】

1. 第17回FD・SD学習会の実施について

• [第6回 令和4年9月1日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第4回、第5回）

【審議事項】

1. 令和4年度後期名城サプリメント教育・学習サポートルームの実施について
2. 各学部・研究科におけるFD・SD活動報告書（中間）の作成について

【報告事項】

1. 令和4年度前期名城サプリメント教育の実績報告について
2. 令和4年度前期学習サポートルームの実績報告について
3. 令和4年度前期授業改善アンケート集計結果報告について
4. 第16回FD・SD学習会の実施報告について

【その他】

1. 第17回FD・SD学習会の実施について
2. 令和5年度以降における名城サプリメント教育の実施方法について
3. 理工学部教育改善委員会からの報告（MECプログラム）について

• [第7回 令和4年10月6日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第6回）

【審議事項】

1. 令和4年度教育功労賞の募集について
2. 令和5年度学修成果の把握にむけた外部調査実施の希望聴取について
3. 令和4年度後期授業改善アンケートの実施について
4. 第24回FD・SDフォーラムについて
5. 名城大学教育年報 投稿原稿 基本チェックリストについて
6. FDに係る学生意見聴取の実施について

【報告事項】

1. 令和4年度前期授業改善アンケート結果について
2. 第17回FD・SD学習会の実施報告について

• [第8回 令和4年11月10日（木）]

【確認事項】

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第7回）

【審議事項】

1. 授業改善アンケート結果データの利用願いについて（理工学部）
2. 令和5年度入学後学習支援「スタディサプリ」の導入について

【報告事項】

1. 令和5年度入学者向け 入学前オリエンテーションについて
2. 令和5年度入学者向け MECプログラムについて
3. 令和5年度学修成果の把握に係る外部調査実施の希望聴取結果について

• [第9回 令和4年12月1日(木)]【メール開催】

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第8回)

【報告事項】

1. 令和4年度後期授業改善アンケートについて
2. 教育年報投稿結果及び原稿確認依頼・今後のスケジュールについて
3. 各学部・研究科におけるFD・SD活動報告書(最終)の作成について
4. FDに係る学生意見聴取の実施結果について
5. 第24回FD・SDフォーラムについて
6. 令和5年度事業計画書について

• [第10回 令和5年1月5日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第9回)

【審議事項】

1. 令和4年度教育功労賞審査について
2. 令和5年度入学後学習支援「スタディサプリ」の導入について

【報告事項】

1. 大学コンソーシアム京都「第28回FDフォーラム」の開催案内について

【その他】

1. 名城大学 第24回FD・SDフォーラムについて

• [第11回 令和5年3月2日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第10回)

【審議事項】

1. 令和5年度名城サプリメント教育及び学習サポートルームの実施について
2. 令和5年度学習サポートルーム相談員の募集について
3. FDニュース Vol.17の発刊について
4. 開学100周年事業「教育プログラム開発部会」ミッションにおける「入学前自校教育」の動画制作について

【報告事項】

1. 令和4年度後期名城サプリメント教育の実績報告について
2. 令和4年度後期学習サポートルームの実績報告について
3. 大学教育開発センター刊行物の編集状況について
 - (1) 名城大学教育年報
 - (2) FD・SD活動報告書

4. 学修成果の可視化に係る外部調査の予算配布について
5. PROG テストの新サービスについて
6. 令和4年度後期授業改善アンケート回答結果報告について
7. 令和4年度大学教育開発センター委員会の活動報告について
8. 第24回 FD・SD フォーラムの実施報告について

3. 令和4年度 FD・SD活動一覽

令和4年度 FD・SD 活動一覧

1. 第24回 FD・SD フォーラム

日 時：令和5年1月13日（金）10：00～12：00

開催方法：Zoomによるオンライン開催

基調講演テーマ：データサイエンス教育の現状と展望

基調講演講師：竹村 彰通 氏（国立大学法人 滋賀大学 学長）

事例報告テーマ：名城大学における『データサイエンス・AI入門』

事例報告講師：勝浦 正樹 氏（名城大学 経済学部 教授、キャリアセンター長）

参加者数：143人

2. 第16回～第17回 FD・SD 学習会

（1）第16回 FD・SD 学習会

日 時：令和4年7月15日（金）16：00～17：20

開催方法：Zoomによるオンライン開催

テ ー マ：GPS-Academic を活用した学修成果の可視化と活用について

講 師：藤井 公雄 氏（株式会社ベネッセiキャリア 大社接続営業部西日本営業課 課長）

参加者数：70人

（2）第17回 FD・SD 学習会

日 時：令和4年9月12日（月）10：30～12：00

開催方法：Zoomによるオンライン開催

テ ー マ：アクティブラーニング型授業としての反転授業

講 師：角田 和巳 氏（芝浦工業大学 工学部 教授）

参加者数：108人

3. 新任教員 FD・SD 研修会

日 時：令和4年5月6日（金）16：30～18：00

開催方法：対面開催

テ ー マ：実践！遠隔講義に役立つ Google サービス

講 師：山田 宗男 氏（名城大学 副学長、大学教育開発センター長、情報工学部 教授）

旭 健作 氏（名城大学 情報工学部 准教授）

参加者数：18人

4. 令和4年度前・後期授業改善アンケート

実施期間：前期…令和4年7月1日～令和4年7月26日

後期…令和4年12月12日～令和5年1月16日

対象科目：学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師について、原則1人1科目以上対象

科目を持つこととし、昨年度（令和3年度）前・後期にアンケートを実施した授業科目を中心として対象科目を設定した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業科目のうち、最も履修者数が多いものを対象科目とした。（ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く）

実施科目数：前期783科目（学生回答数：延べ28,670件）

後期788科目（学生回答数：延べ20,776件）

概要：学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的に実施した。アンケートはLMSであるWebClass上で実施。集計結果は教員個人にフィードバックするほか、分析結果を報告書としてまとめ、学内及びホームページにて公開している。

5. 名城大学 FD NEWS

（Vol.17）発刊日：令和5年3月

内容：数理・データサイエンス・AI教育の展望

6. 名城大学教育年報 第17号発刊

発刊日：令和5年3月

投稿資格：名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

概要：本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を募集、教育功労賞受賞者による特別寄稿を依頼した。投稿・寄稿された原稿は、大学教育開発センターの専門委員会委員によるチェックを経たうえで、本学ホームページ上に掲載する。教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

区分	令和4年度件数	内容等
特別寄稿	1件	教育功労賞受賞者による特別寄稿
教育実践報告	7件	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他大学の学部・研究科・センター・部署の参考になる報告

7. 令和4年度FD・SD活動報告書発刊

発刊日：令和5年3月

概要：令和4年度の本学におけるFD・SD活動についてまとめたもの。本学ホームページ上に掲載する。

8. 教育功労賞表彰

概要：教育功労賞は、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ（事務職員を含む）に授与するもの。令和4年度は計3件の申請があり、大学教育開発センター委員会による審査を経て、大学協議会で協議の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとする。

【令和4年度教育功労賞受賞一覧】

1. 教育功労賞受賞者

NO.	氏名・グループ名	所属学部等	活動・テーマ
1	宮田 喜久子	理工学部	実践的教育機会の実現支援と高大連携教育による次世代の育成
2	新学部検討ワーキンググループ (カリキュラム関係)	情報工学部	情報工学部設置に伴う「柔軟な学びのフレームワーク」の提案と実装

2. 特別教育功労賞受賞者

NO.	氏名・グループ名	所管部署	活動・テーマ
1	「データサイエンス・AI入門」 科目運営委員会及びワーキング グループ	大学教育 開発センター 学務センター	「データサイエンス・AI入門」の構想および運営

9. 令和4年度学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センター把握分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
1	令和4年 4月26日	2022年度臨時総会	全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPF)	1名
2	4月27日	河合塾グループ KEI アドバンス×QS社『2022年版 科目別 QS 世界大学ランキングから見えるもの』	河合塾グループ 株式会社 KEI ア ドバンス QS パートナー事務局	1名
3	5月17日	大学 IR リスキリング特別講座	株式会社ビズアップ総研	1名
4	5月17日	「教学マネジメントと質保証の実質化方策」セミナー	地域科学研究会 高等教育情報センター	1名
5	6月4日 ～5日	大学教育学会 第44回大会	一般社団法人 大学教育学会	2名
6	6月18日	全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPF) 2022年度総会・シンポジウム	全国私立大学 FD 連携フォーラム	2名

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
7	6月30日	第1回データサイエンス・AI授業実践研究ワークショップ	公益社団法人 私立大学情報教育協会	2名
8	6月30日	第4回 GPS-Academic 全国データ報告セミナー	株式会社ベネッセ i キャリア	1名
9	8月25日	2022年度 ICT 利用による教育改善研究発表会	公益社団法人 私立大学情報教育協会	3名
10	9月9日	Campus-Xs 事例セミナー	富士通 Japan 株式会社	1名
11	9月15日	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル/応用基礎レベル）」説明会	文部科学省高等教育局専門教育課	2名
12	9月13日	東海デジタル人材育成プラットフォーム 第1回総会	名古屋大学 教育企画課教育改革係 数理・データ科学教育研究センター事務担当	3名
13	9月26日	高等教育活性化シリーズ444	地域科学研究会・高等教育情報センター	1名
14	10月15日	大学はなぜ動けないのか#4	株式会社マインドシェア	5名
15	10月28日	教育改革事務部門管理者会議	公益社団法人 私立大学情報教育協会	1名
16	12月2日	教育の質保証実践セミナー	学びと成長しくみデザイン研究所	1名
17	12月6日	東海地区大学教育研究会 代表者会・研究大会	東海地区大学教育研究会	1名
18	令和5年 2月14日	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 2022年度関東ブロック 第3回ワークショップ	数理・データサイエンス・AI教育 強化拠点コンソーシアム 関東ブ ロック	1名
19	2月18日 2月23~25日	2022年度 第28回 FD フォーラム	大学コンソーシアム京都	4名
20	3月4日	大学教育改革フォーラム in 東海2023	大学教育改革フォーラム in 東海 2023 実行委員会	4名
21	3月7日	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」説明会	文部科学省高等教育局専門教育課	3名
22	3月22日	eポートフォリオによる学習成果の可視化コンソーシアム 第2回フォーラム	eポートフォリオによる学習成果 の可視化コンソーシアム	2名

4. 令和4年度 正課外教育活動一覽

令和4年度正課外教育活動一覧

1. 令和5年度入学者向け 入学前オリエンテーション

(1) 概要

- ・対象者：総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試の合格者を対象とし、以下の方法で実施。
- ・視聴・出席人数：802名（令和5年2月13日時点）

学部名	期間	方法	出席人数
法学部	12/9～3/31	学部HP	100名
経営学部	12/9～3/31	YouTube	132名
経済学部	12/9～3/31	YouTube	110名
理工学部	12/9～3/31	YouTube	160名
農学部	1/7	Zoom	68名
薬学部	12/9～3/31	YouTube	42名
都市情報学部	12/9～3/31	YouTube	50名
人間学部	12/9～3/31	YouTube	52名
外国語学部	1/7	Zoom	60名
情報工学部	1/7	Zoom	25名

(2) アンケート結果

質問1. 入学前オリエンテーションについて伺います。あなたは、主にどのような方法で視聴・参加されましたか？

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
スマートフォン	91.0%	93.2%	93.6%	88.8%	41.2%	83.3%	90.0%	92.3%	46.0%	40.0%
パソコン	5.0%	4.5%	6.4%	9.4%	38.2%	11.9%	6.0%	5.8%	42.9%	36.0%
その他	4.0%	2.3%	0.0%	1.9%	20.6%	4.8%	4.0%	1.9%	11.1%	24.0%

質問2. 学部・学科の学びについて理解できましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	66.0%	52.3%	51.8%	54.4%	66.2%	71.4%	68.0%	50.0%	69.8%	40.0%
ややそう思う	33.0%	47.0%	45.5%	42.5%	33.8%	28.6%	32.0%	48.1%	30.2%	60.0%
どちらともいえない	1.0%	0.0%	2.7%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.8%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 3. 大学と高校の違いについて理解できましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	76.0%	72.7%	77.3%	73.1%	91.2%	90.5%	72.0%	65.4%	76.2%	72.0%
ややそう思う	24.0%	25.8%	21.8%	26.3%	8.8%	9.5%	28.0%	34.6%	23.8%	28.0%
どちらともいえない	0.0%	0.8%	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 4. 大学で学びたい学問について考えるようになりましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	69.0%	56.8%	57.3%	66.3%	80.9%	71.4%	68.0%	67.3%	77.8%	56.0%
ややそう思う	31.0%	43.2%	37.3%	33.1%	19.1%	28.6%	32.0%	28.8%	22.2%	44.0%
どちらともいえない	0.0%	0.0%	5.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 5. 大学入学前に、高校までの学習の復習が必要だと感じましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	76.0%	80.3%	72.7%	85.0%	80.9%	90.5%	72.0%	76.9%	77.8%	84.0%
ややそう思う	23.0%	18.9%	24.5%	12.5%	17.6%	9.5%	26.0%	21.2%	17.5%	8.0%
どちらともいえない	1.0%	0.8%	1.8%	1.9%	1.5%	0.0%	2.0%	1.9%	4.8%	4.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 6. クラブ・サークル活動に興味関心を持つことができましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
とても興味関心を持った	55.0%	49.2%	56.4%	50.0%	67.6%	52.4%	60.0%	57.7%	60.3%	64.0%
やや興味関心を持った	35.0%	43.9%	34.5%	44.4%	30.9%	40.5%	40.0%	38.5%	28.6%	32.0%
どちらともいえない	7.0%	6.8%	9.1%	5.0%	1.5%	4.8%	0.0%	3.8%	7.9%	4.0%
あまり興味関心を持てなかった	3.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%
全く興味関心を持てなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 7. 入学前オリエンテーションを振り返って、全体として満足しましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	66.0%	62.1%	62.7%	65.6%	76.5%	76.2%	70.0%	67.3%	73.0%	72.0%
ややそう思う	31.0%	35.6%	33.6%	32.5%	22.1%	23.8%	30.0%	30.8%	25.4%	28.0%
どちらともいえない	3.0%	1.5%	2.7%	1.9%	1.5%	0.0%	0.0%	1.9%	1.6%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2. 令和5年度入学者向け入学前学習プログラム（MECプログラム）

（1）概要

本学の総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試に合格後、学習習慣を維持するとともに、入学後に大学での学習を円滑に開始するための一助とすることを目的とした教育プログラム。「共通課題」、「通信教育教材」、「自己学習テキスト」で構成されている。

◆ MECプログラム学部別開講科目一覧

【表の見方】◎…学部推奨 ○…開講

学部別開講科目		法 学部	経営 学部	外国語 学部	人間 学部	都市情報 学部	情報工 学部	理工 学部	農 学部	薬 学部
科目	学習内容（概要）									
日本語表現 （レポート作成技法）	大学で必要となる 「読む・書く」の基本	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
英語	英語の基礎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	Reading I （初級）	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	Reading II （中級）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
数学	数学（文系）	◎	◎		◎	◎				
	数学（理系） ＜基礎＞						◎	◎	○	
	数学（理系） ＜応用＞						◎	◎	○	
	数学（薬）									◎
物理	物理（理系） ＜基礎＞						◎	◎	○	
	物理（理系） ＜応用＞						◎	◎	○	
	物理（薬）									◎
化学	電子配置・化学結合等						◎	◎		
生物	細胞・遺伝子・呼吸等							◎	◎	

※1 上記から2科目選択。

※2 経済学部は、MECプログラムは未開講（学部独自の入学前教育を実施）。

(2) 受講者の選択科目状況（令和5年2月6日時点）

学部名	対象者数	受講者数	申込率	選択された科目※2					
				日本語表現 (レポート作成技法)	英語	数学	物理	化学	生物
法学部	257名	101名	39.3%	89.1%	97.0%	13.9%	—	—	—
経営学部	228名	114名	50.0%	52.6%	87.7%	59.6%	—	—	—
理工学部	497名	206名	41.4%	8.3%	25.2%	73.8%	80.6%	12.1%	—
農学部	172名	42名	24.4%	—	59.5%	9.5%	7.1%	73.8%	50.0%
薬学部	77名	54名	70.1%	—	—	88.9%	74.1%	—	37.0%
都市情報学部	102名	62名	60.8%	43.5%	83.9%	72.6%	—	—	—
人間学部	109名	40名	36.7%	80.0%	80.0%	40.0%	—	—	—
外国語学部	101名	34名	33.7%	100.0%	100.0%	—	—	—	—
情報工学部	89名	30名	33.7%	13.3%	30.0%	73.3%	83.3%	—	—
合計	1632名	683名	41.9%	264名	402名	369名	234名	56名	41名

※1 経済学部は学部独自の入学前教育を実施

※2 科目は英語で3種類、数学で4種類、物理で3種類のレベルがあるが、1科目として集計

(3) 実施内容

課題区分	ご自宅到着予定日	提出締切日	返却予定日
共通課題	12/20（火）～	1/24（火）	2/23（木）～
通信教育 教材 (3回分)	2/1（水）～	第1回：2/8（水）	第1回：2/23（木）～
自己学習 テキスト		第2回：2/16（木）	第2回：3/3（金）～
		第3回：2/24（金）	第3回：3/11（土）～
提出不要 ※日本語表現（レポート作成技法）選択者のみ提出有 3/17（金）締め切り			

3. 名城サプリメント教育

(1) 概要

本学の専門教育を履修する上で特に重要な内容であるにもかかわらず、高等学校段階において未履修、もしくは学習が不十分な教科・科目について補習を行い、正課における学修の充実を図る教育プログラム。

〈開講科目〉

科目名称	開講期・曜日・時間（キャンパス）		実施回数	参加者数※
レポート書き方 入門	前期	水曜日 16:30～18:00（天白）	13回	37名
		木曜日 16:30～18:00（ナゴヤドーム前）	13回	18名
	後期	水曜日 16:30～18:00（天白）	13回	19名
		木曜日 16:30～18:00（ナゴヤドーム前）	13回	2名
化学	前期	月曜日 16:30～18:00（天白）	13回	34名
	後期	月曜日 16:30～18:00（天白）	13回	7名
生物	前期	木曜日 16:30～18:00（天白）	13回	10名
	後期	木曜日 16:30～18:00（天白）	13回	1名
数学	前期	月曜日 16:30～18:00（天白）	13回	14名
	後期	月曜日 16:30～18:00（天白）	13回	10名
物理	前期	火曜日 16:30～18:00（天白）	13回	34名
	後期	火曜日 16:30～18:00（天白）	13回	9名
薬学部向け物理	前期	金曜日 16:30～18:00（八事）	10回	475名

※参加者数は延べ人数

〈実施期間〉

前期：令和4年4月20日～7月26日

後期：令和4年9月21日～12月26日

4. 学習サポートルーム

(1) 概要

主に学部生の学びに関する相談を受け付ける窓口。大学教育開発センター委員会にて選考した大学院生を在室させ、時間割を組むことにより、授業時間中は安心して相談できる体制を構築している。Zoom による遠隔相談を選択できる形でも実施している。

〈開室時間帯〉

	前期	後期
天白キャンパス	月～金：10：50～16：20	月・火・水・金：10：50～16：20 木：12：30～16：20
ナゴヤドーム前 キャンパス	月：13：10～14：40 火・木・金：10：50～12：20 13：10～14：40	月：10：50～14：40 火：10：50～16：20 水：14：50～16：20 木：13：10～14：40 金：10：50～16：20

(2) 利用者数延べ数

天白キャンパス	前期（令和4年4月20日～7月26日）	32名
	後期（令和4年9月21日～12月26日）	13名
ナゴヤドーム前 キャンパス	前期（令和4年4月20日～7月26日）	10名
	後期（令和4年9月21日～12月26日）	1名

(3) 相談内容（利用実績）

- レポート・卒業論文に関する相談
- 計算問題に関する相談
- 学習計画に関する相談

**5. 令和4年度
各学部・研究科等における
FD・SD 活動報告**

各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD・SD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員（教務委員、学生委員の兼任を含む）、FD・SD 委員
法学研究科	FD・SD 研究会	修士課程部会および博士後期課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD・SD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、キャリア委員、教務委員、大学教育開発センター委員、担当委員
経営学研究科	研究科委員会	経営学研究科長、主任教授、経営学部協議員、経営学研究科長が指名した者
経済学部	経済学部 FD・SD 委員会	経済学部長、協議員、経済学科長、産業社会学科長、教務委員
経済学研究科	経済学研究科 FD・SD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	理工学部 教育改善委員会	委員長、学科委員（11名）、教養教育委員、物理教室委員、教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員（2名）、事務職員（2名）
理工学研究科	理工学研究科 教育改善委員会	委員長、専攻委員（11名）、教養教育委員、物理教室委員、教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員（2名）、事務職員（2名）
情報工学部	情報工学部 FD・SD 委員会	委員長（情報工学部長）1名、委員4名、担当事務職員1名
農学部	農学部 FD・SD 委員会	農学部 FD・SD 委員を中心とする農学部関係教職員（生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づける）
農学研究科	農学研究科 FD・SD 委員会	農学研究科大学院運営委員会（農学研究科主任教授、農場長、生物資源学科長、応用生物化学科長、生物環境科学科長、農学部学務担当職員で構成）
薬学部	薬学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、前 FD・SD 委員長、教務係事務職員1名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD・SD 委員会	薬学研究科主任教授、FD・SD 委員2名、大学院担当事務職員1名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD・SD 委員会	委員長、委員3名、担当事務職員1名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	委員長（主任教授）、委員4名、担当事務職員1名
人間学部	人間学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、FD・SD 委員（4名）、教務事務職員1名
人間学研究科	人間学研究科 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長（主任教授）、FD・SD 委員（3名）、教務事務職員1名
外国語学部	外国語学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員会委員長、FD・SD 委員会委員（4名）
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎景山伯春教授 ○伊藤康児教授 衣斐大祐准教授 志村ゆず准教授、神藤定生准教授
教職センター	教職センターFD 推進委員会	竹内英人（教授・大学教育開発センター委員会委員）、谷口正明（教授・教職センター）

2. 今後の課題、方向性

本学部においては、とりわけ初年次教育研究会を中心としたFD・SD活動が定着しつつあり、教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。したがって、基本的には大きく体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年 4月1日～5月30日	GPS-Academicの実施	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
2	令和4年9月22日	授業運営のあり方という観点からの 成績基準の平準化にかかる検討	FD	【出席者】 伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、近藤、佐藤（一）、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 日比野、平井、前田、松田（恵）、 松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、吉行、 渡邊、高橋、田中、山田、米田、 代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、 萩野、長谷川、山口、山下、足立、 久米、佐藤（純）、仲（計40名）
		GPのより良い制度設計についての検討	SD	
3	令和5年1月10日	小論文講評会の実施	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
4	令和5年1月26日	ハラスメント講習会の実施	SD	【出席者】 伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、近藤、佐藤（一）、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 日比野、平井、前田、松田（恵）、 松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、吉行、 渡邊、高橋、田中、山田、米田、 代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、 萩野、長谷川、山口、山下、足立、 久米、佐藤（純）、仲（計40名）
5	令和5年3月10日	・能動的学修を促す授業手法について 〔第1回初年次教育研究会〕	FD	【出席者】 伊川、植木、仮屋、河北、北見、 近藤、庄村、二本柳 【対象】 前田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、 渡邊、代田、滝谷、仁井田、萩野、 長谷川、山口、山下、足立、久米 (計22名)
		・初年次生における文章作成能力の 現状について ・GPS-Academicから見る初年次生 の現状について 〔第1回初年次教育研究会〕	SD	

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 法学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

令和3年度から、法学研究科内に「大学院委員会」と「FD・SD研究会」を発足させた。3ポリシーの検討・これに基づく研究科の運営（教務・入試など）・関連する制度の検討や見直しについては、「学部等評価委員会」または「大学院委員会」で予備的な審議を行った上で、従来どおり「研究科委員会」で審議を行うこととした。これとは別に、「教育の質保証」やコースワーク・リサーチワークに関する各教員の取り組みなど、純粹にFD・SD活動に分類される内容について、「FD・SD研究会」で情報の共有や検討を行うこととした。また、今年度からは、同研究会における活動について、FDとSDを明確に分けることとした。

以下は、この「FD・SD研究会」の記録のみを報告する。

2. 今後の課題、方向性

今年度のFD・SD研究会で明らかになった課題は、何より、各教員による教育活動の改善に資することが期待される。加えて、研究科全体の運営に関わる課題については、翌年度の事業計画書に反映させ、翌年度に順次、「学部等評価委員会」または「大学院委員会」での審議を経て、「研究科委員会」で審議する。

FD・SD活動自体の課題としては、第1に、今年度に続き来年度も適宜「FD・SD研究会」を開催し、「教育の質保証」や各教員の教育活動に関する情報と課題の共有を行う。第2に、平成31年度より変更となった博士後期課程のカリキュラム（コースワークとリサーチワークの区分の明確化を柱とする）が、令和3年度をもって完成年度を迎えたため、令和4年度以降、その効果を検証し、必要があれば、令和5年度以降にカリキュラム改正に関する議論を行う。第3に、令和2年度より変更となった修士課程のカリキュラムが、令和4年度をもって完成年度を迎えるため、令和4年度以降、その効果を検証し、必要があれば、令和5年度以降にカリキュラム改正に関する議論を行う。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年11月24日	第1回 FD・SD 研究会 【FD】 1. 修士論文中間報告会・博士論文公聴会 2. 博士後期課程のコースワーク（平成31年度導入）とリサーチワーク 3. ディプロマポリシーとシラバス（成績評価基準の平準化に係る検討を含む）	FD	伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、仮屋、河北、川元、北見、近藤、佐藤（一）、庄村、高松、西村、二本柳、野口、日比野、平井、前田、松田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、吉行、渡邊、川原、代田、杉浦、滝谷、仁井田、萩野、山口、山下（計32名）
2	令和5年2月15日	第2回 FD・SD 研究会 【FD】 1. 学生の学修時間確保のための方策 2. 修了生のコースワークについて 3. 修了生のリサーチワークについて 4. その他（大学院教育・研究の質保証） 【SD】 1. 修士課程カリキュラム（令和2年度～）の検証 2. その他	FD・SD	伊川、伊藤（亮）、伊藤（博）、植木、仮屋、河北、北見、川元、近藤、佐藤、庄村、高松、西村、二本柳、野口、日比野、平井、前田、松田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、吉行、渡邊、笹岡、代田、杉浦、川原、滝谷、仁井田、長谷川、山下、山口（計33名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

①学修成果を可視化する取組

- ・2022年度第2回経営学部FD・SD研修会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施を決定した。
- ・2022年度第4回経営学部FD・SD研修会において、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施形態、実施体制と役割分担、受験対象、周知方法について決定した。
- ・経営学部懇談会の援助によって、簿記・情報処理・TOEIC他の各種資格取得を促している。
- ・専門ゼミナール単位での、インゼミ他に参加することを支援している。

②学部独自の取組

(i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、多様な学修経験に関する取組

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の資金的支援によって、「産官学」連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出、「ビジネスモデル」をキーワードとした創造的課題解決能力の育成事業、女子学生のキャリア形成支援事業、「会計実務能力」の形成などの事業を実施した。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで、企業訪問を行う予算を実験実習費で措置している。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで、企業の方を外部講師として招く予算を実験実習費で措置している。
- ・基礎ゼミナールの一部において、FSP講座を導入し、入学初年度から、実際の企業の現場での課題に触れる機会を持ち、大学での学びについて主体的に考えるよう促している。
- ・FSP講座を4社の協力により「基礎ゼミナール」(1年配当)4クラスで実施した。
- ・地元企業と協働で「(特I)キャリア特論」を開講し学生16名が参加した。
- ・「輝く女性講演会」等の行事として講演会およびマナー講座を実施した。
- ・アカデミック・ハラスメント事例をもとにハラスメント研修会を実施した。

(ii) カリキュラム改正検討委員会の設置

- ・現行カリキュラムの問題点を検討し、より質の高い教育を可能とするカリキュラムの策定を行うためにカリキュラム改正検討委員会を設置し、議論を進めている。

2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産学連携を可能とする（特定の個人に依存しない）制度的な受け皿の形成が課題と

なっている。そして、学部の取組については、今後も PDCA サイクルを推進する組織として、FD・SD 委員会と GP 等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育について FD・SD 活動を進めていく。

同委員会は、学部長・協議員・両学科長・キャリア委員・教務委員・FD 委員（オブザーバーとして事務長）をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部の GP/FD・SD 活動の年度計画の PDCA 活動を行うとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【FD・SD 研修会】 2022年度 第1回 令和4年4月14日	ハラスメント防止研修について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：東、堀畑には別途資料配布）（計29名）
2	【教授会】 第1回 令和4年4月14日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：東、堀畑には別途資料配布）（計29名）
3	【教授会】 第2回 令和4年4月28日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（計31名）
4	【教授会】 第4回 令和4年5月26日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	伊藤、瀬川、田澤、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：田代には別途資料配布）（計30名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	【FD・SD研修会】 2022年度 第2回 令和4年5月26日	2021年度自己点検・評価報告書を踏 まえた本年度の課題について、学び のコミュニティ創出支援事業の支援 額について、2022年度経営学部「学 びのコミュニティ創出支援事業」募 集要項について、名城大学×ゆとりー とライン沿線活性化推進会議コラボ 企画について、キャリア特論につい て、FSPについて、輝く女性講演会 について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、鳥居、長尾、 橋場、榎野、柳田、相川、東、 五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、 大西、澤田（貴）、田中、西垣、 東田、堀川、堀畑、村松、山岡、 桑島、高山、中川、山本、深川、 木下（委任者：田代には別途資料 配布）（計30名）
6	【教授会】 第5回 令和4年6月9日	障がい等を理由とする修学支援につ いて	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、 五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、 大西、澤田（貴）、西垣、東田、 堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、 高山、中川、山本、深川、木下 （委任者：田中には別途資料配布） （計30名）
7	【教授会】 第6回 令和4年6月23日	令和5年度 学位授与方针对応表等 を用いた教育課程の自己点検の実施 について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、 五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、 大西、澤田（貴）、西垣、東田、 堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、 高山、山本、深川、木下（委任者： 田中、中川には別途資料配布） （計29名）
8	【FD・SD研修会】 2022年度 第3回 令和4年6月23日	学修成果の可視化、2021年度 PROG テスト（社会人基礎力測定検査）の 実施結果について、今後の課題と対 策	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、 五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、 大西、澤田（貴）、西垣、東田、 堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、 高山、山本、深川、木下（委任者： 田中、中川には別途資料配布） （計29名）
9	【教授会】 第8回 令和4年7月28日	障がい等を理由とする修学支援につ いて、令和5年度 学位授与方针对 応表等を用いた教育課程の自己点検 の実施について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、 長尾、橋場、榎野、相川、東、 五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、 大西、澤田（貴）、西垣、東田、 堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、 高山、中川、山本、深川、木下 （委任者：田中、柳田には別途資 料配布）（計29名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
10	【FD・SD研修会】 2022年度 第4回 令和4年7月28日	「『産官学』連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出」に関する募集案内について、「被災地の物産品販売を通じたマネジメント実習と復興支援活動」にかかるチャリティー・イベントについて、PROGテスト（社会人基礎力測定検査）の実施について、学修成果の可視化、FSPの実施報告について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：田中、柳田には別途資料配布）（計29名）
11	【FD・SD研修会】 2022年度 第5回 令和4年9月1日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について、今後の取り組みについて（GP/FD）、産学連携による現場触発型キャリア教育（キャリア特論）の実践、「産官学」連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出、被災地の物産品販売を通じたマネジメント実習と復興支援活動、女子学生のキャリア形成支援事業、マナー講座、「ビジネスモデル」をキーワードとした創造的課題解決能力の育成事業、PROGテストの実施	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：相川、堀川には別途資料配布）（計29名）
12	【教授会】 第10回 令和4年9月17日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（計31名）
13	【FD・SD研修会】 2022年度 第6回 令和4年9月17日	学びのコミュニティ創出支援事業による講演会、若者へのLEXUSブランド浸透プロジェクトについて	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（計31名）
14	【FD・SD研修会】 2022年度 第7回 令和4年10月13日	「『産官学』連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出」について（GP）、PROGテストの実施について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（計31名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
15	【教授会】 第12回 令和4年10月27日	障がい等を理由とする修学支援について	SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、新美、関、大西、澤田（貴）、田中、西垣、東田、堀川、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（計31名）
16	【FD・SD研修会】 2022年度 第8回 令和4年11月24日	学びのコミュニティ創出支援事業について、講演会「ビジネスモデル」をキーワードとした創造的課題解決能力の育成事業、輝く女子講演会、女子学生のキャリア形成支援事業、経営学部学びのコミュニティ創出支援事業関連行事、新規事業の申請について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、橋場、槇野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、関、大西、澤田（貴）、西垣、東田、堀畑、村松、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：田中、長尾、堀川、新美には別途資料配布）（計27名）
17	【FD・SD研修会】 2022年度 第9回 令和4年12月1日	PROGテストのフィードバックについて、株式会社アイシンとの産学連携によるPARS商品化アイデアの募集について、「マナー講座」の実施について、「ビジネスモデル・ワークショップ」の開催について	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、槇野、柳田、相川、東、五十畑、澤田（慎）、村上、関、大西、澤田（貴）、西垣、東田、堀川、山岡、桑島、高山、中川、山本、深川、木下（委任者：田中、村松、堀畑、新美には別途資料配布）（計27名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

①研究科独自の取組

- ・後期に修士論文事前報告会を実施。

2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、国内外で説明会を実施した。また、学生確保における日本語運用力問題解決の試みを含め、海外協定校および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討（予算措置含む）を行う。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年4月14日	令和4年度経営学研究科博士後期課程指導教員について、2022年度9月修了博士学位論文提出要領について	FD	伊藤、大西、澤田（貴）、瀬川、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、柳田（委任者には別途資料配布）(計14名)
2	令和4年4月14日	令和4年度経営学研究科修士課程指導教員について、2022年度（9月）修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、伊藤、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、山岡、山本（委任者：大西、中川、柳田には別途資料配布）(計18名)
3	令和4年5月12日	9月修了修士学位論文事前報告会について、令和5年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（委任者：澤田（慎）、田中、長尾には別途資料配布）(計18名)
4	令和4年5月26日	2022（令和4）年度大学院学業優秀奨学生候補者の選考について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、山岡、山本（委任者：田代、柳田には別途資料配布）(計19名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和4年6月9日	2022（令和4）年度大学院学業優秀奨学生候補者の選考について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（委任者：田中には別途資料配布）（計20名）
6	令和4年6月23日	2022年度後期追加（変更）履修登録について、令和4年度（9月修了）修士学位論文審査委員及び審査日程案、2023年度学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検について、2022年度秋季入学生オリエンテーションについて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（委任者：田中、中川には別途資料配布）（計19名）
7	令和4年7月14日	2022年度大学院奨学生（特別奨学生）対象者について、修了見込み外国人留学生の安全保障輸出管理に係る対応について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（委任者：田中には別途資料配布）（計20名）
8	令和4年7月28日	令和4年度（9月修了）修士学位論文審査および修了判定について、令和4年度（9月修了）課程博士学位論文審査結果の報告および学位授与の判定について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、山岡、山本（委任者：田中、柳田には別途資料配布）（計19名）
9	令和4年9月1日	令和4年度修士学位論文審査日程について	FD	五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、山岡、山本（委任者：相川、堀川には別途資料配布）（計19名）
10	令和4年9月17日	2022年度修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（計21名）
11	令和4年10月13日	2023年度経営学研究科（修士課程）時間割編成について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（委任者：田中には別途資料配布）（計20名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
12	令和4年10月27日	2023年度経営学研究科（修士課程）時間割編成について、2022年度経営学研究科修士学位論文事前報告会（案）について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（計21名）
13	令和4年11月10日	2023年度経営学研究科（修士課程）時間割編成について<継続>、2023年度シラバスの作成について、「MS-26戦略プラン（部署版）」「2023年度事業計画書（部署版）」について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山本（委任者：中川、山岡には別途資料配布）（計19名）
14	令和4年11月24日	令和4年度経営学研究科修士学位論文一覧について、「MS-26戦略プラン（部署版）」「2023年度事業計画書（部署版）」について	FD	相川、五十畑、伊藤、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、中川、西垣、橋場、東田、山岡、山本（委任者：大西、田中、鳥居、長尾、堀川、柳田には別途資料配布）（計15名）
15	令和4年12月1日	令和5年度経営学研究科（修士課程）入学試験出題委員等について、2023年度新入生オリエンテーション（案）について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（委任者：田中には別途資料配布）（計20名）
16	令和5年1月12日	令和5年度大学院入学試験出題（採点）委員等について、2023年度経営学研究科（修士課程）時間割（案）	FD	相川、五十畑、伊藤、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、山岡、山本（委任者：大西、田代、堀川には別途資料配布）（計18名）
17	令和5年1月21日	2023年度経営学研究科（修士課程）入学試験判定について、2022年度修士学位論文審査委員および審査日程案	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本（計21名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

2019年度末からの新型コロナウイルス感染症がいまだ収束には至っていない中、今年度の活動目標を「誰一人取り残さない」という考え方で、コロナ禍の状況に対応して、学生に十分な教育を提供する。また、コロナ禍を契機として広く普及した種々の新しいコミュニケーション手法について、授業等での一層の有効活用を目指す。」とした。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、10月から11月にかけて学部3年生を対象として「大学生調査ジェイ・サープ」を実施した。2月には集計結果を分析し、教育改善へとつなげた。

今年度は、学部のFD・SD懇談会を6回開催した。12月には障がい学生支援センター委員の協力を得て、「他大学における障がいのある方に対する取り組み状況」をテーマに懇談するなど、新たな試みをおこなった。そのほかにも教務委員会において、コロナ禍における授業実施方法、秋以降はアフターコロナにおける授業実施方法などについて継続的に検討し、教授会で認識の共有をおこなった。特にコロナ禍以降は年度初めの導入教育の重要性が増していると考えられるため、教務委員会を中心に次年度の（新入生のみならず）各学年向けのガイダンスについて検討を進めている。

大学教育開発センターの主催で開催された第16、17回FD・SD学習会に、それぞれ4名から5名の教員が参加した。名城大学FD・SDフォーラムに、10名の教員が参加した。

2. 今後の課題、方向性

今年度は、コロナ禍という状況の中で学生に必要な教育を提供することをFD・SD活動においても優先して進めてきた。活動目標にも、新しいコミュニケーション手法の有効活用なども含めて、それらの点を明記している。ただし、秋以降に行動制限が緩和されつつあることから、コロナ後の大学教育活動の充実を見据える必要も出てきている。この点の検討が今後の課題である。

学修成果を可視化する取組に基づく教育改善については、引き続き「大学生調査ジェイ・サープ」を実施する。大学で実施する学生アンケートや卒業時アンケートの結果ともあわせて、特に課題を把握することで教育改善につなげていく。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年5月6日	新任教員FD・SD研修会「実践！遠隔講義に役立つGoogleサービス」	FD	赤木（計1名）
2	令和4年5月23日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」（新年度の修正、更新）	SD	渋井、杉本、伊藤（志）、名和（計4名）
3	令和4年5月26日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD取組の推進組織一覧表の更新について」	SD	伊藤（志）、勝浦、川森、佐土井、谷村、西山（徹）、松尾、赤木、新井、大瀧、斎藤、神野、名和、蓑輪、焼田、伊藤（健）、井内、渋井、杉本、西山（賢）、山本、李、太田、門、小泉、山田、澤田、薄井（計28名）
4	令和4年7月15日	第16回FD・SD学習会「GPS-Academicを活用した学修成果の可視化と活用について」（大学教育開発センター）	FD	伊藤（健）、山本、谷村、名和（計4名）
5	令和4年9月8日 教授会	「教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について」	FD	伊藤（志）、勝浦、川森、佐土井、谷村、西山（徹）、松尾、赤木、新井、大瀧、斎藤、神野、名和、蓑輪、焼田、伊藤（健）、渋井、杉本、西山（賢）、山本、李、太田、門、小泉、山田、澤田、薄井（計27名）
6	令和4年9月12日	第17回FD・SD学習会「アクティブラーニング型授業としての反転授業」（大学教育開発センター）	FD	澤田、佐土井、伊藤（健）、山本、名和（計5名）
7	令和4年10月20日	経済学部FD・SD委員会「学修成果の把握に向けた外部調査の実施について」	FD	渋井、杉本、伊藤（志）、伊藤（健）、名和、薄井（計6名）
8	令和4年10月20日 ～11月18日	「大学生調査ジェイ・サーブ」実施	FD	-
9	令和4年11月24日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD活動報告（中間）、前期のFD・SD活動、後期のFD・SD活動」	SD	伊藤（志）、勝浦、川森、谷村、西山（徹）、野口、松尾、赤木、新井、大瀧、斎藤、名和、神野、蓑輪、伊藤（健）、井内、渋井、杉本、西山（賢）、山本、太田、門、小泉、山田、澤田、薄井（計26名）
10	令和4年12月15日	経済学部FD・SD懇談会「他大学における障がいのある方に対する取り組み状況」	SD	話題提供：小泉 出席者：川森、佐土井、谷村、西山（徹）、野口、松尾、赤木、新井、大瀧、神野、名和、焼田、伊藤（健）、井内、渋井、杉本、西山（賢）、李、太田、門、山田、澤田、薄井（計24名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和5年1月13日	第24回 名城大学 FD・SD フォーラム 「データサイエンス教育の現状と展望」(大学教育開発センター)	FD	講演者：勝浦 出席者：伊藤、名和、山本、谷村、 澤田、焼田、佐土井、薄井、水谷 (計10名)
12	令和5年1月24日	経済学部 FD・SD 委員会「FD・SD 活動報告(最終)」[大学生調査(ジェ イ・サーブ) 基礎分析報告書から考 える経済学部の教育]	SD	渋井、伊藤(健)、新井、名和、 薄井(計5名)
13	令和5年1月26日	経済学部 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告(最終)」[大学生調査(ジェ イ・サーブ) 基礎分析報告書から考 える経済学部の教育]	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、佐土井、 谷村、西山(徹)、赤木、新井、 大瀧、斎藤、神野、名和、蓑輪、 焼田、伊藤(健)、渋井、杉本、 西山(賢)、山本、太田、門、小泉、 山田、澤田、薄井(計25名)
14	令和5年2月10日	経済学部 FD・SD 委員会「学修成 果の可視化・評価・改善に向けて -「ジェイ・サーブ」と「学部ダッ シュボード」による検討を中心に-」 (学生の主体的な参加を促す授業形態 の検討、学修時間の状況把握と増加 策の模索)	FD	渋井、杉本、伊藤(志)、伊藤(健)、 新井、名和、薄井(計7名)
15	令和5年2月13日	経済学部 FD・SD 懇談会「学修成 果の可視化・評価・改善に向けて -「ジェイ・サーブ」と「学部ダッ シュボード」による検討を中心に-」 (学生の主体的な参加を促す授業形態 の検討、学修時間の状況把握と増加 策の模索)	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、佐土井、 谷村、西山(徹)、野口、赤木、 大瀧、斎藤、名和、蓑輪、焼田、 伊藤(健)、井内、渋井、杉本、 西山(賢)、山本、李、太田、門、 小泉、山田、澤田、薄井(計26名)
16	令和5年3月10日	経済学部 FD・SD 懇談会「対面授業 時における新しいコミュニケーショ ン手法の活用例」	FD	勝浦、川森、佐土井、谷村、西山(徹)、 野口、松尾、赤木、新井、大瀧、 名和、蓑輪、焼田、伊藤(健)、 井内、渋井、杉本、西山(賢)、 山本、太田、門、小泉、澤田、 薄井(計24名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

2019年度末からの新型コロナウイルス感染症がまだまだ収束には至っていない中、大学院経済学研究科では今年度の活動目標を「誰一人取り残さない」という考え方で、コロナ禍の状況に対応して、学生に十分な教育を提供する。また、コロナ禍を契機として広く普及した種々の新しいコミュニケーション手法について、授業等での一層の有効活用を目指す。」とした。今年度は、研究科のFD・SD懇談会を6回開催した。

研究科委員会では、学務センター・学部事務室・学内の様々な部署と協力して、継続的に状況把握に努め、情報を共有しつつ対応を進めた。また、学部と合同でFD・SD懇談会を継続的に開催した。

大学教育開発センターの主催で開催された第16、17回FD・SD学習会に、それぞれ4名の教員が参加した。名城大学FD・SDフォーラムに、9名の教員が参加した。

2. 今後の課題、方向性

今年度は、コロナ禍という状況の中で学生に必要な教育を提供することをFD・SD活動においても優先して進めている。活動目標にも、新しいコミュニケーション手法の有効活用なども含めて、それらの点を明記している。ただし、秋以降に行動制限が緩和されつつあることから、コロナ後の大学教育活動の充実を見据える必要も出てきている。本研究科は大学院生の人数が多いため、講義科目・演習科目の担当教員が日常的に連携することが、より重要と考えている。また、研究科でのFD・SD懇談会を継続的に開催して情報収集や意見交換、対応の協議をしていく。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和4年5月6日	新任教員FD・SD研修会「実践！遠隔講義に役立つGoogleサービス」	FD	赤木（計1名）
2	令和4年5月23日	経済学研究科FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」(新年度の修正、更新)	SD	渋井、西山（賢）、名和（計3名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
3	令和4年5月26日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 取組の推進組織一覧表の更新について」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、佐土井、谷村、西山(徹)、松尾、赤木、新井、大瀧、斎藤、名和、蓑輪、焼田、伊藤(健)、井内、渋谷、杉本、西山(賢)、門、山本、李、太田、山田、薄井(計25名)
4	令和4年7月15日	第16回 FD・SD 学習会「GPS-Academic を活用した学修成果の可視化と活用について」(大学教育開発センター)	FD	伊藤(健)、山本、谷村、名和(計4名)
5	令和4年9月12日	第17回 FD・SD 学習会「アクティブラーニング型授業としての反転授業」(大学教育開発センター)	FD	佐土井、伊藤(健)、山本、名和(計4名)
6	令和4年11月14日	経済学研究科 FD・SD 委員会「今年度後期の経済学研究科 FD・SD 懇談会として取り上げるべきテーマ」	SD	新井、名和、西山(賢)(計3名)
7	令和4年11月17日	「大学院内部推薦入試の説明会」(大学院の研究教育に関して学部生・大学院生・教員が情報交換などを目的として懇談実施)	FD	川森、谷村、名和、蓑輪、渋谷、焼田、薄井(計7名)
8	令和4年11月24日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告(中間)、前期のFD・SD 活動、後期のFD・SD 活動」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、谷村、西山(徹)、野口、松尾、赤木、新井、大瀧、斎藤、名和、蓑輪、伊藤(健)、井内、渋谷、杉本、西山(賢)、山本、太田、門、山田、薄井(計23名)
9	令和4年12月15日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「他大学における障がいのある方に対する取り組み状況」	SD	話題提供：小泉 出席者：川森、佐土井、谷村、西山(徹)、野口、松尾、赤木、新井、大瀧、名和、焼田、伊藤(健)、井内、渋谷、杉本、西山(賢)、李、太田、門、山田、薄井(計22名)
10	令和5年1月13日	第24回 名城大学 FD・SD フォーラム「データサイエンス教育の現状と展望」(大学教育開発センター)	FD	講演者：勝浦 出席者：伊藤、名和、山本、谷村、焼田、佐土井、薄井、水谷(計9名)
11	令和5年1月24日	経済学研究科 FD・SD 委員会「FD・SD 活動報告(最終)」	SD	渋谷、西山(賢)、新井、名和、薄井(計5名)
12	令和5年1月26日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告(最終)」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、佐土井、谷村、西山(徹)、赤木、新井、大瀧、斎藤、名和、蓑輪、焼田、伊藤(健)、渋谷、杉本、西山(賢)、山本、太田、門、山田、薄井(計22名)
13	令和5年2月10日	経済学研究科 FD・SD 委員会「学修成果の可視化・評価・改善に向けて」	FD	渋谷、西山(賢)、新井、名和、薄井(計5名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
14	令和5年2月13日	経済学研究科FD・SD懇談会「学修成果の可視化・評価・改善に向けて」	FD	伊藤（志）、勝浦、川森、佐土井、谷村、西山（徹）、野口、赤木、大瀧、斎藤、名和、蓑輪、焼田、伊藤（健）、井内、渋谷、杉本、西山（賢）、山本、李、太田、門、山田、薄井（計24名）
15	令和5年3月10日	経済学研究科FD・SD懇談会「対面授業時における新しいコミュニケーション手法の活用例」	FD	勝浦、川森、佐土井、谷村、西山（徹）、野口、松尾、赤木、新井、大瀧、名和、蓑輪、焼田、伊藤（健）、井内、渋谷、杉本、西山（賢）、山本、太田、門、薄井（計22名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善を推進し、学生が満足できる教育体制の構築を目的とした。具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。さらに、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム（FD・SD フォーラム）への参加を促した。また、各学科のFD・SD会議の活動を強化し、推進組織である本教育改善委員会で各学科のFD・SD会議議事録を集約した。今後、各学科FD・SD会議の活動内容を検討し、連携を図る。

「学生の学修成果を可視化する取組」としては、JSAAP、PROGを用いた外部機関による調査を行っている。ただし、理工学部には10の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、先にあげた2つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が独自に外部調査方法を選択し、実施している。選択した外部調査方法はJSAAP（数学科、材料機能工学科、機械工学科：以上3年次実施）、PROGテスト（電気電子工学科、応用化学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工学科、建築学科）である。将来的には理工学部全体として同一の学修成果調査方法を選定し、学科間で連携が取れるように各学科のFD・SD会議の母体となる教育改善委員会で検討を進めていきたい。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関しては更に発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンスコース）科目も開講している。入学時に、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断ができるように診断テストの点数により、これらの科目の活用を促すように指導した。

例年、数学相談室、物理相談室の運営状況は本委員会で報告され、実施結果等に基づき、今後の実施方法等について、検討を行っている。

2. 今後の課題、方向性

学修成果の追跡調査は、教育を改善していく上で重要な情報を与える。そのためには、複数年にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断している段階である。このような中で、FD・SDに取り組む教育改善委員会としては、学部全体としての方向性を示し、統一した学修成果可視化の調査が必要かどうかを検討する必要がある。今後の課題としたい。

現在、各学科のFD・SD会議は順調に機能しており、個々の課題解決に向けた検討がなされている。多様な学科から成る理工学部では、このような個別会議は重要な役割を果たす。しかし、それらを取りまとめる教育改善委員会では、共通の課題を設定して理工学教育の改善に反映していきたい。

3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和4年4月28日	令和4年度教育改善委員会名簿の確認および副委員長の任命について、令和4年度第1回 大学教育開発センター委員会報告について、令和4年度物理相談室及び名城サプリメント教育について、令和4年度理工学部および理工学研究科の事業計画について、東海工学教育協会 会員入会のご案内	FD・SD	児玉, 加鳥, 山中, 鍛冶, 田崎, 六田, 田中, 成田, 鈴木, 中村, 片桐, 三浦, 松村, 大久保 (教員計14名) 東海林, 藤井 (職員計2名)
2	令和4年5月11日 ～5月17日 [遠隔]	理工学部・研究科等におけるFD・SD取組の推進組織一覧表の確認について	FD・SD	児玉, 加鳥, 山中, 鍛冶, 田崎, 六田, 田中, 成田, 鈴木, 市川, 中村, 片桐, 三浦, 松村, 大久保 (教員計15名) 東海林, 藤井 (職員計2名)
3	令和4年7月28日	大学教育開発センターからの依頼事項, MECプログラムについて、令和5年度 入学前オリエンテーション学部企画書の作成について、第4回 大学教育開発センター委員会報告について	FD・SD	児玉, 加鳥, 山中, 鍛冶, 田崎, 六田, 田中, 成田, 鈴木, 市川, 片桐, 三浦, 松村, 大久保 (教員計14名) 藤井 (職員計1名)
4	令和4年10月13日	令和5年度予算要求について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について、令和5年度学修成果の把握に向けた外部調査実施の希望聴取について、令和4年度前期数学相談室の利用状況報告について、令和4年度FD・SD活動報告書(中間)について、令和5年度以降における名城サプリメント教育の実施方法について	FD・SD	児玉, 加鳥, 山中, 鍛冶, 田崎, 六田, 田中, 成田, 鈴木, 市川, 中村, 片桐, 三浦, 松村, 大久保 (教員計15名) 東海林, 藤井 (職員計2名)
5	令和4年12月22日	令和4年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告の作成について、大学設置基準等における教育課程等の特例制度の申請意向について	FD・SD	児玉, 加鳥, 山中, 鍛冶, 田崎, 六田, 田中, 成田, 鈴木, 市川, 中村, 片桐, 三浦, 松村, 大久保 (教員計15名) 東海林, 藤井 (職員計2名)
各学科 FD・SD 会議				
数学科 FD・SD 会議				
1	令和4年6月23日	学生のカンニング対応 試験への配慮を要する学生への対応	FD・SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計18名)
2	令和4年9月8日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計18名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和5年1月26日	休学・退学を希望する学生の対応について	FD・SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計18名)
電気電子工学科 FD・SD 会議				
1	令和4年6月23日	技術者倫理について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
2	令和4年7月7日	修士・卒研生の間接発表について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
3	令和4年7月21日	学業優秀賞学生について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
4	令和4年8月27日	2022年度前期三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
5	令和4年9月1日	ダッシュボードの活用について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
6	令和4年9月8日	GPA を用いた平準化について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
7	令和4年9月12日	反転授業について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
8	令和4年9月20日	大学電気工学教育研究について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
9	令和4年10月27日	遠隔授業について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
10	令和4年11月24日	卒業研究発表会・修士論文公聴会について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
材料機能工学科 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	入試総括, 入試動向分析, 将来問題・新学科構想, 実感教育の検討	FD	宇佐美, 成塚, 上山, 竹内, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 岩谷, 服部, 榎本, 赤堀 (計12名)
2	令和4年9月8日	前期成績を受けての学修行動に関する意見交換, 成績不良者対応, 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討	FD	宇佐美, 岩谷, 成塚, 上山, 竹内, 服部, 宮嶋, 今井, 赤堀, 六田 (計10名)
3	令和5年1月26日	1月16日(月)開催の第15回外部評価委員会の会議報告	FD	宇佐美, 成塚, 上山, 竹内, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 岩谷, 服部, 榎本, 赤堀 (計12名)
応用化学科 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	・実験科目の実施内容について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験室の設備充実について ・MS-26の実施内容について ・成績不振者の面談実施について	SD	
2	令和4年4月21日	・授業の開講曜日と担当者変更について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・将来問題検討関連 ・学業優秀者の学長表彰について	SD	
3	令和4年5月12日	・授業の開講方式の変更について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学生の休学について ・学生の TOEIC-IP 受講について ・実験室の設備充実について ・将来問題検討関連 ・成績不振者の面談について	SD	
4	令和4年5月26日	・履修系統図の見直しについて	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験実習費について	SD	
5	令和4年6月9日	・Z科との学科統合について ・学科カリキュラム改定について ・実験設備の充実について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
6	令和4年7月2日	・MS-26の実施について ・学部評価委員会について ・学科カリキュラム改定について ・外部評価委員の選定について ・実験設備の充実について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
7	令和4年7月14日	・必修科目の欠席者について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学科統合について ・実験室バリアフリー化について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和4年7月28日	・出校できない学生の成績評価について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学業優秀奨学生の基準について ・研究設備の充実について	SD	
9	令和4年9月8日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
10	令和4年9月29日	・遠隔講義の実施方法について ・長期欠席者への対応について ・GPA 向上への取り組みについて	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験室改修について	SD	
11	令和4年10月27日	・成績不振者の面談について ・講義の遠隔・対面対応について ・長期欠席者への対応について ・他学部、他学科履修について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・文献契約の予算について ・共通機器の費用計上について	SD	
12	令和4年12月1日	・新カリキュラムの科目について ・長期欠席者への対応について ・講義の担当者の変更について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学科の統合について ・学科予算について	SD	
13	令和5年1月7日	・学科の統合について ・実験室改修について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
14	令和5年1月12日	・卒業研究の実施方法について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験室改修について	SD	
15	令和5年1月26日	・卒業研究の実施方法について ・講義担当者の人選について ・定期試験の実施方法について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学科の統合について ・実験室改修について	SD	
機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	講義におけるコロナ対応について	SD	松田, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川 (計13名)
2	令和4年7月21日	FD・SD 学習会「GPS-Academic を 活用した学修成果の可視化と活用について」に基づく教育改善について	FD	松田, 池本, 大島, 川村, 久保, 塚田, 中西, 成田, 横田, 吉川 (計10名)
3	令和4年9月8日	教員間もしくは授業科目間の成績評 価基準の平準化に係る検討について	FD	松田, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川, 古川 (計15名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
4	令和4年9月29日	FD・SD 学習会「アクティブラーニング型授業としての反転授業」に基づく教育改善について	FD	松田, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川, 古川 (計15名)
5	令和5年1月26日	FD・SD フォーラム「データサイエンス教育の現状と展望」に基づく教育改善について	FD	松田, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川, 古川 (計14名)
交通機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	フレッシュマンセミナーの実施方法について, 研究実験棟4の掲示板について 配慮学生について	FD・SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)
2	令和4年4月21日	教員資格審査基準の改正について, WebClass 上での学科掲示板作成について, 共有工作室の使用について	SD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計13名)
3	令和4年5月12日	名城サプリメント教育について, 学習サポートルームの利用について 遠隔講義が不可能な科目について	FD・SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計15名)
4	令和4年5月26日	学位授与方針対応表・教育課程編成方針対応表について, 研究実験棟4施設の改善要望について, 研究予算配分案について	SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)
5	令和4年6月9日	Science Direct Transaction の利用状況について, プロジェクト作業室について	SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)
6	令和4年6月23日	技術者倫理について, 配慮学生について, 成績不振学生への個別指導について	FD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計15名)
7	令和4年7月7日	教員業績評価について 卒業研究評価について, 後期の授業方法について	FD・SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計14名)
8	令和4年7月21日	教員間ネットワークのメンバー案について 外部評価委員会について	FD・SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計14名)
9	令和4年9月8日	MEC プログラムについて 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD・SD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計12名)
10	令和4年9月29日	名城サプリメント教育と学習サポートルームについて	SD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎, 菅野 (計13名)
11	令和4年10月27日	附属高校特別入学試験合格者への入学前指導について PROG テストについて	SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎 (計14名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
12	令和4年11月10日	今後の遠隔授業の活用方法について	FD	中島, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎, 菅野 (計14名)
13	令和4年11月24日	GPAの算出方法について	SD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 菅野 (計12名)
14	令和4年12月1日	各教員間ネットワークからの報告について	FD	中島, 前川, 相馬, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎, 菅野 (計13名)
15	令和4年12月22日	GPA算出法の改善案について 各教員間ネットワークからの報告について	FD・SD	中島, 加鳥, 前川, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎, 菅野 (計13名)
16	令和5年1月12日	外部評価委員への回答について 第24回FD・SDフォーラムについて	FD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田, 村尾, 早藤, 山崎, 菅野 (計15名)
メカトロニクス工学科 FD・SD会議				
1	令和4年4月7日	1) 学生へのルーブリック説明について 2) 大学院入試の口頭試問について 3) フレッシュマンセミナーの活用方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
2	令和4年4月21日	1) TOEIC-IPスコアの活用方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
3	令和4年5月12日	1) 防災訓練について 2) 1年生メンターについて 3) 推薦入試について 4) TOEIC-IP試験の実施について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
4	令和4年5月26日	1) 防災訓練について 2) 卒業研究におけるルーブリックについて	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
5	令和4年6月23日	1) 防災訓練について 2) JABEE対応科目について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
6	令和4年7月7日	1) 電子ジャーナルの卒業研究, 修士研究への活用について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
7	令和4年7月21日	1) テクニカルセンターの学生実習への利用について 2) TOEIC-IP試験について 3) 電子ジャーナルの活用について 4) 1年生の新型コロナによる履修対応について 5) 防災訓練について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和4年9月1日	1) 実習科目の教材改修とカリキュラム検討 2) 演習室の活用について	FD	楊, 大原, 市川, 芦澤, 星野, 野々川, 太田 (計7名)
9	令和4年9月22日	1) 教員間もしくは授業科目間における成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
10	令和4年10月27日	1) 推薦入試面接の口頭試問について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
11	令和4年11月24日	1) 外部評価委員会について 2) アクティブラーニングについて 3) 1年生フレッシュマンセミナーについて	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
12	令和4年12月1日	1) 指定校推薦について 2) 大学院二次試験について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
13	令和4年12月22日	1) JABEE 審査について 2) 博士課程後期カリキュラムについて 3) 大学院入試について 4) 就職・進路支援について 5) 卒業研究配属について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
14	令和5年1月12日	1) 外部評価について 2) 1年生フレッシュマンセミナーについて 3) 学生表彰について 4) 大学院推薦について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
社会基盤デザイン工学科 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	「グローバルインターンシップ」「社会基盤デザインセミナーⅠ」の実施について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
2	令和4年4月21日	「グローバルインターンシップ」「スキルアップセミナー」の実施について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計13名)
3	令和4年5月26日	祝日講義のあり方について, 副査面談のあり方について	SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計13名)
4	令和4年6月23日	「技術者倫理」「オープンキャンパス」「キャリアデザイン」の実施について, 学生の懲戒ガイドラインの開示について, 重点配分予算の用途について, 学生カルテシステム更新について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
5	令和4年7月21日	入試動向について, 新入生の学力・意識調査について	SD	石川, 板橋, 葛, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計11名)
6	令和4年9月8日	成績評価基準の平準化について, 「グローバルインターンシップ」の中間報告について, 「社会基盤デザインセミナーⅡ」の実施について, 共有車両リースの更新について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
7	令和4年9月29日	学生カードのデザインとコンテンツについて	SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
8	令和4年10月27日	学科内教育点検委員会報告, 障がい学生の支援について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
9	令和4年11月24日	次年度の「グローバルインターンシップ」について, 障がい学生の支援について	FD	石川, 板橋, 葛, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 岩下, 中村 (計9名)
10	令和4年12月1日	学科内教育改善委員会報告, 副査面談の報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
11	令和4年12月22日	次年度の「キャリアデザイン」について, 障がい学生の支援について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
12	令和5年1月12日	新3年生のガイダンスについて	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
13	令和5年1月26日	卒業前意識調査の内容について	SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
環境創造工学科 FD・SD 会議				
1	令和4年5月26日	・「名城サプリメント教育」・「学習サポートルーム」について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
2	令和4年6月23日	・授業改善アンケートについて	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・FD・SD 学習会について	SD	
3	令和4年7月21日	・PROG テストの実施について ・「数学相談室」について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
4	令和4年9月8日	・成績評価の平準化について ・授業改善アンケートについて ・FD・SD 学習会について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・PROG テストの実施について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
5	令和4年9月29日	・スタディサプリの導入について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
6	令和4年10月27日	・来年度の外部調査 (PROG テスト) の実施について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
7	令和4年12月22日	・授業改善アンケートについて ・FD・SD 学習会について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・PROG テストの結果および返却に ついて	SD	
8	令和5年1月22日	・教育課程等に係る特例制度につ いて	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
建築学科 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	エクステンション「一級建築士」 2022年度講座について	SD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
2	令和4年6月23日	3年生対象のフレッシュマンセミ ナー代替事業について	SD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
3	令和4年7月21日	成績不振者の対応について	SD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
		教員業績評価について	FD	
4	令和4年7月28日	ダッシュボードの活用について	FD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
5	令和4年9月1日	成績評価基準の平準化について	FD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計17名)
		PROG テストの実施について	SD	
6	令和4年9月15日	学生所有 PC の推奨スペックについて	SD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
		外部評価委員会について	FD	
7	令和4年11月10日	外部評価委員会開催に関して	FD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計15名)
		エクステンション講座について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和4年11月24日	外部評価委員会開催に関して	FD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 生田, 吉永, 平岩, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計15名)
9	令和5年1月12日	フレッシュマンセミナーおよび代替事業に関して、ゼミ配属ガイダンスについて	SD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
10	令和5年1月26日	自己点検・評価報告書兼事業報告書の作成について	FD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
教養教育 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	JABEE 資料の提出について	FD	土屋 (科長), 中山 (議長), 大久保, 田中, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 鈴木, 遠藤, 齊藤, 森口, 中村, 松村, 宮北, 長澤, 大知, 山本, 榎本 (書記) (計19名)
2	令和4年6月23日	授業改善アンケートについて	FD	土屋 (科長), 中山 (議長), 大久保, 斎藤, 大知, 森口, 松村, 中村, 宮北, 加藤, 鈴木, 遠藤, 本田, 神藤, 景山, 日比野, 長澤, 山本, 榎本, 田中 (書記) (計20名)
		FD・SD 学習会について	FD	
3	令和4年9月8日	成績評価基準の平準化について	FD	中山 (議長), 長澤, 中村, 加藤, 鈴木, 田中, 日比野, 松村, 齊藤, 榎本, 神藤, 大知, 大久保, 森口, 山本, 遠藤, 本田 (書記) (計17名)
4	令和4年12月22日	授業改善アンケートについて	FD	中山 (議長), 榎本, 遠藤, 大知, 大久保, 鈴木, 田中, 長澤, 中村, 日比野, 本田, 松村, 宮北, 森口, 山本, 齊藤 (書記) (計16名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、令和2年度から大学院博士（後期）課程において授業科目の単位制を導入した。これによりリサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、博士（前期）課程・特論科目との連携体制を敷いた。このような連携により修士（博士前期）課程と博士（後期）課程が密接に関わり合い、学生の多様な要望に応える基盤となりうる。また、各専攻科の大学院FD・SD活動については、各学科のFD・SD会議において、合同で大学院FD・SDに関する議題の報告および審議を行っている。

昨年度に引き続き、感染症拡大防止のため、学生に対して例年通りの教育、研究指導を実施することができない。このような状況に対処するため、各専攻FD・SD会議を中心として、修士課程の特論講義の実施方法、感染拡大を予防する実験活動推進方法を検討し、実施してきた。理工学研究科においては、研究室へ入室できる最大人数を制限した時分割や日分割方式を実施し、研究活動の遅滞を防ぐ方策を取った。

大学院生は国内外での積極的な学会発表により、大きな成長を遂げることが多い。しかし、昨年度に引き続き、感染症拡大防止により各種学会が中止されたり、リモート開催されたりと学生の士気が落ち込みがちであった。このような事態を踏まえ、リモート開催される学会での発表方法や質疑応答などの指導について各専攻FD・SD会議を中心として検討を行っている。

理工学分野における英語教育の重要性は、学際的情報を全世界に発信するという観点から必要不可欠である。入学条件としてもTOEIC受験を課し、理工学部3年在籍時に全学生が受験している。幅広くコミュニケーションを行う能力を追求するTOEICは、学際的情報発信という観点に立ち学生たちに大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、各専攻で独自に開設する科学技術英語は、専門性を高めるとともに国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成に礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

2. 今後の課題、方向性

大学院FD・SDの中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻FD・SD会議（各学科FD・SD会議と合同）と連絡を密にしながら理工学研究科としての大学院FD・SD活動を推進する。「集中講義」については、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させ、学生に対する啓蒙を行い学生が自主的に参加して行くという方向性を出したが、昨今の感染症拡大防止の方策に追われ、具体的な実施方法の議論がなされていない状況である。今後、議論を進め、学生の自主的な研究活動をバックアップするための体制作りを優先させなければならない。このため単位制度のみに注目するのではなく、

大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある。

3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和4年4月28日	令和4年度教育改善委員会名簿の確認および副委員長の任命について、令和4年度第1回 大学教育開発センター委員会報告について、令和4年度物理相談室及び名城サプリメント教育について、令和4年度理工学部および理工学研究科の事業計画について、東海工学教育協会 会員入会のご案内	FD・SD	児玉，加鳥，山中，鍛冶，田崎，六田，田中，成田，鈴木，中村，片桐，三浦，松村，大久保（教員計14名）東海林，藤井（職員計2名）
2	令和4年5月11日 ～5月17日 [遠隔]	理工学部・研究科等におけるFD・SD取組の推進組織一覧表の確認について	FD・SD	児玉，加鳥，山中，鍛冶，田崎，六田，田中，成田，鈴木，市川，中村，片桐，三浦，松村，大久保（教員計15名）東海林，藤井（職員計2名）
3	令和4年7月28日	大学教育開発センターからの依頼事項，MECプログラムについて、令和5年度 入学前オリエンテーション学部企画書の作成について、第4回 大学教育開発センター委員会報告について	FD・SD	児玉，加鳥，山中，鍛冶，田崎，六田，田中，成田，鈴木，市川，片桐，三浦，松村，大久保（教員計14名）藤井（職員計1名）
4	令和4年10月13日	令和5年度予算要求について、附属高校特別推薦入学者への入学前指導について、令和5年度学修成果の把握に向けた外部調査実施の希望聴取について、令和4年度前期数学相談室の利用状況報告について、令和4年度FD・SD活動報告書（中間）について、令和5年度以降における名城サプリメント教育の実施方法について	FD・SD	児玉，加鳥，山中，鍛冶，田崎，六田，田中，成田，鈴木，市川，中村，片桐，三浦，松村，大久保（教員計15名）東海林，藤井（職員計2名）
5	令和4年12月22日	令和4年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告の作成について、大学設置基準等における教育課程等の特例制度の申請意向について	FD・SD	児玉，加鳥，山中，鍛冶，田崎，六田，田中，成田，鈴木，市川，中村，片桐，三浦，松村，大久保（教員計15名）東海林，藤井（職員計2名）

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
各専攻 FD・SD 会議				
数学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年6月23日	学生のカンニング対応 試験への配慮を要する学生への対応	FD・SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計18名)
2	令和4年9月8日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計18名)
3	令和5年1月26日	休学・退学を希望する学生の対応について	FD・SD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 佐藤, 柴田, 鈴木, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計18名)
情報工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年9月29日	教授会における成績評価基準の平準化に関する報告	FD	佐川, 田中, 柳田, 川澄, 中野, 坂野, 向井, 山田 (啓), 山田 (宗), 山本, 吉川, 旭, 宇佐見, 小中, 亀谷, 鈴木, 米澤, 野崎, 水沼, 鷺見, 大榎, 山木 (計22名)
		教授会における障がい学生支援委員会報告	SD	
2	令和4年12月22日	FD・SD 勉強会を通じた大学設置基準の一部改正基準に関する説明	SD	佐川, 田中, 柳田, 川澄, 坂野, 向井, 山田 (啓), 山田 (宗), 山本, 吉川, 旭, 宇佐見, 小中, 亀谷, 米澤, 水沼, 鷺見, 大榎, 山木 (計19名)
電気電子工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年6月23日	技術者倫理について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
2	令和4年7月7日	修士・卒研生の間発表について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
3	令和4年7月21日	学業優秀賞学生について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
4	令和4年8月27日	2022年度前期三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
5	令和4年9月1日	ダッシュボードの活用について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
6	令和4年9月8日	GPA を用いた平準化について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
7	令和4年9月12日	反転授業について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
8	令和4年9月20日	大学電気工学教育研究について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
9	令和4年10月27日	遠隔授業について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
10	令和4年11月24日	卒業研究発表会・修士論文公聴会について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 中條, 都竹, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計18名)
材料機能工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	入試総括, 入試動向分析, 将来問題・新学科構想, 実感教育の検討	FD	宇佐美, 成塚, 上山, 竹内, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 岩谷, 服部, 榎本, 赤堀 (計12名)
2	令和4年9月8日	前期成績を受けての学修行動に関する意見交換, 成績不良者対応, 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討	FD	宇佐美, 岩谷, 成塚, 上山, 竹内, 服部, 宮嶋, 今井, 赤堀, 六田 (計10名)
3	令和5年1月26日	1月16日(月)開催の第15回外部評価委員会の会議報告	FD	宇佐美, 成塚, 上山, 竹内, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 岩谷, 服部, 榎本, 赤堀 (計12名)
応用化学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	・実験科目の実施内容について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験室の設備充実について	SD	
・MS-26の実施内容について	SD			
・成績不振者の面談実施について				
2	令和4年4月21日	・授業の開講曜日と担当者変更について	FD	
		・将来問題検討関連 ・学業優秀者の学長表彰について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和4年5月12日	・授業の開講方式の変更について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学生の休学について ・学生の TOEIC-IP 受講について ・実験室の設備充実について ・将来問題検討関連 ・成績不振者の面談について	SD	
4	令和4年5月26日	・履修系統図の見直しについて	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験実習費について	SD	
5	令和4年6月9日	・Z科との学科統合について ・学科カリキュラム改定について ・実験設備の充実について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
6	令和4年7月2日	・MS-26の実施について ・学部評価委員会について ・学科カリキュラム改定について ・外部評価委員の選定について ・実験設備の充実について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
7	令和4年7月14日	・必修科目の欠席者について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学科統合について ・実験室バリアフリー化について	SD	
8	令和4年7月28日	・出校できない学生の成績評価について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学業優秀奨学生の基準について ・研究設備の充実について	SD	
9	令和4年9月8日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
10	令和4年9月29日	・遠隔講義の実施方法について ・長期欠席者への対応について ・GPA 向上への取り組みについて	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験室改修について	SD	
11	令和4年10月27日	・成績不振者の面談について ・講義の遠隔・対面対応について ・長期欠席者への対応について ・他学部、他学科履修について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・文献契約の予算について ・共通機器の費用計上について	SD	
12	令和4年12月1日	・新カリキュラムの科目について ・長期欠席者への対応について ・講義の担当者の変更について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学科の統合について ・学科予算について	SD	
13	令和5年1月7日	・学科の統合について ・実験室改修について	SD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
14	令和5年1月12日	・卒業研究の実施方法について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・実験室改修について	SD	
15	令和5年1月26日	・卒業研究の実施方法について ・講義担当者の人選について ・定期試験の実施方法について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計10名)
		・学科の統合について ・実験室改修について	SD	
機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	講義におけるコロナ対応について	SD	松田, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川 (計13名)
2	令和4年7月21日	FD・SD 学習会「GPS-Academic を活用した学修成果の可視化と活用について」に基づく教育改善について	FD	松田, 池本, 大島, 川村, 久保, 塚田, 中西, 成田, 横田, 吉川 (計10名)
3	令和4年9月8日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	松田, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川, 古川 (計15名)
4	令和4年9月29日	FD・SD 学習会「アクティブラーニング型授業としての反転授業」に基づく教育改善について	FD	松田, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川, 古川 (計15名)
5	令和5年1月26日	FD・SD フォーラム「データサイエンス教育の現状と展望」に基づく教育改善について	FD	松田, アブラハ, 池本, 大島, 川村, 來海, 久保, 塚田, 中西, 成田, 松原, 横田, 吉川, 古川 (計14名)
交通機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年4月21日	大学院入試における TOEIC スコアについて	SD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田 (計10名)
2	令和4年5月12日	遠隔講義が不可能な科目について	FD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計12名)
3	令和4年5月26日	研究予算配分案について	SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田 (計11名)
4	令和4年6月9日	大学院生研究助成について	SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田 (計11名)
5	令和4年7月7日	後期の授業方法について	FD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場 (計11名)
6	令和4年9月8日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 菅野, 仙場, 宮田 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和4年10月27日	新型コロナウイルス感染症に関わる 長期欠席者への対応について	SD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 仙場, 宮田 (計11名)
8	令和4年11月10日	今後の遠隔授業の活用について	FD	中島, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計11名)
9	令和4年11月24日	R5年度大学院研究科便覧の確認に ついて 博士後期課程の学位授与基準等につ いて	FD	中島, 加鳥, 前川, 鈴木, 西村, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計10名)
10	令和4年12月22日	大学院入学試験要項の変更について	SD	中島, 加鳥, 前川, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計10名)
11	令和5年1月12日	修士論文公聴会の評価方法について	FD	中島, 加鳥, 前川, 相馬, 鈴木, 西村, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計12名)
メカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	1) 学生へのルーブリック説明につ いて 2) 大学院入試の口頭試問について 3) フレッシュマンセミナーの活用 方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
2	令和4年4月21日	1) TOEIC-IP スコアの活用方法に ついて	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
3	令和4年5月12日	1) 防災訓練について 2) 1年生メンターについて 3) 推薦入試について 4) TOEIC-IP 試験の実施について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
4	令和4年5月26日	1) 防災訓練について 2) 卒業研究におけるルーブリック について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
5	令和4年6月23日	1) 防災訓練について 2) JABEE 対応科目について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
6	令和4年7月7日	1) 電子ジャーナルの卒業研究, 修 士研究への活用について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
7	令和4年7月21日	1) テクニカルセンターの学生実習 への利用について 2) TOEIC-IP 試験について 3) 電子ジャーナルの活用について 4) 1年生の新型コロナによる履修 対応について 5) 防災訓練について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和4年9月1日	1) 実習科目の教材改修とカリキュラム検討 2) 演習室の活用について	FD	楊, 大原, 市川, 芦澤, 星野, 野々川, 太田 (計7名)
9	令和4年9月22日	1) 教員間もしくは授業科目間における成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
10	令和4年10月27日	1) 推薦入試面接の口頭試問について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
11	令和4年11月24日	1) 外部評価委員会について 2) アクティブラーニングについて 3) 1年生フレッシュマンセミナーについて	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
12	令和4年12月1日	1) 指定校推薦について 2) 大学院二次試験について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
13	令和4年12月22日	1) JABEE 審査について 2) 博士課程後期カリキュラムについて 3) 大学院入試について 4) 就職・進路支援について 5) 卒業研究配属について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
14	令和5年1月12日	1) 外部評価について 2) 1年生フレッシュマンセミナーについて 3) 学生表彰について 4) 大学院推薦について	FD・SD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 野々川, 太田 (計12名)
社会基盤デザイン工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	「グローバルインターンシップ」「社会基盤デザインセミナーⅠ」の実施について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
2	令和4年4月21日	「グローバルインターンシップ」「スキルアップセミナー」の実施について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計13名)
3	令和4年5月26日	祝日講義のあり方について, 副査面談のあり方について	SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計13名)
4	令和4年6月23日	「技術者倫理」「オープンキャンパス」「キャリアデザイン」の実施について, 学生の懲戒ガイドラインの開示について, 重点配分予算の用途について, 学生カルテシステム更新について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 松本, 溝口, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
5	令和4年7月21日	入試動向について, 新入生の学力・意識調査について	SD	石川, 板橋, 葛, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 渡辺, 岩下, 岡本, 中村 (計11名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和4年9月8日	成績評価基準の平準化について、「グローバルインターンシップ」の中間報告について、「社会基盤デザインセミナーⅡ」の実施について、共有車両リースの更新について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
7	令和4年9月29日	学生カードのデザインとコンテンツについて	SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
8	令和4年10月27日	学科内教育点検委員会報告, 障がい学生の支援について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
9	令和4年11月24日	次年度の「グローバルインターンシップ」について, 障がい学生の支援について	FD	石川, 板橋, 葛, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 岩下, 中村 (計9名)
10	令和4年12月1日	学科内教育改善委員会報告, 副査面談の報告	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
11	令和4年12月22日	次年度の「キャリアデザイン」について, 障がい学生の支援について	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
12	令和5年1月12日	新3年生のガイダンスについて	FD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
13	令和5年1月26日	卒業前意識調査の内容について	SD	石川, 板橋, 葛, 小高, 鈴木, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 岩下, 岡本, 中村 (計12名)
環境創造学専攻 FD・SD 会議				
1	令和4年5月26日	・「名城サプリメント教育」・「学習サポートルーム」について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
2	令和4年6月23日	・授業改善アンケートについて	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・FD・SD 学習会について	SD	
3	令和4年7月21日	・PROG テストの実施について ・「数学相談室」について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
4	令和4年9月8日	・成績評価の平準化について ・授業改善アンケートについて ・FD・SD 学習会について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・PROG テストの実施について	SD	
5	令和4年9月29日	・スタディサプリの導入について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和4年10月27日	・来年度の外部調査（PROGテスト） の実施について	SD	道正，西山，日比，三宅，吉村， 小塩，片桐，広瀬，深川，武藤 (計10名)
7	令和4年12月22日	・授業改善アンケートについて ・FD・SD学習会について	FD	道正，西山，日比，三宅，吉村， 小塩，片桐，広瀬，深川，武藤 (計10名)
		・PROGテストの結果および返却に ついて	SD	
8	令和5年1月22日	・教育課程等に係る特例制度につい て	SD	道正，西山，日比，三宅，吉村， 小塩，片桐，広瀬，深川，武藤 (計10名)
建築学専攻 FD・SD会議				
1	令和4年4月7日	エクステンション「一級建築士」 2022年度講座について	SD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，岡田，生田，吉永， 谷田，平岩，大塚，三浦，高橋， 松田，米澤，佐藤（計18名）
2	令和4年6月23日	3年生対象のフレッシュマンセミ ナー代替事業について	SD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，岡田，生田，吉永， 谷田，平岩，大塚，三浦，高橋， 松田，米澤，佐藤（計18名）
3	令和4年7月21日	成績不振者の対応について	SD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，岡田，生田，吉永， 谷田，平岩，大塚，三浦，高橋， 松田，米澤，佐藤（計18名）
		教員業績評価について	FD	
4	令和4年7月28日	ダッシュボードの活用について	FD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，岡田，生田，吉永， 谷田，平岩，大塚，三浦，高橋， 松田，米澤，佐藤（計18名）
5	令和4年9月1日	成績評価基準の平準化について	FD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，岡田，生田，吉永， 谷田，大塚，三浦，高橋，松田， 米澤，佐藤（計17名）
		PROGテストの実施について	SD	
6	令和4年9月15日	学生所有PCの推奨スペックについて	SD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，岡田，生田，吉永， 谷田，平岩，大塚，三浦，高橋， 松田，米澤，佐藤（計18名）
		外部評価委員会について	FD	
7	令和4年11月10日	外部評価委員会開催に関して	FD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，谷田，平岩，大塚， 三浦，高橋，松田，米澤，佐藤 (計15名)
		エクステンション講座について	SD	
8	令和4年11月24日	外部評価委員会開催に関して	FD	石井，鈴木，吉久，市之瀬，高井， 武藤，寺西，生田，吉永，平岩， 三浦，高橋，松田，米澤，佐藤 (計15名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
9	令和5年1月12日	フレッシュマンセミナーおよび代替事業に関して、ゼミ配属ガイダンスについて	SD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
10	令和5年1月26日	自己点検・評価報告書兼事業報告書の作成について	FD	石井, 鈴木, 吉久, 市之瀬, 高井, 武藤, 寺西, 岡田, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 大塚, 三浦, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (計18名)
教養教育 FD・SD 会議				
1	令和4年4月7日	JABEE 資料の提出について	FD	土屋 (科長), 中山 (議長), 大久保, 田中, 日比野, 景山, 神藤, 本田, 鈴木, 遠藤, 齊藤, 森口, 中村, 松村, 宮北, 長澤, 大知, 山本, 榎本 (書記) (計19名)
2	令和4年6月23日	授業改善アンケートについて	FD	土屋 (科長), 中山 (議長), 大久保, 斎藤, 大知, 森口, 松村, 中村, 宮北, 加藤, 鈴木, 遠藤, 本田, 神藤, 景山, 日比野, 長澤, 山本, 榎本, 田中 (書記) (計20名)
		FD・SD 学習会について	FD	
3	令和4年9月8日	成績評価基準の平準化について	FD	中山 (議長), 長澤, 中村, 加藤, 鈴木, 田中, 日比野, 松村, 齊藤, 榎本, 神藤, 大知, 大久保, 森口, 山本, 遠藤, 本田 (書記) (計17名)
4	令和4年12月22日	授業改善アンケートについて	FD	中山 (議長), 榎本, 遠藤, 大知, 大久保, 鈴木, 田中, 長澤, 中村, 日比野, 本田, 松村, 宮北, 森口, 山本, 齊藤 (書記) (計16名)

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 情報工学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化については、令和3年度前期・後期（理工学部情報工学科分も含む）および令和4年度前期の成績分布データを元に、現状の検討および今後の方向性に関して議論を行った。またGPS-Academicによる学修行動調査の結果が確認され、今後の情報工学部としての教育活動で強化すべき項目について検討を行った。さらに、令和4年度に大学設置基準等が改正されたことについて、本学総合企画部の事務職員を招いて情報工学部所属教職員を主な対象としたFD・SD勉強会を開催した。

2. 今後の課題、方向性

教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について、現在複数の教員間で同一の科目を担当している「情報工学実験Ⅲ」においては、教員間で成績の相互チェックをしていることが確認された。またこれ以外の科目については、各科目の難易度や位置づけが異なることなど、成績評価基準の平準化を直ちに図ることは困難であるという委員案が承認された。

今後の成績評価基準の平準化についての方向性として、合格率が20%を下回る科目については、引き続き平準化に関する検討を行うことが承認された。また、GPS-Academicによる学修行動調査を精査し、PBLの授業を実施していく上で必要な“協働的思考力”を育成していく必要があることが確認された。また今年度に施行された大学設置基準等の改正について、本学部の教員配置について検討し直す必要があることを確認しているため、改正された基準に合わせた教員配置を提言することを考えている。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年9月8日	・FD・SD委員会における成績評価基準の平準化について ・FD・SD委員会におけるGPS-Academic実施報告	FD	佐川, 坂野, 米澤, 野崎, 伊藤 計5名
2	令和4年9月29日	・教授会における成績評価基準の平準化に関する報告	FD	佐川, 田中, 柳田, 川澄, 中野, 坂野, 向井, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 旭, 宇佐見, 小中, 亀谷, 鈴木, 米澤, 野崎, 水沼, 鷺見, 大榎, 山木 計22名
		・教授会における障がい学生支援委員会報告	SD	
3	令和4年12月22日	・FD・SD勉強会を通じた大学設置基準の一部改正基準に関する説明	SD	佐川, 田中, 柳田, 川澄, 坂野, 向井, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 旭, 宇佐見, 小中, 亀谷, 米澤, 水沼, 鷺見, 大榎, 山木 計19名
4	令和5年1月26日	・教授会における2022年度3年次生GPS-Academic実施報告	FD	佐川, 田中, 柳田, 川澄, 坂野, 向井, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 宇佐見, 小中, 亀谷, 鈴木, 米澤, 野崎, 水沼, 鷺見, 山木 計18名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

農学部は、生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議を分科会と位置づけFD・SD活動に取り組んでいる。これらの分科会および分科会を統括する教授会において、学生の修学および生活について教職員間で意見交換を行い、農学部のディプロマ・ポリシーに基づく教育および研究活動の充実を行っている。具体的な取り組みとして、定例で開催されている学科会議や農場教員会議等において、教育改善のための意見交換を行い、授業満足度調査からの授業内容のほかに、実験実習、研究活動、キャリア教育などの充実も視野に入れ、総合的な教育改善を検討し推進している。そのために、学部FD・SD委員を中心に現状を分析し、各学科にて改善策を講じ、学務委員会や学部FD・SD委員会でそれらをまとめてカリキュラムの検討・検証および、同系の授業科目群の目標を設定し、それらを各教員が教育や研究に反映する。学科および農場に共通する案件については学部教授会等の時間に学部全教員で情報交換することで、教育改善への具体的な取り組みについてのイメージを共有できるようにする。下記の活動記録に記述した通り、各分科会で具体的に取り組んでいる。

- ①昨年度に引き続き今年度も学修成果を可視化する取組に基づく教育改善のために、外部調査として1年次、3年次を対象にGPS-Academicによるアンケート調査を実施し、その結果を教授会で報告した（2023年3月6日教授会予定）。
- ②各学科ともに「履修系統図」「ポートフォリオ」への取り組みに加え、生物資源学科では新研究室設立に向けた議論を進めている。また昨年度に引き続き本年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、教室の座席配置を千鳥配置にするなど徹底した感染予防対策を実施した。感染が落ち着いている時期は原則対面授業を実施し、感染が拡大した時期はスムーズに遠隔授業に切り替える体制を整備した。また、実験室の広さに対する学生数を考慮して、一部の実験授業ではソーシャルディスタンスを確保するため、少人数受講体制を整えた。

2. 今後の課題、方向性

遠隔授業の実施を経て、学部や学科等の組織単位ならびに教員個々の単位でメリットとデメリットが議論できる体制になった。今後の社会的状況（例えばパンデミック）に応じた授業体制の構築についての議論の場を、積極的に設定していく必要がある。2022年から大きく変わる高校での新学習指導要領を見据えて、2025年度からカリキュラムを改正するための取り組みを始めた。

経常的な課題として、入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が必要である。

今後も学科会議および農場教員会議単位での検討体制に変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンクさせた対応を提言する、という立場から、農学部FD・SD委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年4月7日	第1回農学部教授会 ・ハラスメント研修の一環として、 アカデミックハラスメントに関する研修 ・ハラスメント防止について	SD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、榑崎、藤原（計44名）
		・情報セキュリティーについて	SD	
2	令和4年4月7日	第1回応用生物化学科会議 ・オムニバス科目の出欠と成績について ・令和4年度研究室配属スケジュールについて ・実験テキストの校正・修正について ・2年次ミキサーについて ・農学部ホームページの内容充実について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）
		・障がいをもつ学生について	SD	
3	令和4年4月7日	第1回生物環境科学科会議 ・1年生実習ガイダンスについて ・野外調査安全マニュアルについて	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、榑崎、大浦（計13名）
		・農学部教員編成について	SD	
4	令和4年4月8日	第1回農場教員会議 ・農場開講科目について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、増中、大塚（計7名）
		・教員編成方針について ・技術職員室の活用について	SD	
5	令和4年4月21日	第2回農学部教授会 ・定期試験実施方法のアンケートについて	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤（計42名）
		・遠隔授業が困難な科目に関する調査について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和4年4月21日	第2回生物資源学科会議 ・農学部教員編成について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、 上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、 太田垣（計11名）
		・遠隔授業が困難な科目に関して	SD	
7	令和4年4月21日	第2回応用生物化学科会議 ・遠隔授業が不可能な授業の選定について ・授業科目の教室変更について ・指定校推薦対象校の選出について ・農学部ホームページの内容充実について ・各媒体に記載する主な就職先の選定について ・令和4年度研究室配属スケジュールについて ・令和4年度版応用生物化学科教員編成方針について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、 林（利）、長澤、前林、天野、松儀、 山口、濱本（計13名）
		・持病のある学生について	SD	
8	令和4年4月21日	第2回生物環境科学科会議 ・遠隔授業困難科目の確認について ・カリキュラム改正について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、磯井、村野、橋本、 大浦（計12名）
9	令和4年4月27日	第2回農場教員会議 ・農場教員編成方針について ・遠隔授業が不可能な科目について	FD	平野、中尾、森田（隆）、森田（裕）、 増中、大塚（計6名）
10	令和4年5月12日	第3回生物資源学科会議 ・2023年度新設科目について ・学生実験の内規について	SD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、 上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、 太田垣、藤原（計12名）
11	令和4年5月12日	第3回応用生物化学科会議 ・令和5年度農学部時間割について ・実験テキストの校正について ・指定校推薦対象校の追加について ・オープンキャンパスについて ・令和4年度研究室配属スケジュールについて ・令和4年度教員編成方針について ・活動制限下での出張の取扱いについて ・カリキュラム改正について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、 長澤、前林、天野、松儀、山口、 濱本（計12名）
12	令和4年5月12日	第3回生物環境科学科会議 ・編入学生の単位認定について ・令和4年度研究室配属について ・2023年度時間割について ・学科共通機器費（積立）の用途について ・共通機器の運用について	FD	汪、長田、新妻、田村、細田、近藤、 藤、磯井、村野、橋本、植崎、大浦 （計12名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
13	令和4年5月13日	第3回農学部教授会 ・アントレプレナーシップ教育・起業支援について ・安全保障輸出管理規程等の改正について ・研究成果の社会還元・実装に向けた研究シーズ集の作成について ・安全保障輸出管理審査について ・researchmap 公表情報の充実について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、植崎、藤原（計42名）
		・入学前オリエンテーション及びMECプログラムの実施について ・令和3年度後期授業改善アンケート回答結果について ・定期試験実施方法のアンケートについて ・学校感染症を理由とする定期試験の欠席の取り扱いについて	SD	
14	令和4年5月26日	第4回農学部教授会 ・学校感染症を理由とする定期試験欠席の取り扱いについて ・全国安全週間に係る本学の取り組みについて ・農学部・農場緊急連絡表について ・自衛消防部組織図について ・動物実験実施者に対する教育研修について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、植崎、藤原（計43名）
15	令和4年5月26日	第4回生物資源学科会議 ・生命食料環境のグループワークについて ・学位授与方針などについて	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
		・前期授業改善アンケート科目に関して	SD	
16	令和4年5月26日	第4回応用生物化学科会議 ・2023年度時間割について ・学位授与方針対応表と履修系統図の確認について ・在籍年数が多い学生について ・成績不振学生の面談結果について ・応用生物化学概説と生命・食料・環境の評価方法の一部変更について ・研究室配属について ・カリキュラム改正委員について	FD	志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計12名）
		・学生の課外活動について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
17	令和4年5月26日	第4回生物環境科学科会議 ・2023年度名城カレンダーについて ・2023年度カリキュラムについて	FD	汪、長田、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、大浦(計12名)
		・履修登録漏れ学生への対応について ・障がい学生への対応について	SD	
18	令和4年6月3日	第3回農場教員会議 ・来年度の授業時間割について	FD	平野、中尾、森田(隆)、林、森田(裕)、増中、大塚(計7名)
19	令和4年6月16日	第5回農学部教授会 ・農学部カリキュラム改正委員会設立について ・「医薬工連携・先端医療社会実装コンソーシアム」への参画について ・コロナ禍における教職員の海外渡航の取り扱いについて ・令和4年度学術研究奨励助成制度【追加募集分】の選定結果について	FD	磯井、氏田、上船、汪、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林(利)、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、濱本、林(義)、平見、細田、森田(隆)、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原(計41名)
		・令和4年度緊急修学援助奨学生の募集について ・各種奨学生の選考について ・日本学生支援機構奨学生成績不振者への面談指導の実施について ・令和4年度大学院生研究助成の採択者決定について	SD	
20	令和4年6月16日	第5回生物資源学科会議 ・新カリキュラムについて ・2023年度時間割の変更	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原(計12名)
21	令和4年6月16日	第5回応用生物化学科会議 ・2022年度オープンキャンパス応援学生について ・2024年度大学案内 学科扉ページの担当について ・MEIJO Q&A の担当について ・2024年度大学案内 学科ページの写真について ・応用生物化学特別講義Iについて ・次期学科長について ・学科実験実習費について ・備品の現物照合について ・応用生物化学実験と化学実験のテキストの校正について	FD	加藤、志水、奥村、湊、近澤※、林(利)※、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本(計12名) ※一部離席
		・公欠の取扱いについて	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
22	令和4年6月23日	第5回生物環境科学科会議 ・2022年度オープンキャンパス応援学生について ・2024年度大学案内 学科扉ページの担当について ・学科実験実習費について ・学生出張の制限について ・学生の研究室配属について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、植崎、大浦（計13名）
		・障がい学生について	SD	
23	令和4年7月1日	第4回農場教員会議 ・第16回FD・SD学習会について ・公欠について ・来年度の授業時間割について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、増中、大塚（計7名）
		・第16回FD・SD学習会について	SD	
24	令和4年7月7日	第6回農学部教授会 ・2023年度農学部編入学試験について ・令和4年度後期の授業方法について ・先端医療開発コンソーシアムに関する協定の締結について ・受験上の配慮対応について ・人材養成目的の確認及び情報公表について ・学長候補者選考委員会委員の選出について ・外国人研究員招へい制度候補者について ・附属農場作物分野技術職員の退職に伴う後任採用について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、藤原（計42名）
		・令和4年度第1回（6月）修学援助B奨学生の選考について ・令和4年度前期授業改善アンケートの実施について	SD	
25	令和4年7月7日	第6回生物資源学科会議 ・生命食料環境の配点と、来年度の実施方法について ・2022年度後期の授業形態等について ・カリキュラム改正について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
		・新研究室名について ・令和4年度 学部・研究科の国際専門研修プログラムについて	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
26	令和4年7月7日	第6回応用生物化学科会議 ・2022年度オープンキャンパスについて ・2023年度入試の業務について ・2024年度大学案内の担当について ・学科実験実習費の配分について ・研究室配属について ・製氷機の保守費用について ・カリキュラム改正について ・応用生物化学実験と化学実験のテキストの校正について ・学位授与方針対応表と履修系統図について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、近澤、林(利)、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本(計12名)
27	令和4年7月7日	第6回生物環境科学科会議 ・後期学外実習のマニュアルについて ・後期講義科目の定員について ・学生の研究室配属に係るスケジュールについて ・2025年度カリキュラム改正について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、大浦(計12名)
28	令和4年7月21日	第7回農学部教授会 ・令和5年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う入学試験基本事項の変更について ・入学前オリエンテーションおよびMECプログラムについて ・2023年度農学部推薦入学試験について ・2023年度オープンキャンパスの日程について ・学部ウェブサイト内の研究室紹介ページについて ・新型コロナウイルス感染症に関する保健センターからの情報提供方法について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林(利)、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林(義)、平見、細田、森田(隆)、森田(裕)、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原(計44名)
		・前期授業改善アンケートについて	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
29	令和4年7月21日	第7回応用生物化学科会議 ・2022年度国際専門研修プログラムについて ・応用生物化学特別講義Ⅰの科目名と実施形態の変更について ・購入機器の選定について ・カリキュラム改正の時期と内容について ・TAの時間外勤務給与の支払依頼手続きの簡素化について ・後援会からの学生実験機器・備品の寄付について	FD	加藤、志水、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計11名）
		・オープンキャンパスについて	SD	
30	令和4年7月21日	第7回生物環境科学科会議 ・2023年度入学定員について ・TAの時間外勤務給与の支払依頼手続きの簡素化について ・後援会からの学生実験機器・備品の寄付について ・学生の研究室配属について ・2025年度カリキュラム改正について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、榎崎、大浦（計13名）
31	令和4年7月25日	第8回生物環境科学科会議 ・国際交流について ・大学院生の派遣について	FD	汪、長田、日野、新妻、細田、近藤、藤、磯井、村野、榎崎、大浦（計11名）
32	令和4年8月4日	第5回農場教員会議 ・FD活動について ・2025年度の新カリキュラム改正の検討について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、大塚（計6名）
		・SD活動について	SD	
33	令和4年8月30日	第9回生物環境科学科会議 ・大学院生の派遣について ・後援会からの学生実験機器・備品の寄付について ・教室収容定員の変更について	FD	汪、長田、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、橋本、榎崎、大浦（計11名）
34	令和4年9月2日	第6回農場教員会議 ・FD活動について ・カリキュラム改正について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、増中、大塚（計7名）
		・SD活動について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
35	令和4年9月8日	第8回農学部教授会 ・2022年度9月卒業判定について ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化の検討について ・教員の処分について ・教員研究費等による国外旅費の支給上限額の緩和措置について ・学長選考規程及び学長選考規程施行細則の一部改正について ・第3期認証評価の実地調査における対応について ・カーボンニュートラル関連授業の調査実施について ・学部ページ内研究室紹介の英語版について ・2022年度農学部就職関連予算 ・名城サプリメント教育・学習サポートルームの実施について ・農学部のカリキュラム等に対する労働組合からの団体交渉申し入れについて	FD	磯井、氏田、汪、大浦、鈴木、田村、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、塚越、藤、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎（計37名）
		・令和4年度各種奨学生の選考について ・令和4年度緊急修学援助奨学生の募集期間の延長について ・令和4年度前期100円朝食の実施報告について ・前期授業改善アンケートの集計結果について	SD	
36	令和4年9月8日	第7回生物資源学科会議 ・公欠の取り扱いについて ・「生命・食料・環境」の来年度の実施方法について ・今年度後期開講「化学実験」の実施方法について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣（計11名）
		・教員の配置と研究室名の変更について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
37	令和4年9月8日	第8回応用生物化学科会議 ・2025年度に向けたカリキュラム改正について（継続） ・共通機器の設置場所について ・化学実験について ・教育活動の見直しに係るデータの提供について	FD	氏田、奥村、近澤、林（利）、長澤、前林、松儀、山口、濱本（計9名）
		・優秀な学生の早期確保に向けた取組について ・公欠の取扱いについて ・周年記念行事について ・学生所有パソコンの推奨スペック調査について	SD	
38	令和4年9月8日	第10回生物環境科学科会議 ・入試改革制度案について ・2025年度に向けたカリキュラム改正について ・学生便覧について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、榑崎、大浦（計13名）
		・周年記念行事について ・学生所有パソコンの推奨スペック調査について ・障がい学生について	SD	
39	令和4年9月29日	第9回農学部教授会 ・学長意向投票に係る投票及び開票立会人並びに意向投票事務補助者の選出について ・コロナ禍における海外渡航について ・100周年事業委員会について ・転学部試験の実施について ・父母懇談会について ・4機関研究発表会について ・学生出張の届出書提出方法の変更について	FD	磯井、氏田、汪、大浦、加藤、鈴木、津呂、新妻、林（利）、日野、前林、松儀、湊、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、橋本、濱本、平見、細田、森田（隆）、黒川、榑崎、藤原（計35名）
		・教員の配置と研究室名の変更について ・ジョブ型研究インターンシップ推進協議会への入会について ・令和4年度各種奨学生を選考について ・新型コロナウイルス感染症に関連する長期欠席への対応について ・試験における不正行為に関する内規、学生の懲戒ガイドラインの一部改正案について ・国際専門研修プログラムについて ・GPS-Academic 受検について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
40	令和4年9月29日	第8回生物資源学科会議 ・2023年度の時間割について	FD	山岸、津呂、荒川、平児、塚越、 黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原 (計10名)
		・GPS-Academic について	SD	
41	令和4年9月29日	第9回応用生物化学科会議 ・2022年度後期遠授業隔困難科目の 確認 ・2025年度に向けたカリキュラム改 正について ・後援会寄付の学生実験用機器につ いて ・実験・実習室等の改修工事のため の調査について ・教育活動の見直しに係るデータの 提供について ・粒度分布計 (nanoSAQLA) の設 置と利用者説明会 ・総合型選抜スポーツ入試での入学 志願者について ・2023年度転学部・転学科試験につ いて	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、林 (利)、 長澤、前林、天野、松儀、山口、 濱本 (計12名)
		・2022年度入試に関するデータにつ いて ・公欠の扱いについて ・優秀な学生の早期確保に向けた取 組について	SD	
42	令和4年9月29日	第11回生物環境科学科会議 ・3年次編入学試験について ・総合型選抜スポーツ入試での入学 志願者について ・入試における追試験問題について ・2023年度実験・実習の日程につ いて ・教育改善活動について	FD	汪、長田、日野、新妻、細田、近藤、 藤、磯井、橋本、檜崎、大浦 (計11名)
		・障がい者に対する実験室設備調査 について	SD	
43	令和4年10月7日	第7回農場教員会議 ・来年度の講義日程について ・FD活動について	FD	平野、中尾、森田 (隆)、林、 森田 (裕)、増中、大塚 (計7名)
		・SD活動について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
44	令和4年10月13日	第10回農学部教授会 ・学生懲戒規程の一部改正について ・国際化計画2026（後半部）について ・研究力向上に係る研究DXの学内計画の策定について ・2023年度学術研究振興資金および若手・女性研究者奨励金の申請について ・学部長等選挙について ・3年次編入学試験のとりやめについて ・スポーツ推薦事前面談について ・2023年度名城大学農学部附属高等学校特別推薦入学候補者選抜基礎学力試験実施要項について ・2025年度入試における大学入試改革対応について ・教育功労賞について ・化学物質のリスクアセスメントの実施結果について ・消防訓練実施について ・農学部ホームページ英語版について ・令和4年度農場公開講演会の実施について ・教員の懲戒について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、藤原（計41名）
		・日本学生支援機構奨学金返還免除候補者選考規程および日本学生支援機構奨学金返還免除候補者選考基準内規の一部改正について ・赤崎勇賞奨励金の創設およびそれに伴う内規の新規制定について ・附属図書館利用者アンケートの結果について ・成績不振学生の面談について ・前期授業改善アンケート結果について ・後期授業改善アンケートについて ・2023年度 GPS-Academic について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
45	令和4年10月13日	第9回生物資源学科会議 ・新カリキュラムについて ・既存科目の名称変更・閉講・新設科目の開講 ・履修系統図の修正 ・『データサイエンス・AI入門』の『農学部特別講義』からの科目化と教養科目への配置転換 ・『データサイエンス・AI入門』の接続講義の検討 ・高校の学習指導要領との接続（情報、課題学習、教科横断的指導） ・カリキュラムのスリム化 ・リモート講義の拡充 ・「生命・食料・環境」の来年度の実施方法（学科長） ・ミキサーについて	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
46	令和4年10月13日	第10回応用生物化学科会議 ・2023年度化学実験と応用生物化学実験の日程について ・教養教育科目「地球と宇宙」の非常勤講師紹介依頼について ・2022年度農学部卒業研究発表会について ・2025年度に向けたカリキュラム改正について ・後援会寄付の学生実験用機器について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）
		・在学年数6年以上の学生と成績不振学生について ・2023年度他学部他学科履修について ・2023年度愛知学長懇話会単位互換授業について ・次期学部執行部選挙の立会人について ・実験・実習室等の改修工事のための調査について（継続） ・総合型選抜スポーツ入試について	SD	
47	令和4年10月13日	第12回生物環境科学科会議 ・次年度実験実習日程表について ・2025年度カリキュラム改正について ・学生出張について ・後援会寄付金の使途について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、大浦（計12名）
		・成績不振・在学年数超過学生について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
48	令和4年10月27日	第11回農学部教授会 ・2023年度附属高等学校特別推薦入学候補者基礎学力試験の判定について ・電子資料の購読について ・令和4年度教授会の日程変更について ・卒業研究発表会について ・2023年度学生便覧について ・遠隔授業の活用に関する意見聴取について ・試験における不正行為に関する内規、学生の懲戒ガイドラインの再改正案について ・2023年度の推薦入学試験について ・2023年度入学試験追加合格について ・交換留学協定の期限更新について ・学術交流協定及び交換留学協定の新規締結について ・教職員の海外渡航の取り扱いについて ・外国人研究員（短期）の受け入れルールの緩和について ・教職員向け海外危機管理セミナーの実施について ・教職員の健康診断受診状況について ・組換え DNA 講演会について ・農学部スポーツ大会について ・学生出張の「付帯条件確認書」の取り扱いについて ・昇格人事について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、黒川、近澤、長澤（計41名）
		・令和4年度名城大学チャレンジ支援プログラム受講生の選考結果について ・後期スチューデントアシスタントについて ・ウィズコロナにおける海外研修プログラムについて ・夏季LIVE留学の参加者アンケートについて ・さくっとONLINE英会話について ・GPS-Academic受検について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
49	令和4年10月27日	第10回生物資源学科会議 ・卒業研究発表会、2023年度学生便覧等について ・ミキサーの実施方法について ・次年度の生物資源学概説の実施方法について ・次年度の生命食料環境の実施方法について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
		・「障がいのある入学志願者対応に関する申合せ事項」の一部追加、ならびにそれに対応した現行入試ガイドの一部文言の修正について	SD	
50	令和4年10月27日	第11回応用生物化学科会議 ・2022年度卒業研究発表会について ・2023年度入試各方式別目標定員について ・2024年度入試基本事項の変更について ・2025年度に向けたカリキュラム改正について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）
		・2023年度版学生便覧の作成について ・2023年度時間割と倫理教育科目の確認について	SD	
51	令和4年10月27日	第13回生物環境科学科会議 ・附属特別推薦入学試験について ・推薦入学試験について ・入学試験基本事項について ・学生出張について ・令和5年度予算要求について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、大浦（計12名）
		・障がい学生の入学試験対応について	SD	
52	令和4年11月8日	第8回農場教員会議 ・カリキュラム改正について ・2023年度カリキュラムについて ・FD活動について ・産業医巡視について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、増中、大塚（計7名）
		・SD活動について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
53	令和4年11月17日	<p>第12回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MS-26戦略プラン（部署版）と2023年度事業計画書（学部）について ・領域指定研究センターの設置について ・令和4年度卒業式及び令和5年度入学式の実施方法について ・2023年度「学びのコミュニティ創出支援事業」募集について ・日本学生支援機構令和5年度大学院修士・博士（前期）課程進学予定者に係る特に優れた業績による返還免除内定候補者募集について ・新型コロナウイルス感染症に係る長期欠席への対応について ・シラバス記述チェックリストについて ・スタディサプリについて ・入学前オリエンテーションおよびMECプログラムについて ・GPS-Academicについて ・K方式入試導入に伴う入試基本事項について ・父母懇談会のアンケート集約結果について 	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原（計44名）
		<ul style="list-style-type: none"> ・学術コンサルティング制度の新設および関連要項の新規制定について ・ウィズコロナにおける国際化推進に係る各種取り扱いについて ・令和4年度教育功労賞の推薦依頼について ・農学部公募制推薦入試実施について ・出張手続きについて 	SD	
54	令和4年11月17日	<p>第11回生物資源学科会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正について ・教育活動の見直しについて ・厳格な成績評価を行うための方策の検討 ・生命食料環境、来年度の実施方法 ・卒業研究発表会について 	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
55	令和4年11月17日	第12回応用生物化学科会議 ・K方式入試導入時の入試区分別定員について ・大学案内2023の校正について ・学部・学科 INDEX 欄の学びの特色について ・K方式入試の合否判定について ・今後の追加合格候補者の選出について ・2023年度推薦入試における障がい者対応について ・2023年度実験実習等時間割について ・2022年度卒業研究発表会について ・2023年度学生便覧の確認について ・2023年度の指導教員面談とゼミナールの使用教室希望調査について ・2023年度の2年生ガイダンスとミキサーについて ・2025年度に向けたカリキュラム改正について ・第2回カリキュラム改正委員会での審議依頼	FD	加藤*、志水、奥村、湊、近澤*、林(利)*、長澤、前林、天野、松儀、山口(計11名) *途中での参加・退出
		・GPS-Academicの受検状況について ・受験者数増加に向けた案内の依頼 ・海外渡航における留意点について	SD	
56	令和4年11月17日	第14回生物環境科学科会議 ・卒業研究発表会について ・2023年度シラバス・ゼミナールについて ・2023年度実験実習日程について ・K方式入試の定員および合否判定について ・GPS-Academicについて ・生物環境科学科公開講座について ・2025年度カリキュラム改正について ・大学院生の出張について ・造園施工管理技士の指定学科申請について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、大浦(計13名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
57	令和4年12月1日	<p>第13回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度推薦入学試験の判定について ・2024年度入試基本事項について ・今後の遠隔授業の活用について ・名古屋六大学の連携・協力に関する協定の締結について ・試験における不正行為に関する内規および学生の懲戒ガイドラインの一部改正について ・ATR-CALL システムについて ・教育研究環境の安全管理について ・海外語学研修に対する単位認定について ・夏季インターンシップに対する単位認定について ・農学部推薦入試追試験について 	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、植崎、藤原（計44名）
		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4（2022）年度教職員向け海外危機管理セミナーの実施について ・学術コンサルティング制度の新設および関連要項の新規制定について ・名城大学リサーチフェア2022の開催について ・技術流出の防止について 	SD	
58	令和4年12月1日	<p>第12回生物資源学科会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の研究室配属について 	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
59	令和4年12月1日	<p>第13回応用生物化学学科会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度公募制推薦入学試験等の合否判定（取扱注意：入試合否判定） ・2022年度化学実験の実施と分担について ・応用生物化学実験の日程について（継続） ・卒業研究発表会の演題集約期限の確認について ・化学実験の成績の集約について ・公衆衛生学の担当者について ・2023年度学生便覧の編集について ・2023年度授業科目のシラバス作成について ・4機関研究発表会運営委員会より 	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
60	令和4年12月1日	第15回生物環境科学科会議 ・推薦入試の合否判定について ・学びのコミュニティについて	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、 近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、 大浦（計13名）
		・実験実習中の体調不良学生への対処について	SD	
61	令和4年12月2日	第9回農場教員会議 ・実験準備室の使用について ・FD活動について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、 森田（裕）、増中、大塚（計7名）
		・学生アンケートによる教育活動の見直しに関する議論について ・SD活動について	SD	
62	令和4年12月15日	第14回農学部教授会 ・2023年度推薦入学試験追試験の判定について ・令和5（2023）年度前期受入れ交換留学奨学生の選考について ・令和5年度対面と遠隔授業の並行を試行する科目について ・後期授業改善アンケートについて	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、 鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、 日野、平野、前林、松儀、湊、村野、 森上、山岸、山口、天野、荒川、 太田垣、奥村、長田、香村、兒島、 近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、 濱本、林（義）、平児、森田（隆）、 黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原 （計42名）
		・令和4年度名誉教授推薦及び令和5年度教員昇格に係る教員資格審査教授会、任用教授会の報告について ・学部長等選挙について ・学生に対する合理的配慮の取り扱いに関する勉強会について	SD	
63	令和4年12月15日	第13回生物資源学科会議 ・2023年度学びのコミュニティ創出支援事業の申請について ・対面/遠隔並行授業を試行する科目について等 ・専門実験について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平児、 上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、 太田垣、藤原（計12名）
		・大学設置基準等における教育課程等の特例制度の申請意向について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
64	令和4年12月15日	第14回応用生物化学科会議 ・2023年度公募制推薦入学試験追試験の合否判定 ・2023年度一般入試受験生について ・オムニバス科目のシラバスの確認について ・化学実験の成績提出について ・対面／遠隔並行授業の試行について ・現1年生対象英語プレイスメントテストについて ・卒業研究発表会について ・授業担当者の変更について ・令和4年度卒業祝賀会について ・農場ファームスタッフの雇用について ・今後の学生帯同出張について	FD	加藤*、志水、氏田*、奥村、湊、近澤、林(利)、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本* (計13名) *途中での参加・退出
		・後援会からの機器備品援助費について ・学びのコミュニティ創出支援事業の申請について ・再開発における天白6・7号館の活用について	SD	
65	令和4年12月15日	第16回生物環境科学科会議 ・推薦入試の合否判定について ・障がい学生への対応について ・2023年度オンデマンド・対面の併用講義について ・学びのコミュニティについて	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、大浦 (計13名)
		・大学設置基準等における教育課程等の特例制度の申請意向について ・6・7号館の活用について ・後援会寄付金について	SD	
66	令和5年1月6日	第10回農場教員会議 ・FD活動について	FD	平野、中尾、森田(隆)、林、大塚 (計5名)
		・SD活動について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
67	令和5年1月12日	第15回農学部教授会 ・卒業研究発表会について ・令和4年度春季語学研修実施に伴う単位認定について ・令和5年度学生便覧について ・実務経験のある教員および担当科目等の情報提供依頼について ・試験における不正行為への対応明確化を目的とした教務規定一部改正について ・学生支援機構奨学金返還免除候補者について ・トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラムの次年度派遣留学生の募集について ・スタディサプリについて ・情報処理教室等のパソコンヘインストールを希望するソフトウェアについて ・名古屋市農業センターとの相互協力及び連携について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原（計43名）
		・労働安全衛生法の改正に伴う化学物質に対する新規規制について ・2023年度入学試験（A F・B方式）実施について ・2023年度入試におけるコロナ対応の一部変更について	SD	
68	令和5年1月13日	第17回生物環境科学科会議 ・卒論発表会について ・学生便覧記載専門教育部門の必修科目について ・2025年度カリキュラム改正について ・学生出張について	FD	汪、長田、日野、新妻、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、大浦（計12名）
69	令和5年1月20日	第14回生物資源学科会議 ・大学院のカリキュラム改正について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
70	令和5年1月26日	第16回農学部教授会 ・学長表彰候補者について ・副専攻データサイエンス・AIの設置に伴う副専攻要項の一部改正について ・試験における不正行為への対応の明確化に伴う教務規程および試験における不正行為に関する内規の一部改正について ・学生の懲戒ガイドラインの一部改正について ・各種奨学生の選考について ・令和4年度日本学生支援機構「特に優れた業績による返還免除」候補者募集について ・各学科DP対応ポートフォリオについて ・大学設置基準改正に伴う留年者対応について ・授業欠席時の学修支援に係る情報発信について ・インターナショナル教育・研究センターアジア大学教員学位取得支援プログラム変更に伴う奨学生規程および奨学生内規の一部改正について ・学内で実施されている社会連携事業に関する調査について ・ジョブ型インターンシップ推進協議会への入会について ・就職サポーター制度内規の一部改正について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、新妻、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原（計44名）
		・海外派遣学生緊急事態対応マニュアルについて ・障がい等のある受験生の相談会について	SD	
71	令和5年1月26日	第15回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平児、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
72	令和5年1月26日	第15回応用生物化学科会議 ・2022年度化学実験の成績評価について ・化学実験での欠席に関する今後の扱いについて ・公衆衛生学の非常勤講師について ・年度末残予算の用途について ・第3回カリキュラム改正委員会の報告 ・一般選抜A・F方式入試における配慮申請について ・外国人留学生特別入試の受験生について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）
		・2023年度国際専門研修プログラムについて ・学会催事への学生実験室の貸出について	SD	
73	令和5年1月26日	第18回生物環境科学科会議 ・外国人留学生特別入試の受験生について ・卒業研究発表会について ・第3回カリキュラム改正委員会報告 ・年度末残予算について	FD	汪、長田、日野、新妻、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、榑崎、大浦（計13名）
74	令和5年2月10日	第11回農場教員会議 ・令和5年度農学部各種委員会の委員について ・大学院カリキュラム改正について ・FD活動について	FD	平野、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、増中、大塚（計7名）
		・SD活動について	SD	
75	令和5年2月13日	第19回生物環境科学科会議 ・A・F・C前入試合否判定について ・入試区分による成績動向やディプロマ・ポリシーに対する達成度について	FD	汪、長田、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、榑崎、大浦（計11名）
		・障がいをもつ学生について ・生物環境科学実験II再履修について	SD	
76	令和5年2月13日	第18回生物資源学科会議 ・A・F・C（前期）・外国人および一次追加合格候補判定	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
		・令和4年度 生物資源学科の国際交流関連事業の実施状況の確認	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
77	令和5年2月13日	第16回応用生物化学科会議 ・令和5年度一般選抜A方式・F方式・C方式前期入学試験の合否判定 ・令和5年度一次追加合格候補者の選出 ・令和5年度外国人特別入学試験の合否判定 ・令和5年度転学科試験について	FD	志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計12名）
		・令和5年度各種委員について ・令和5年度 タワー75空室の利用について	SD	
78	令和5年2月14日	第17回農学部教授会 ・令和4年度特別教育功労賞・教育功労賞の選考について ・大学設置基準改正に伴う基幹教員制度導入への対応について ・授業等における学生の呼び方・敬称について ・各種奨学生の選考について ・動物実験計画書の提出について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、植崎、藤原（計43名）
		・日本学術振興会特別研究員奨励学生制度の創設および関連規定の一部改正について ・入試戦略検討WGの設置について ・2023年度入学試験（B方式）実施要項・監督要項について	SD	
79	令和5年2月20日	第17回応用生物化学科会議 ・転学科試験合否判定 ・カリキュラム検討委員について ・令和5年度委員について ・化学実験主担当の非常勤講師化に関する検討について ・農学部教員編制に関する手続きについて	FD	志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、濱本（計11名）
		・令和5年度の実験テキストの配付方法について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
80	令和5年2月27日	第18回農学部教授会 ・2023年度B方式入学試験判定について ・2023年度A方式、F方式一次追加合格者について ・2023年度転学部等試験の判定について ・令和5年度前期科目等履修生の受け入れについて ・学部の教員編成方針の確認と2024年度以降の教員編成に向けた農学部の考え方について ・令和6年度学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検の実施依頼について ・安衛法改正に伴うがん原性物質の作業記録を30年間保存実施について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原（計43名）
		・2023年度農学部・農学研究科内各種委員会構成について ・国際化推進センター各種奨学金の仕様変更について	SD	
81	令和5年2月27日	第19回生物資源学科会議 ・B方式および一次追加合格判定 ・大学院入試等について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
		・農学部教員編成に関する手続きについて	SD	
82	令和5年2月27日	第18回応用生物化学科会議 ・令和5年度一般選抜B方式入学試験の合否判定 ・令和4年度一次追加合格の判定 ・農学部教員編成に関する手続きについて ・大学院修士課程の定員について	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）
		・今後の卒業研究発表会について	SD	
83	令和5年2月27日	第20回生物環境科学科会議 ・B入試合否判定について ・大学院の定員と推薦入試制度について	FD	汪、長田、日野、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、大浦（計12名）
		・教員人事選考方法の在り方について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
84	令和5年3月2日	第19回農学部教授会 ・2022年度卒業判定について ・GPS-Academic 受検結果報告について ・東北大学次世代放射光施設 (NanoTerasu ナノテラス) の利用について ・大学院教員資格審査について ・2022年度自己点検・評価報告書兼事業報告書 (部署版) の作成について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、林 (利)、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林 (義)、平兎、細田、森田 (隆)、森田 (裕)、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原 (計42名)
		・2023年度農学部・農学研究科内各種委員会構成について ・各種奨学生の選考について	SD	
85	令和5年3月2日	第19回応用生物化学科会議 ・大学設置基準改正に伴う基幹教員制度の導入について ・次年度の化学実験の担当者について ・大学院生の派遣等に関する手続きについて ・農学部教員編制に関する手続きについて	FD	加藤、奥村、湊、近澤、林 (利)、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本 (計11名)
		・学生への接し方について	SD	
86	令和5年3月3日	第12回農場教員会議 ・教員編成方針の提案について ・大学院修士課程の入学定員について ・農学研究科修士課程推薦入試での成績要件について ・修士課程専修分野の名称変更について ・FD 活動について	FD	平野、中尾、森田 (隆)、林、森田 (裕)、増中、大塚 (計7名)
		・SD 活動について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
87	令和5年3月9日	第20回農学部教授会 ・2023年度C方式（後期）入学試験判定について ・2023年度A方式、F方式、B方式、C方式（前期）二次追加合格者について ・2023年度最終追加合格候補者について ・2022年度進級判定について ・学籍異動について ・大学設置基準改正に伴う基幹教員制度導入に係る主要授業科目選定調査について ・教員業績評価の適切性の検証について ・農学部カリキュラム改正委員会中間報告について	FD	磯井、氏田、上船、汪、大浦、加藤、鈴木、田村、津呂、林（利）、日野、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山岸、山口、天野、荒川、太田垣、奥村、長田、香村、兒島、近藤、志水、塚越、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕）、黒川、近澤、長澤、檜崎、藤原（計43名）
		・2023年度農学部・農学研究科内各種委員会構成（修正版）について ・令和5年度エクステンション開講講座について ・愛岐留学生就職支援コンソーシアムについて ・メイネット更改5基の進捗状況について	SD	
88	令和5年3月9日	第20回生物資源学科会議 ・C方式（後期）および最終追加合格候補者判定 ・生物資源学概説について ・配属について ・主要授業科目の選定と専門実験科目のシラバス内容変更について	FD	山岸、平野、津呂、荒川、平見、上船、塚越、黒川、鈴木、兒島、太田垣、藤原（計12名）
		・研究室活動における危機管理について	SD	
89	令和5年3月9日	第20回応用生物化学科会議 ・令和5年度一般選抜入学試験C方式（後期）の合否判定 ・令和5年度入学試験最終追加合格候補者の選出 ・大学院の定員について ・大学院生の引率・派遣についての協議過程の報告	FD	加藤、志水、氏田、奥村、湊、近澤、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本（計13名）
		・学生への安全教育について	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
90	令和5年3月9日	第21回生物環境科学科会議 ・C 後期入試合否判定について ・三峡大学とのシンポジウム実施について	FD	汪、長田、日野、田村、細田、近藤、藤、磯井、村野、橋本、檜崎、大浦（計12名）
		・障がいをもつ学生について ・フィールドワーク WG について	SD	

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

活動方針：令和4年度は新カリキュラム4年目となる。コロナ禍にはあるが、新たな試みである指導教員グループ制や修士課程の中間発表などの実施においてさらなる創意工夫を重ねる。

活動目標：コロナ禍ではあるが、新カリキュラムを確実に実施

活動内容：

① FD 共通課題（学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善）

大学院生全員が受講する農学特別演習において、毎回提出を義務づけているレポートの取り扱いについてこれを着実に遂行した。すなわち、発表者の発表内容に対して、その「価値」、「質疑」、「触発」、「質問」に分けてコメント、さらに、発表全体に対する意見を報告させ、特任助手の協力により発表者別に整理した。これらを発表者にフィードバックすることを予定している。

② SD 共通課題（ハラスメント）

ハラスメントの疑いがある事案については、個人情報保護に気を配りながら教員と職員が協同して解決に向け取り組んでいる。

③ その他研究科独自の取組

副指導教員による最終審査時以外の指導が総じて行われていない現状を鑑み、新カリキュラムが始まった令和元年度より副指導教員を含む指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における研究進捗状況の確認作業を実施している。修士課程においては、新カリキュラムへ移行後実施している中間発表を、新型コロナウイルス感染予防のため昨年度までは当初予定していたポスター発表から口頭発表に変更して実施していたが、本年度は初めてポスター発表にて実施した。

昨年度までは博士後期課程への進学者が少なかった状況を鑑み、修士課程1年生を対象に特任助手による「博士課程紹介」を実施した。本年度の博士課程入学者は3名、来年度入学者は4名となった。

2. 今後の課題、方向性

修士課程入学者が定員を大幅に超過する年度が続いて状況を鑑み、入学定員の見直しに着手した。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年5月2日	・事業計画について ・新任教員研究紹介、博士課程紹介について ・研究倫理（博士後期課程）について	FD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
		・日本語を話せない外国人の学位審査（課程博士）について	SD	
2	令和4年5月24日	・修士課程中間発表会について ・FD・SD取組の推進について ・研究倫理（博士後期課程）について ・カリキュラム改正について ・外国人の論文博士について	FD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
3	令和4年6月21日	・学外授業および出張について ・修士課程中間発表会について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
4	令和4年7月18日	・学外授業および出張について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
5	令和4年7月20日	・学外授業および出張について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本・奥田 計7名
6	令和4年9月5日	・カリキュラム改正について ・学外授業および出張について ・奨学生申し合わせについて	FD・SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本・奥田 計7名
7	令和4年9月16日	・奨学生申し合わせについて ・学外授業および出張について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
8	令和4年10月5日	・奨学生申し合わせについて ・学外授業および出張について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・岡本・奥田 計6名
		・GPS-Academicの受検について	FD	
9	令和4年10月5日	・奨学生申し合わせについて ・学外授業および出張について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本・奥田 計7名
		・GPS-Academicの受検について	FD	
10	令和4年11月21日	・奨学生申し合わせについて ・学外授業および出張について	SD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
11	令和5年1月6日	・修士論文発表会について	FD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
		・学外授業および出張について	SD	
12	令和5年1月19日	・教職課程自己点検シートについて	FD	磯井・平野・鈴木・前林・大浦・岡本 計6名
		・留学や学会発表等による単位認定について	SD	

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

1) 薬学部 FD・SD 委員会活動目標及び活動項目

FD 活動の定義：薬学部の教育理念、目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

A. 実質的な授業改善

- ①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出
- ②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

B. 学生の主体的な学びの促進

- ①学生の主体的活動のサポート
- ②学びの成果の可視化→全学共通 FD 課題：①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

C. 教育活動の可視化と IR の実施

- ①教育活動の可視化
- ②IR の実施と教育改善の提案→全学共通 SD 課題：教学 IR

2) 令和3年度活動内容

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

前期61科目実施 回収率平均 91.2%（昨年度93.8%、一昨年度92.3%）

後期52科目実施 回収率平均 88.5%（昨年度88.9%、一昨年度91.9%）

- ・前期授業改善アンケート結果及び成績を用い、2019、2020、2021年度で比較したところ、概ね遠隔の繰り返しできる環境は学修効果が相対的に高いこと、ディスカッションや発話を中心とする科目は遠隔環境では学修効果が低下している傾向があること、2022年度は遠隔での経験を踏まえた改善がなされたことが影響して全体的に改善していること、目標達成、成長実感、満足度など、他者との関わりで気づきやすいものは、横ばいか低下していることなどを確認した。
- ・学生へのフィードバックとして、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート化し、当該学年の平均を含めて可視化した。
- ・教員へのフィードバックでは、授業改善のヒントとなるように、下記のデータを IR の一環として作成し、フィードバックした。フィードバック内容：当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート（全科目平均及び当該学年平均含む）、当該科目成績と満足度の関係、当該科目

成績と各指標の関連の散布図（基礎学力、授業外学習時間、授業集中、理解度、到達度、満足度）、各系列の科目の各指標の分布グラフ

- ・教員から各科目履修学生への授業改善アンケートについてのフィードバックは、専任教員で100%（昨年93.4%）であった（前期）。後期についても、同様の検討およびフィードバックを行う。

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

下記内容で、FD・SD 講演会及び検討を行った。

- ・成績評価の平準化についての検討

実施日：2022年9月14日

「教養演習1」「英語中級1、2（コミュニケーション）」「英語中級1、2（リーディング）」

「基礎化学」「有機薬化学1、2、3」について現状を詳細に検討した。

- ・FD 報告（教学 IR 2016入学生評価）

実施日：2022年10月27日

- ・「薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の趣旨とポイント」

実施日：2023年2月17日

講師：大津 史子氏（名城大学薬学部）

B. 学生の主体的な学びの促進

①学びの成果の可視化→全学共通 FD 課題：①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

1－4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期毎に行った。1－3年生については、指導教員の面談時に利用した。

1、4年生を対象に、外部指標として GPS-Academic を実施した。

C. 教育活動の可視化と IR の実施→全学共通 SD 課題：遠隔講義への対応、IR

①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、令和元年度より行っているディプロマ・ルーブリックによる振り返りを半期毎に実施すると共に、半期の学びを振り返る学習成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行った。

○振り返りの実施時期

前期：8月中（未実施は、再実施メールにて督促）

後期：3月中（未実施は、再実施メールにて督促）

○内容

- ・ディプロマ・ルーブリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」、「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、以下の様な振り返りを行う。
- ・思うように行ったこと、・思うように行かなかったこと、・できるようになったこと

・まだ不十分なこと、・次に活かすこと

② IR の実施と教育改善の提案

・サテライト形式の講義についてのアンケート結果について

平均回収率58.7%（5年生を除く全学年）

コロナ禍により、2020年度後期から行ってきた薬学部独自の講義形式であるサテライト授業について、アンケート調査・分析を行い、①サテライト形式での講義に対する満足度、②ホスト教室とゲスト教室での理解度の違い、③ホスト教室とゲスト教室の受講態度の違い、さらに④サテライト形式の授業に対する要望などを把握した。次年度以降も本方式の授業形態が必要であれば、要望に沿った形での改善策を提案したい。

・令和3年度学位授与方針対応表の検証について

2016年度入学生に対して行った。

- a. 領域、順次性、難易度を踏まえた体系性
- b. ディプロマ・ポリシーでうたっている能力の育成とカリキュラムの整合性
- c. 学生の学修成果の確認
- d. アセスメントポリシーに基づく評価（学位プログラムの評価）

材料：

間接データ：ディプロマ・ルーブリック、授業評価アンケートなど

直接データ：PROGテスト、ディプロマ・ルーブリック毎の成績、修得度など

上記の情報を材料として、分析を行い、学位授与方針対応表にもとづく学修成果が得られているか、また、学修成果を評価し、課題と改善点を提案した。

・学生の主体的な学びの促進

①学びの成果の可視化

ディプロマ・ルーブリックの自己評価、学習成績のレーダーチャート作成、模試結果推移のレーダーチャート作成、学習スタイル、外部学修成果調査指標などの学生自身の学びのサマライズとリフレクションを促すサポート。

1、4年生を対象に、外部指標としてGPS-Academicを実施。

2. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年6月22日	第1回FD・SD委員会（メール審議） 1. 2022年度前期授業改善アンケート実施について 2. サテライト授業についてのアンケート実施について	FD	能勢委員長、飯田、打矢、大津、北垣、小森、田口、野田、山田、犬山 計10名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
2	令和4年9月14日	第2回FD・SD委員会 1. 2022年度授業改善アンケート結果について 2. 学修成果の可視化について 3. 成績評価の平準化について 4. FD・SD講演会について 5. 学位記授与方針対応表および履修系統図について	FD	能勢委員長、飯田、打矢、大津、北垣、小森、野田、山田、犬山 計9名
3	令和4年9月28日	第3回FD・SD委員会（メール審議） 1. サテライト授業についてのアンケート結果について	FD	能勢委員長、飯田、打矢、大津、北垣、小森、田口、野田、山田、犬山 計10名
4	令和4年10月27日	令和5年度学位授与方針対応表およびアセスメントポリシーに基づく学修成果のエビデンスについて	FD	青木、飯田、伊東、井藤、衣斐、今西、植田、牛田、打矢、梅田、大津、岡本（浩）、岡本（誉）、奥田、小田、加藤、金子、亀井、北垣、栗本、黒野、小島、小森、近藤（梨）、酒井（隆）、坂井、榊原、神野、高谷、田口、武田、武永、田辺、築山、都築、豊田、永松、灘井、西川、丹羽、根岸、能勢、野田、橋本、長谷川、早川、原、半谷、日坂、平松、リバック、松本、間宮、水野、水本、村田、森、守屋、柳澤、山田、湯川、吉田、吉見、脇田、輪島 計65名
5	令和5年1月31日	第4回FD・SD委員会（メール会議） 1. FD・SD講演会の実施について	FD	能勢委員長、飯田、打矢、大津、北垣、小森、田口、野田、山田、犬山 計10名
6	令和5年2月17日	FD・SD講演会 内容：「薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の趣旨とポイント」 講師：大津 史子氏（名城大学薬学部）	FD	青木、飯田、伊東、井藤、稲垣、衣斐、今西、植田、牛田、打矢、梅田、大津、岡本（誉）、加藤、亀井、北垣、黒野、小島、小森、近藤、酒井（隆）、酒井（達）、榊原、神野、高橋、高谷、田口、武永、豊田、永松、灘井、西川、丹羽、根岸、能勢、橋本、長谷川、半谷、日坂、間宮、水本、山田、湯川、吉見、輪島、犬山 計46名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

1) 大学院薬学研究科 FD・SD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD・SD 委員会が中心となって FD・SD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

2) 令和4年度の FD・SD 委員会の活動内容

以下について活動を行った。(行っている。)

- 教員・学生に対する授業改善アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施
- 授業改善アンケートの内容についての検討

3) FD・SD の取り組みを推進する具体的な活動実績

I. 授業改善アンケートを活用した今後の授業改善について

令和4年度「特論」科目（講義）に関するアンケートを前期終了時に実施した。

該当科目：3 教科、回答率 学生：78%、教員：57%（令和3年度前期 該当科目：1 教科、回答率 学生：33%、教員：56%、令和2年度前期 該当科目：3 教科（リモート）、回答率 学生：38%、教員：36%）。アンケートの実施方法を Google Form を利用する方法に変更し、回収率向上につなげることができた。アンケート結果を大学院運営委員会にて共有し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。後期開講科目についても、現在実施中である。

II. 特殊研究評価アンケートについて

3 月初旬に実施する特殊研究成果発表会の後に特殊研究評価アンケート調査を予定しており、結果を教員・学生双方にフィードバックする予定である。

III. 副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け（面談シート回収率：69%）、主指導教員とは異なる多様な助言が得られるような環境づくりを推進した。

2. 今後の課題、方向性

(1) 授業改善に向けたアンケートの実施

次年度も今年度と内容を変更することなく、大学院講義に対するアンケートを実施する。学生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り方について、学部FD・SD委員会と協同し、FDワークショップの実施を検討する。

(2) ディプロマポリシーに明示した学修成果の可視化

ディプロマポリシーに明示した学修成果を可視化する試みの一つとして、今年度より学生に対し、後期開講科目の授業改善アンケート実施時に、年度振り返りアンケートを実施する予定である。

(3) 「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和4年7月25日	第1回薬学研究科FD・SD委員会 授業アンケートの内容について	FD	大津史子、能勢充彦、北垣伸治、 深川麻美（計4名）
2	令和4年9月2日	令和4年度前期授業改善アンケート について	FD	亀井浩行、永松正、大津史子、 半谷眞七子、能勢充彦、野田幸裕、 脇田康志、平松正行、柳澤聖、 築山郁人、小島良二、間宮隆吉、 衣斐大祐、灘井雅行、加藤美紀、 奥田知将、北垣伸治、原脩、 坂井健男、岡本浩一、丹羽敏幸 （計21名）
3	令和4年 9月～10月	令和4年度前期授業改善アンケート	FD	全学生 亀井浩行、永松正、大津史子、 半谷眞七子、能勢充彦、野田幸裕、 脇田康志、平松正行、柳澤聖、 築山郁人、小島良二、間宮隆吉、 衣斐大祐、灘井雅行、加藤美紀、 奥田知将、北垣伸治、原脩、 坂井健男、岡本浩一、丹羽敏幸 （計21名）
4	令和4年 9月～10月	副指導教員との面談	FD	全学生 平松正行、井藤千裕、岡本浩一、 永松正、灘井雅行、柳澤聖、 脇田康志、衣斐大祐、加藤美紀、 半谷眞七子、高谷芳明、根岸隆之、 村田富保、奥田知将（計14名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和5年1月26日	令和4年度 後期授業改善アンケート について	FD	柳澤聖、築山郁人、 マーク・リバック（計3名）
6	令和5年 1月～3月	令和4年度 後期授業改善アンケート	FD	全学生 柳澤聖、築山郁人、 マーク・リバック（計3名）
7	令和5年3月13日	令和4年度特殊研究評価アンケート	FD	全学生 【主指導教員】 井藤千裕、大津史子、神野透人、 灘井雅行、丹羽敏幸、野田幸裕、 平松正行、湯川和典、岡本浩一、 柳澤聖（計10名）
8	令和5年3月13日	令和4年度 振り返りアンケート (特殊研究評価アンケートに含む)	FD	全学生

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

＜活動方針＞

① FD 共通課題

外部調査（アセスメントテスト GPS-Academic）により、学生の学修成果を可視化し、学年間での比較、学年進行による学修進捗確認を通じて、専門科目、ゼミナール等での学生指導に役立てる。

② SD 共通課題（社会人基礎力の育成）

経済産業省『社会人基礎力を育成する授業30選』実践事例集を活用した教職員に必要な知識及び技能の修得

③ その他学部独自の取組

社会人基礎力診断テストを継続的に実施することにより、学生の成長度合いを組織的に確認し、学生の修学意欲を向上させる取組として活用していく。

社会人基礎力診断テストにおける入学から卒業までの推移把握を実施し、経年比較による在学生の傾向を分析し、その結果を全教員に共有する。

＜目標＞

全教員が、本学部学科の人材養成目的を認識し、学位授与方針（Diploma Policy）に記載する資質能力を身につけさせることを意識したうえで、授業における課題、工夫を明確にし、特にゼミナール運営・指導の工夫に取り組み、改善に繋げることによって学生の成長に役立てる。また、組織として、学生の成長推移、学修進捗を分析確認しながら、取組を展開する。

＜活動内容＞

① 学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

- ・『アセスメントテスト GPS-Academic（1年次）』の経年での集計・分析結果を教授会で共有する。
- ・全学年の学生を対象に社会人基礎力診断テストを実施し、集計結果を教授会で共有する。各教員が集計結果を活かしてゼミナール実施方法を工夫し、ゼミナール指導による学生の研究力向上、プレゼンテーション能力向上に繋げる。

② その他学部独自の取組（SD含む）

授業改善アンケートの対象科目を1教員2科目以上で実施し、フィードバックされた結果を各教員が授業改善に繋げる。

後期授業終了後には、各教員へ今年度の授業実施に関する独自アンケートを実施し、学生の授業改善アンケート結果も含めた振り返りと自己点検の機会を提供している。アンケート結果は、集計して教授会で公表する予定である。

ゼミナールにおいては、中間発表会、卒業論文発表会を実施することで、研究力、プレゼンテーション能力等の成長度についての検証をする。

在学生の状況や様子、講義受講状況を報告しあい、情報共有、情報交換を活発に行うことによって、学生の修学支援に繋げる。

2. 今後の課題、方向性

FD・SD委員会を中心として、学部内関連委員会との連携による系統的な取り組みの検討・実施を実現する。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取り組みの場とする。

GPS-Academic アセスメントテスト実施の分析結果に基づいて、教育改善・改革、学生の成長機会提供に向けたアクションを組織的に検討する。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年4月4日 (FD・SD委員会)	社会人基礎力診断テスト実施方法を検討し、次回教授会(4月7日開催)へ審議提案した。	FD	酒井、稲葉、小池、手嶋 計4名
2	令和4年5月26日 (FD・SD委員会)	FD・SD取組を推進する組織の活動について、活動目標及び具体的取組の内容を精査し、SDに関する新たな取組を加えた。	FD	酒井、稲葉、手嶋 計3名
3	令和4年6月30日 (FD・SD委員会)	社会人基礎力診断テスト(1・2・3・4年次)について、年次ごとの回答状況と経年による回答の変化を確認した。	FD	酒井、稲葉、小池、手嶋 計4名
4	令和4年7月15日	第16回学習会	SD	赤木、杉浦(真)、酒井、張、昇、杉浦(伸)、大野(沙) 計7名
5	令和4年7月21日 (FD・SD委員会)	社会人基礎力診断テスト(1・2・3・4年次)について、回答分析結果を資料に基づき確認し、次回教授会(7月28日開催)での報告を検討した。	FD	酒井、手嶋 計2名
6	令和4年7月28日 (教授会)	社会人基礎力診断テスト(1・2・3・4年次)の実施分析結果を共有し意見交換した。	FD	赤木、稲葉、宇野、大野(栄)、鎌田、亀井、柄谷、酒井、島田、杉浦(真)、鈴木(淳)、張、手嶋、西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、山谷、若林、杉浦(伸)、田口、鈴木(千)、大野(沙)、森 計26名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和4年9月12日	第17回学習会	SD	大野（栄）、島田、杉浦（真）、張、手嶋、杉浦（伸）、大野（沙）、森 計8名
8	令和4年9月22日 (FD・SD委員会)	1年次生対象アセスメントテストGPS-Academicの実施・分析結果を確認し意見交換した。	FD	酒井、手嶋 計2名
9	令和4年11月17日 (FD・SD委員会)	3年次生GPS-Academicアセスメントテストにおけるアンケートについて学部教育の検討に繋がる設問を抽出して集計し、結果から見える課題を確認した。	FD	酒井、手嶋 計2名
10	令和4年12月14日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施する『授業改善の達成度に関する評価アンケート』の設問項目を検討し、確認した。	FD	酒井、小池、手嶋 計3名
11	令和5年1月13日	第24回FD・SDフォーラム	SD	酒井、大野（栄）、昇、杉浦（真）、若林、大野（沙） 参加者計6名
12	令和5年1月19日 (FD・SD委員会)	GPS-Academicアセスメントテスト実施結果のまとめ及び分析結果を確認し、次回教授会（1月26日開催）での報告を検討 (報告：ベネッセiキャリア田邊氏)	FD	酒井、手嶋 計2名
13	令和5年1月26日 (教授会)	GPS-Academicアセスメントテスト実施結果まとめ及び学修成果の現状を確認し、課題抽出 (講演：ベネッセiキャリア田邊氏)	FD	赤木、稲葉、宇野、大野（栄）、鎌田、亀井、柄谷、小池、酒井、島田、杉浦（真）、鈴木（淳）、手嶋、西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、山谷、杉浦（伸）、田口、鈴木（千）、大野（沙）、森 計25名
14	令和5年3月10日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施した『授業改善の達成度に関する評価アンケート』結果を集計し共有した。	FD	酒井、手嶋 計2名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

＜活動方針＞

- 1) 大学院生の専門知識や問題解決力の向上と社会人基礎力のスキルアップを目指し、「社会人基礎力育成プログラム」への参加を促すとともに、社会人基礎力調査を継続的に実施する。
- 2) 成績評価・研究進捗の評価・論文審査など、大学院修了に向けた研究プロセスの中で、研究指導担当者としての関わり方、研究指導の効果、適切性などを確認するとともに、研究者養成における課題の検討と改善についてFD活動の継続的取り組みとする。
- 3) 個別の研究指導のなかでは、研究者として研究推進に関わりながら、研究発表の活性化を促し、修士論文や博士論文の成果向上に繋げる。

＜目標＞

- 1) 社会人基礎力に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」などの『行動能力』を意識させるため、社会人基礎力診断を行う。
- 2) 研究プロセス確立のため、大学院入学直後の早期に、主指導教員と副指導教員によって「研究計画書」作成指導のためのディスカッションの機会を設ける。
- 3) 大学院生の研究発表会（中間発表）には、教員及び大学院生への参加を促し、プレゼンテーション能力、研究進捗に対して相互評価を行う。
- 4) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。
- 5) 学外で開催されるFD・SDに係るセミナー・研修会の情報を提供し、参加を推奨する。

＜活動内容＞

① FD 共通課題

修士課程及び博士後期課程の1年次を対象として実施する「研究中間発表会」においては、聴講者が共通の観点での評価を行い、その評価結果を、研究指導教員を通じて発表者へフィードバックする。指導教員は、発表者が評価結果を受け止め、研究の深化、研究者としての成長をはかるとともに、論文の完成を目指し、審査発表会に向けて発表技術の向上に努めるよう助言する。

指導教員は、研究倫理教育を徹底するとともに、『研究指導プロセス』に基づいて、指導学生の研究進捗の状況を確認する。研究科は指導教員と情報を共有し、研究指導プロセスの適切性について意見交換しながら、学位授与に向けた研究進捗と研究成果を確認する。

② SD 共通課題

国の大学院政策や他大学並びに他研究科の取り組みなどを絶えず注視することで、本研究科において取り組んでいる研究指導活動、将来構想、社会のニーズに照らした博士人材づくりについて、さらなる展開を検討していく。

③ その他課題

博士後期課程については、学位授与申請に向けた申請基準の充足状況を年次進行で確認する方法について、新たに作成した『研究活動進捗報告書』を効果的な取組として確立する。

2. 今後の課題、方向性

- 1) 本研究科が掲げるディプロマポリシーを確実に身につけることができるように、研究進捗のプロセス管理の方法等について、組織的な取り組みの適切性の検証を継続的に行う。
- 2) 修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。
- 3) 大学院修了時アンケート及び大学院生満足度調査の結果から、学生の学修成果、意見・要望等を把握し改善に努めるとともに、学部FD委員会との連携の下、組織的な取り組み改善に繋げていく場とする。
- 4) 現行カリキュラムについて、各授業担当者から意見を聴取し、教育課程編成方針に照らしながら次期カリキュラム改正に向けた方向性を検討する。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年5月12日 (学務委員会)	研究中間発表会、学位論文公聴会実施要領の確認 学位授与に関する取扱いの確認	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
2	令和4年6月16日 (学務委員会)	研究中間発表会、学位論文公聴会実施要領の確認 研究活動進捗報告書(案)の意見交換	SD	森杉、西野、福島、山谷 計4名
3	令和4年7月14日 (学務委員会)	研究活動進捗報告書(案)の意見交換<継続>	SD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
4	令和4年10月13日 (学務委員会)	現行カリキュラムの課題と修士課程の在り方について意見交換のうえ、授業科目の内容の可視化を実施	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
5	令和4年12月10日 (学務委員会)	大学院生を対象としたアンケート設問項目を確認	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
6	令和5年1月12日 (学務委員会)	現行カリキュラムの改正に向けた検証方法を検討	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
		学位授与申請受理に係り、学位審査基準に則り、ディプロマポリシーとの確認を審査委員へ依頼	SD	

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和5年3月9日 (学務委員会)	研究活動進捗報告書（修正案）及び 研究計画書の見直しについて意見交 換 研究計画書については、2023年度か ら変更を了承	SD	森杉、西野、福島、山谷 計4名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

人間学部FD・SD委員会は、委員長1名、委員4名、人間学部事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標としてFD・SD活動に取り組んでいる。令和4年度には以下に取り組んだ。

- 人間学部FD・SD委員会の開催
- 人間学部FD・SDフォーラムの開催
- 人間学部FD活動（成績評価の平準化について）
- 前期と後期における学修成果の可視化を目的とした外部調査（GPS-Academic）の実施

人間学部教授会では、第1回から第8回までの大学教育開発センター委員会でのFDに関連する事項が報告され、本学のFD・SD活動についての情報共有が図られている。5月に開催した第1回人間学部・人間学研究科合同のFD・SD委員会では、前期・後期におけるFD活動の計画および進め方に関して協議を行った。

第2回学部・研究科合同でのFD・SD委員会での検討を経て、7月に、第1回人間学部・研究科合同FD・SDフォーラム「新任教員を交えた教授法に関する意見交換会」が開催された。令和4年4月に本学に着任した新任教員を交え、名城大学の授業について気軽に話し合い、授業における工夫等を情報交換・共有することによって授業づくりに活かす機会とすることを趣旨とした。

9月の第9回人間学部教授会においては、人間学部教務委員会から「成績評価（得点分布）一覧人間学部」に関する資料に基づき「成績評価の平準化」についての説明がなされ、その後、様々な意見が出された。今後とも「成績評価の平準化」については引き続き検討がなされる予定である。

第3回学部・研究科合同でのFD・SD委員会での検討を経て、11月に、令和4年度第2回人間学部・研究科合同のFD・SDフォーラムが「学修指導について」をテーマとして開催された。内容としては主として、大学運営を効果的に行うために必要とされる職員の能力・資質を向上させるための組織的な取り組みであるSD活動に該当する。過去4年分の学修指導に関するデータ資料に基づき、担当事務職員および学生委員長からの説明の後、グループに分かれて意見交換が行われた。職員（事務職員、教員）の間で学修指導についての情報共有がなされたことにより、今後の学修指導について考える有意義な場となった。

また、3月には学部・研究科合同の今年度第3回FD・SDフォーラムを開催する予定である。令和4年度に実施したGPS-Academicの結果について意見交換を行うことにより、今後の教育

課題を見出すことを試みる。

2. 今後の課題、方向性

人間学部の学生の4年間における学びを支援するための教育内容および教育環境のさらなる改善に向けた取組を検討、実施する。次年度には、以下のFD・SD活動を予定している。

- FD・SD委員会の開催
- FD・SDフォーラムの開催
- FD・SD情報の共有化のための活動
- 学修成果を可視化するための学部独自の取組の検討およびGPS-Academicの実施

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和4年5月11日	【第1回 人間学部・研究科FD・SD委員会】 ・2022年度 FD・SD委員会活動予定 ・3年生GPS-Academicの実施について	FD・SD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、西山、大西（6名）
2	令和4年6月9日	【第2回 人間学部・研究科FD・SD委員会】 ・FD・SDフォーラム（新任教員を交えた教授法に関する意見交換会）について ・FD・SDフォーラムについて	FD・SD	岡戸、谷口、宮嶋、西山、笠井、中村、大西（7名）
3	令和4年7月14日	第1回 人間学部・研究科合同FD・SDフォーラム テーマ：新任教員を交えた教授法に関する意見交換会	FD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、加茂、和田、櫻井、西村、水尾、畑中、志村、ウェストビィ、加藤、ビーチ、谷口、西山、中村、大西（18名）
4	令和4年7月27日	【第3回 FD・SD委員会（研究科合同）】 ・第2回人間学部・研究科合同FD・SDフォーラムについて ・3年次生のGPS-Academicについて	FD・SD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、西山、笠井、中村（7名）
5	令和4年9月1日	【第9回 人間学部教授会】 成績評価の平準化について	FD	一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、笠井、加茂、櫻井、塩崎、谷口、西村、畑中、船田、宮嶋、和田、ウェストビィ、加藤、西山、原田、荒川、中村（20名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和4年10月14日	<p>【第4回 FD・SD委員会（研究科合同）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回人間学部・大学院人間学研究所合同FD・SDフォーラムについて ・令和5年度学修成果の把握にむけた外部調査実施の希望聴取について ・3年次生のGPS-Academic受検状況について 	FD・SD	岡戸、谷口、志村、西山、笠井、中村（6名）
7	令和4年11月10日	<p>第2回 人間学部・大学院人間学研究所合同FD・SDフォーラム</p> <p>テーマ：学修指導について</p>	SD	一ノ谷、伊藤（康）、岡戸、笠井、加茂、櫻井、谷口、西村、畑中、宮嶋、和田、ウエストビイ、加藤、志村、西山、原田、ビーチ、中村、大西（19名）
8	令和4年11月14日	<p>【第5回 FD・SD委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD・SD活動の中間報告について ・MS-26戦略プランについて ・次年度事業計画書について ・3年次生のGPS-Academic受検状況について 	FD・SD	岡戸、谷口、志村、西山、宮嶋、中村（6名）
9	令和5年1月6日	<p>【第6回 FD・SD委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD・SD活動報告書の作成について ・GPS-Academicについて 	FD・SD	岡戸、笠井、志村、西山、谷口、宮嶋、中村（7名）
10	令和5年3月1日	<p>第3回 人間学部・大学院人間学研究所合同FD・SDフォーラム</p> <p>テーマ：人間学部におけるGPS-Academicの結果からみる人間学部の学修の傾向について</p> <p>講師：ベネッセiキャリア田邊氏</p>	FD・SD	一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、笠井、加茂、塩崎、櫻井、西村、船田、畑中、水尾、宮嶋、和田、ウエストビイ、加藤、志村、西山、原田、中村、大西（21名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

人間学研究科 FD・SD 委員会は、委員長1名、委員3名（内1名は学部 FD・SD 委員長を兼務）、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標として FD・SD 活動に取り組んでいる。令和4年度は以下に取り組んだ。

- 人間学研究科 FD・SD 委員会の開催
- 院生に対するアンケート調査の実施
- 人間学研究科 FD・SD フォーラムの開催

本年度の活動の目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上のための①教育内容及び教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための組織的な研修である。計画内容（具体的取り組み）[達成度指標]は、以下の通りである。（1）学部の FD・SD 委員会と合同で教員の資質向上につながる FD・SD 活動を実施する [実施した FD・SD 活動回数]。（2）大学院生に対する聴き取り調査を行い、問題点を明らかにするとともに、要望への対応策を検討する [聴き取りの実施割合、配慮事例数]。

教授法の充実等については、面接による授業アンケートを行った。院生が少ないことからくる制約は感じられた。また、学内の学習環境に関する要望があがったため、改善に向けて検討を行っている。研究科委員会において、アンケート結果を報告し全教員での共有を図った。

11月に、令和4年度第2回人間学部・研究科合同の FD・SD フォーラムが「学修指導について」をテーマとして開催された。内容は主として、大学運営を効果的に行うために必要とされる職員の能力・資質を向上させるための組織的な取り組みである SD 活動に該当する。過去4年分の学修指導に関するデータ資料に基づき、担当事務職員および学生委員長からの説明の後、グループに分かれて意見交換が行われた。職員（事務職員、教員）の間で学修指導についての情報共有がなされたことにより、今後の学修指導について考える有意義な場となった。

また、3月には学部・研究科合同の第3回 FD・SD フォーラムを開催した。2022年度に実施した GPS-Academic の結果に関してのベネッセの担当者による説明の後、主として2020年度（当時1年生）と2022年度に受検した学生（本年度3年生）の両結果について比較しながら5つのグループで意見交換を行い、今後の教育課題を見出すことを試みた。

2. 今後の課題、方向性

本研究科における FD・SD 活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を検討する。今後の

計画としては、作成された学位授与方針対応表に沿ったシラバスの作成と点検、後期アンケートの実施が予定されている。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年5月6日	【第1回 研究科FD・SD委員会】 ・MS-26戦略プラン及び2022年度事業計画の修正について	FD・SD	笠井、岡戸、加茂、塩崎、久徳（5名）
2	令和4年5月11日	【第1回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・2022年度 FD・SD委員会活動予定	FD・SD	岡戸、大西（2名）
3	令和4年6月9日	【第2回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・FD・SDフォーラム（新任教員を交えた教授法に関する意見交換会）について ・FD・SDフォーラムについて	FD・SD	岡戸、笠井、中村、大西（4名）
4	令和4年6月14日	【第2回 研究科FD・SD委員会】 ・2022年度前期授業アンケートの実施について	FD・SD	笠井、岡戸、加茂、塩崎、大西（5名）
5	令和4年7月14日	第1回 人間学部・研究科合同FD・SDフォーラム テーマ：新任教員を交えた教授法に関する意見交換会	FD・SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、加茂、櫻井、西村、水尾、畑中、西山、中村、大西（12名）
6	令和4年7月27日	【第3回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・第2回人間学部・研究科合同FD・SDフォーラムについて	FD・SD	岡戸、笠井、中村（3名）
7	令和4年10月14日	【第4回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・第2回人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラムについて	FD・SD	岡戸、笠井、中村（3名）
8	令和4年11月10日	第2回 人間学部・研究科合同FD・SDフォーラム テーマ：学修指導について	SD	一ノ谷、伊藤（康）、岡戸、笠井、加茂、櫻井、西村、畑中、宮嶋、原田、中村、大西（12名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	令和4年11月17日	【第3回 研究科FD・SD委員会】 ・MS-26戦略プランの見直しについて ・2023年度事業計画書（部署版）の作成について ・FD・SD活動報告書（中間）について ・2022年度後期授業アンケートの実施について	FD・SD	笠井、岡戸、加茂、塩崎、大西（5名）
10	令和5年1月6日	【第6回 FD・SD委員会（学部合同）】 ・第3回人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラムについて	FD・SD	岡戸、笠井、中村（3名）
11	令和5年3月1日	第3回 人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラム テーマ：人間学部におけるGPS-Academicの結果からみる人間学部の学修の傾向について 講師：ベネッセiキャリア田邊氏	FD・SD	一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、岡戸、笠井、加茂、塩崎、櫻井、西村、船田、畑中、水尾、宮嶋、原田、中村、大西（16名）

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 外国語学部 ）

1. 令和4年度の活動報告

外国語学部では、定例で行われている教授会や各委員会等において、教育改善のための意見交換を行っている。ICT ワークショップ、授業方法の研修会、授業参観プログラム等を通して、総合的な教育改善を推進している。とりわけ英語教育委員会は必修の英語科目の担当教員を支援し、ICT 委員会は教員の ICT 能力を伸ばし、学務委員会は全体的にカリキュラムを改善することに努めている。下記の通り、FD・SD 委員会は各委員会と情報共有し、必要に応じて FD・SD 活動を行った。

① FD・SD 共通課題

- a) 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討した
- b) 学生と学修成果を可視化する取り組みを踏まえた教育改善
 - ・3年生を対象に学修行動調査として GPS-Academic を実施、その結果分析を共有した。
- c) 授業改善アンケートの実施（前期・後期 計2回）
 - ・大学教育開発センター委員会で指定された科目について、授業改善アンケートを実施した。

②その他、学部独自の取り組み

- a) R4 年度第1回ワークショップ：「英語教育の目標達成」の実施
 - ・英語教育目標設定の重要性について英語教員向きの研修会を行った。
- b) 第2回ワークショップ：「MEIGL の使い方」の実施
 - ・本年度より新たに導入された大学のネットワークサービス「MEIGL」の使い方を研修した。
- c) 教員向けの FD に関するアンケートの実施
 - ・今後求められる FD・SD 活動を把握するため、教員にアンケートを実施した。
- d) 授業参観プログラムの実施
 - ・外国語学部教員15名がオムニバス形式で開講する「現代に生きる」の授業を他の教員が参観した。
- e) 授業紹介：「日本とグローバル人材」と「Drama 授業」の実施
 - ・授業紹介を通じて、教員間の経験やアイデアを共有し、学部としての教育力の向上を図った。
- f) R4 年度第3回ワークショップ：「言語 AI の現状とこれから」の実施
 - ・「言語 AI の現状とこれから」について、外部有識者（株式会社デジタルレシピ CEO 伊藤新之介）を招き、オンライン AI サービスの概要、さらには企業が社会人に求める AI スキルについて双方向形式のワークショップの実施

2. 今後の課題、方向性

FD・SD 委員会は激変しているグローバル社会の中で、学部の教育内容および教育環境のさらなる改善に向けた取り組みを検討、実施する。とりわけ、教育進歩のため、授業改善アンケートを実施し、教員支援のために教授法に関する意見交換の機会を作り、AI や ChatGBT 等に関する諸問題を取り組むため、対策を検討する。また、教員が相互に助け合い、支え合っているように授業を紹介する機会を設ける。そして、英語教育質保障のため、英語必修科目のコーディネーションを続けることとする。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年4月4日	ワークショップ： 「英語教育の目標達成」 場所：ZOOM（オンライン） 時間：11：15～12：00 発表者：ウィキン学部 FD 委員長	FD	柳沢、ロジャース、藤原、西尾、 ウィキン、宮崎、プレーバー、 マレー、マイネハン、ディキンソン、 ホール、ガラカー、山口、ロス、 ボイズ、池 計16名
2	令和4年4月14日	ワークショップ： 「MEIGL の使い方」 場所：DN301 時間：13：15～13：45 発表者：柳沢学部 ICT 委員長	SD	ウィキン、柳沢、マレー、津村、 藤原、豊田、西尾、富岡、萩藤、 藤田、呉、池、プレーバー、ガラカー、 ディキンソン、マイネハン、鈴木、 二神、宮下 計19名
3	令和4年4月21日	第1回 FD・SD 委員会 ・令和4年度第1回授業紹介：日本 とグローバル人材	FD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計5名
		・ハラスメントに関する FD・SD セ ミナー ・後期の FD・SD 活動	SD	
4	令和4年4月11日 ～7月18日	授業参観プログラム 外国語学部教員15名がオムニバス形 式で開講する「現代に生きる」の授 業を参観	FD	西尾、ウィキン、柳沢、藤原、宮下、 ロス、プレーバー、池田、岩井、 二神、萩藤 計11名
5	令和4年5月26日	授業紹介：日本とグローバル人材 発表者：藤田衆	FD	富岡、津村、柳沢、藤田、藤原、呉、 岩井、西尾、ウィキン、宮崎、有蘭、 伊藤、宮下、萩藤、マレー、 マイネハン、池 計17名
6	令和4年5月16日	第2回 FD・SD 委員会 外国語学部の「FD・SD 取り組みの 推進組織一覧表」	FD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計5名
7	令和4年9月8日	第3回 FD・SD 委員会 後期の FD・SD 活動の確認	FD	外国語学部 FD・SD 委員会 (ウィキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
8	令和4年9月8日	外国語学部教授会 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討	FD	二神、富岡、津村、柳沢、藤田、藤原、呉、岩井、西尾、ウイキン、宮崎、伊藤、宮下、萩藤、マレー、マイネハン、池、プレーバー、ロジャース、豊田、鈴木、有菌、井上 計23名
9	令和4年9月12日	英語科目担当教員反省会 「First semester reflection」	FD	ロジャース、藤原、ウイキン、宮崎、マレー、マイネハン、ホール、ガラカー、山口、ロス、ボイズ、池 計12名
10	令和4年10月13日	授業紹介：ドラマ授業 発表者：岩井、マレー	FD	二神、富岡、藤田、岩井、西尾、呉、藤原、ウイキン、豊田、ロジャース、マレー、萩藤、宮下、ディキンソン 計14名
11	令和5年1月24日	第4回FD・SD委員会 ・後期のFD・SD活動の確認 ・次年度の計画作り	FD・SD	外国語学部FD・SD委員会 (ウイキン・岩井・呉・豊田・萩藤) 計5名
12	令和5年1月28日	海外での健康危機管理に関するセミナー	SD	呉、豊田、マレー、宮崎、有菌、鈴木 計6名
13	令和5年2月28日	双方向形式のワークショップ 「言語AIの現状とこれから」について 場所：ZOOM（オンライン） 時間：12：30～13：30 外部有識者：株式会社デジタルレシピ CEO 伊藤新之介氏	FD	外国語学部FD・SD委員会 二神、藤原、岩井、西尾、呉、富岡、津村、柳沢、池、マイネハン、マレー、鈴木、萩藤 計13名

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 総合学術研究科 ）

1. 令和4年度の活動報告

◀①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善▶

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握しながら構成員全員が議論・実践できるようサポートした。

◀②その他学部独自の取組（SD含む）▶

- ・「令和4年度 秋季 総合コアプログラム」の開催（9月17日開催）
- ・「令和4年度 海洋実習」の実施

三河湾において船舶による海洋観測を行い、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学ぶ予定であったが、対象となる学生が在籍していない等の理由により今年度の実施を見送ることとした。

2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年4月28日	「MS-26戦略プラン（部署版）」及び「2022年度事業計画書（部署版）」の再提出について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、日比野、平松（委任）、森、和田、衣斐（委任）、志村（委任）、神藤（計9名） 陪席：山田、中村、山内
2	令和4年5月19日	「MS-26戦略プラン（部署版）」及び「2022年度事業計画書（部署版）」の再提出について	SD	田中（委任）、加藤、伊藤、景山、鈴木、日比野、平松（委任）、森、和田、衣斐（委任）、志村、神藤（計9名） 陪席：山田、中村、山内
3	令和4年6月2日	秋季総合コアプログラム開催要領（案）について	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、日比野、平松、森、和田、衣斐、志村、神藤（計12名） 陪席：山田、中村、山内

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和4年6月30日	秋季総合コアプログラム開催要領(案)について	FD	田中、加藤、景山、鈴木、日比野、平松(委任)、森(委任)、和田、衣斐(委任)、志村、神藤(計8名) 陪席：山田、中村、山内
5	令和4年7月28日	・秋季総合コアプログラム開催要領について ・2022年9月卒業・修了アンケートの実施について	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、日比野、平松、森、和田、衣斐、志村、神藤(計12名) 陪席：山田、中村、山内
6	令和4年11月17日	「MS-26戦略プラン(部署版)」の見直し及び「2023年度事業計画書(部署版)」の作成について	SD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、日比野、平松(委任)、森、和田、衣斐、志村、神藤(計11名) 陪席：山田、中村、山内
7	令和4年12月15日	総合学術特論Ⅰ・Ⅱの教員構成について	FD	田中、加藤、伊藤、景山、鈴木、日比野(委任)、平松、森、和田、衣斐、志村、神藤(委任)(計10名) 陪席：中村、山内

FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 教職センター ）

1. 令和4年度の活動報告

今年度の活動方針・実績は次のとおりである。

本大学の教員養成理念は『謙虚で豊かな包容力と力強い実行力を持ち、誰からも信頼される教員』を養成することにある。この教員養成理念に基づき、教職センター専任教員が担当する教職に関する科目の授業内容・方法の改善を行う。この方針のもと、以下の活動に取り組んできた。

活動内容のうち「独自の取り組み」は次の三つである。

- ・研究内容や教育内容の発表・交流
- ・教職課程における学修成果の可視化の取り組み
- ・教職センター懇談会による兼任教員、非常勤講師等も含んだFD活動の展開

本年度の現時点までにおいて、活動方針に従い、具体的には次の通り活動を実施してきた。

- ・研究内容や教育内容の発表・交流

例年の通り、教職センター会議前の時間を利用して、教職センター専任教員が、各自の授業実践や教職課程に関する今後の動向などについての報告を行い、その報告をもとに意見交換を行うこととしている。本年度は既に6回会合を持ったところであり、年度末までに全8回の実施を予定している。

- ・教職課程における学修成果の可視化の取り組み

本年度、新たな試みとして、「教職課程履修カルテ」の資質自己評価シートのスコアを集計し、各項目における学年進行に伴う評価の数値の変化を計測することにより学修成果の可視化の試行を行っている。現在、4年生から当該データの収集を進めているところである。データの収集ができ次第、データの処理を行い、分析をする予定である。

- ・教職センター懇談会による兼任教員、非常勤講師等も含んだFD活動の展開

教職センター懇談会を開催して、教職センター専任教員の他、同センター開講科目担当非常勤講師、教職専門科目担当兼任教員、教職センター委員会委員、事務職員による教職課程・学芸員課程の正課授業および教員採用試験対策指導について改善を目的として協議をする場を設けている。本年度も12月に開催した。

2. 今後の課題、方向性

- ・教職課程科目におけるオンライン指導と対面指導を効果的に組み合わせた指導について考えていきたい。
- ・今後のコロナ禍を踏まえ、オンライン指導と対面指導の「ハイブリッドな指導法」の可能性

を考察していく。また、学生の学習意欲を向上させ、教員を志望する学生の主体的な学びを促進するために、積極的にアクティブ・ラーニング型授業を導入していく。オンラインによる指導も単に技術的な側面だけではなく、オンライン指導を利用することで、より学習効果が上がる方法を模索していきたい。二つの指導（オンライン指導と対面指導）をうまく組み合わせることによって、より主体的、対話的で深い学びを促進するような授業展開・授業形態となるよう工夫していく。

- ・学生の学修成果を可視化する取り組みについては、本年度の試行の結果をふまえ、さらにその方法の改善に努めていく。

3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和4年9月13日 (教職センター会議)	教員間、もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化についての検討	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
2	令和4年10月25日	令和4年度 FD活動方針について	FD・SD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
3	令和4年11月15日	第1回FD活動 (嶋口准教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
4	令和4年11月29日	第2回FD活動 (木村准教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
5	令和4年12月3日	教職センター懇談会	FD・SD	教職センター専任教員(片山、竹内、井中、曾山、谷口、平山、木村)、教職専門科目担当兼担教員(伊藤)、教職センター開講科目担当非常勤講師、教職センター委員会委員(谷村、藤原)、事務職員(鈴木) (本学専任教職員 計11名)
6	令和4年12月13日	第3回FD活動 (谷口教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
7	令和4年12月27日	第4回FD活動 (竹内教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
8	令和5年1月10日	第5回FD活動 (片山教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、嶋口 (計7名)
9	令和5年1月24日	第6回FD活動 (平山教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
10	令和5年2月14日	第7回FD活動 (曾山教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)
11	令和5年2月28日	第8回FD活動 (井中教授)	FD	曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口 (計8名)

6. トピックス

FD・SD フォーラム・FD・SD 学習会・ 新任教員 FD・SD 研修会 実施概要

1. 第24回 FD・SD フォーラム

日 時：令和5年1月13日（金）10：00～12：00

開催方法：Zoom によるオンライン開催

基調講演テーマ：データサイエンス教育の現状と展望

基調講演講師：竹村 彰通 氏（国立大学法人 滋賀大学 学長）

事例報告テーマ：名城大学における『データサイエンス・AI 入門』

事例報告講師：勝浦 正樹 氏（名城大学 経済学部 教授、キャリアセンター長）

2. 第16回～第17回 FD・SD 学習会

（1）第16回 FD・SD 学習会

日 時：令和4年7月15日（金）16：00～17：20

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：GPS-Academic を活用した学修成果の可視化と活用について

講 師：藤井 公雄 氏（株式会社ベネッセiキャリア 大社接続営業部西日本営業課 課長）

（2）第17回 FD・SD 学習会

日 時：令和4年9月12日（月）10：30～12：00

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：アクティブラーニング型授業としての反転授業

講 師：角田 和巳 氏（芝浦工業大学 工学部 教授）

3. 新任教員 FD・SD 研修会

日 時：令和4年5月6日（金）16：30～18：00

開催方法：対面開催

テ ー マ：実践！遠隔講義に役立つ Google サービス

講 師：山田 宗男 氏（名城大学 副学長、大学教育開発センター長、情報工学部 教授）

旭 健作 氏（名城大学 情報工学部 准教授）



名城大学 第24回 FD・SD フォーラム

テーマ：データサイエンス教育の現状と展望

日時：2023年1月13日(金) 10:00~12:00

開催方法：ZOOMによるオンライン

【企画概要】

目指していく未来社会として Society5.0 が提示されるなど、近年の社会変化を受けて、データサイエンスに関する知識・技能が社会人として必要とされるようになり、データサイエンティストの育成に取り組む大学も増加している。

今回の FD・SD フォーラムでは、データサイエンス及びデータサイエンス教育の重要性を学ぶことを目的に、滋賀大学が展開している大学教育や、本学のデータサイエンス教育の現状を紹介する。



基調講演

「データサイエンス教育の現状と展望」

竹村 彰通 先生 (国立大学法人 滋賀大学 学長)



事例報告

「名城大学における『データサイエンス・AI 入門』」

勝浦 正樹 先生 (名城大学 経済学部 教授、キャリアセンター長)

【申込方法】 (定員：300名)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN__UptSbfcXSZOmCnw2z9747Q



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL : 052-838-2033 (内線 : 2659)

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

第24回 FD・SD フォーラム実施報告

「データサイエンス教育の現状と展望」

1. 実施概要

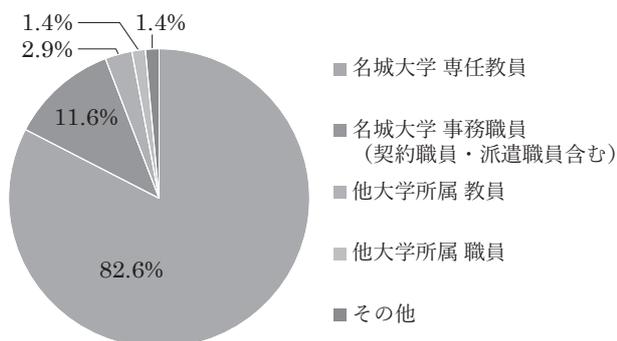
- ・日 時：令和5年1月13日（金）10：00～12：00
- ・開催方法：Zoomによるオンライン開催
- ・基調講演テーマ：データサイエンス教育の現状と展望
- ・基調講演講師：竹村 彰通 氏（国立大学法人 滋賀大学 学長）
- ・事例報告テーマ：名城大学における『データサイエンス・AI入門』
- ・事例報告講師：勝浦 正樹 氏（名城大学 経済学部 教授、キャリアセンター長）
- ・参加者数：143人
（本学専任教員100人、本学事務職員21人、他大学教職員16人、その他6人）

2. アンケート方法等

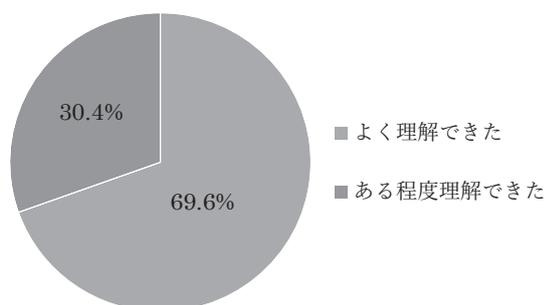
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の内容は、理解できましたか？
 - ③基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の満足度について教えてください。
 - ④基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑤事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」の内容は、理解できましたか？
 - ⑥事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」の満足度について教えてください。
 - ⑦事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
 - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。
- ・回答者人数：70人
- ・質問④、⑦、⑧については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

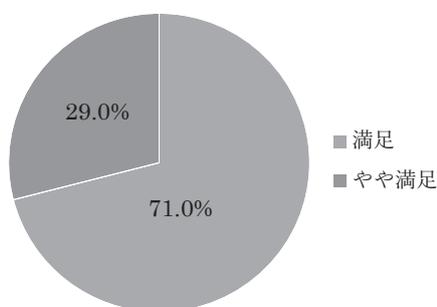
①所属をお知らせください。



②基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の内容は、理解できましたか？



③基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」の満足度について教えてください。

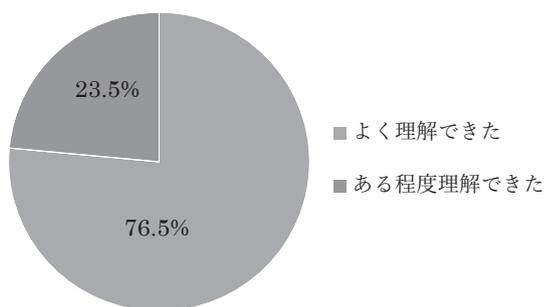


④基調講演「データサイエンス教育の現状と展望」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

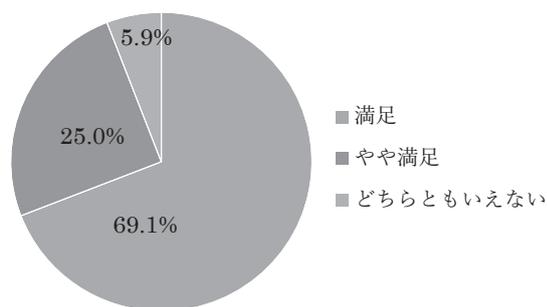
- ・ 課題としての持続可能性。
- ・ 直接内容とは関係ないかもしれませんが、やはりこういった科目も含めて全学共通教育を復活させるべきでは？と感じました。
- ・ サービスサイエンス教育の立ち上げにご苦労されたことについて感銘を受けました。
- ・ データサイエンス教育から就職までの流れが理解できた。
- ・ (本当に必要か疑問を感じた点で) 高校での情報科目導入について。
- ・ 企業とのコラボレーションによる問題解決型授業。
- ・ 企業など、外部との連携・協力。
- ・ 企業連携による実際のデータを用いたPBL教育。
- ・ 我が国におけるデータサイエンス教育環境の整備が他国に比べて遅れていることに改めて危機感を持ちました。
- ・ データサイエンス教育の出口戦略とその評価。企業との関係について。
- ・ 価値の発見・創造の教育をどのように実現していくか。
- ・ はじめの方のデータサイエンスの流れで、文系要素も必要なこと。
- ・ 世の中の現状と、他大学の取り組みの動向を把握できました。

- ・価値創造へとつなげる戦略。
- ・滋賀大学の卒業後の進路について、大変興味深く見せていただきました。企業側には、データサイエンティストを内製化する準備が整っていないところが多く、データサイエンスを専門とする企業を育成し、企業のコンサルテーションを請け負う、という形が日本には合っているのかな、という印象を受けました。
- ・データサイエンスの3要素、特に価値創造教育のための実際のデータを用いた取り組みの重要性が分かりました。
- ・情報センターとして必要なサポートがあるか確認したかったため。
- ・国外や学外におけるデータサイエンス教育の現状を詳しく伺えたこと。
- ・データをどのようにビジネスに生かすかを考える部分の学問的サポートが不足していると感じた。
- ・全国的な取り組み状況と担当教員数のアンバランス。
- ・一般的な講義と異なり、まずは学生自身が理論的な面からではなく、何が出来るかを体験することで科目や学問の重要性を理解し、興味が増すことが出来るのではないか感じた。
- ・竹村先生のご報告のスライド番号25番と26番で、実際のデータを取得するために連携協力先を多数開拓をされた点です。比較的、日系企業が多い印象でしたが、そのなかで、レノボジャパンの例が出されておりました。国外の実際のデータを取得する意義がなにかあればお教えいただけますと幸いです。また、そのようなデータ入手に際してのご苦労なども、ございましたらご教授いただけませんか？どうぞ宜しくお願い致します。本日スマートフォンで参加したため、時間内にうまく質問を送れず申し訳ございませんでした。
- ・データサイエンス教育の中に「価値創造」が含まれること。
- ・認定制度とは別に、具体的な統計・AIスキルの設定などを他大学ではどのように行っているのか気になりました。
- ・政府のデジタル化推進の下、その活用が必要なことを教育にももっと落とし込んでいくことが重要な要素になることを痛感した。また、社会（産学）連携の今後の主要なテーマにもなりうる予兆を見た。
- ・データサイエンティスト育成モデル。
- ・データサイエンス学部卒業生の就職先。
- ・技術の進化で利便性が高まるとともに、常に新しい知識は必要となります。

⑤事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」の内容は、理解できましたか？



⑥事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」の満足度について教えてください。



⑦事例報告「名城大学における『データサイエンス・AI入門』」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

- ・全学部の教員の参加。
- ・全学的に導入する意義は理解できたが、統計学の講義についてこれだけの時間割で可能かどうか疑問に思った。
- ・本学での全学共通教育の実現に大変ご苦労されたことがわかった。
- ・取り組みに対する苦労した点の紹介。
- ・(担当者が多いことによる調整の大変さが滲み出ていた) 実施方法について。
- ・本学のデータサイエンス教育について知ることができました。
- ・担当者の確保と適切な講義内容の選定が重要と感じました。関連技術の進展が早いため、最新の内容を取り入れて毎年どんどん改変していく必要があるのでは、と考えます。
- ・学生のアクセス時間が金曜日の22:00が一番多く、期日ギリギリに勉強しているので、こちら辺の意識の変化をどのように促すかがポイントと思いました。
- ・今後の展開。
- ・オンライン試験の方法、点検・評価の方法。
- ・外部評価委員の意見。
- ・文系学生の履修状況やデータサイエンスへの関心・意欲。
- ・今回の講演に直接関係することではないですが、『データサイエンス・AI入門』においてどのような講義を実施しているのか大変興味がありますので、教員も聴講させていただきますと幸いです。
- ・科目担当者WGでもご報告をいただいていたのですが、改めて科目内容や実施結果についてお聞きすることができました。内容についても大変分かりやすかったです。
- ・現在の取り組みの状況と課題について、具体的に知ることができました。
- ・実施方法。
- ・CBT 試験実施方法の問題点の解決。
- ・キャリアセンター職員です。実は企業様から本学のデータサイエンス系教育はどうなっているかと聞かれたことがあります。今回学部別の履修者や内容を教えていただいたこととお話

ししやすく、また、本学をよりアピールできると感じました。ありがとうございました。

- ・ 学生が習得する基礎の内容、オンライン課題の評価方法。
- ・ 定期試験と成績評価。
- ・ 定期試験で、2回まで受験できるとのことでしたが、評価としては、高いほうを採用するということなのでしょうか？
- ・ 具体的な取り組みのご紹介で、リテラシーレベルでの教育が進んでいることが良く分かりました。全学的な取り組みを進める上でご苦労されていることも十分に伝わったと思います。
- ・ 学習の取組み状況の確認。
- ・ 学生のアンケート結果に対して様々な角度で分析されており、自身で取り組んでいる科目や学生参加プロジェクトで実施しているアンケートにも適用できると感じ、各教員が様々な機会にデータ分析をする機会を増やすことも、本学の『データサイエンス・AI』に対する取組を活性化することに寄与すると考えられます。
- ・ 「データサイエンス・AI 入門」の継続性の担保、データサイエンス応用基礎科目の全学設置について、全学理解を進める必要があると感じました。
- ・ 今期実施された授業の詳細を知ることができたこと。特に、受講生の反応を伺えたことは、とても良かったです。
- ・ 『データサイエンス・AI 入門』への学生の動機づけ（とくに文系学部）。
- ・ かなり厳格に授業が構成されているので教員負担が高くなっており、今後の拡張に支障がある気がした。
- ・ 学部横断的な取り組み。
- ・ 講義の中で実践的な内容がどの程度盛り込まれていたかなど、わからない点があったので、その点の情報があると、学生にも周知する際に良いと感じました。
- ・ 入試の際の数学選択の有無が、この科目の学修成果に影響するか否か、気になりました。
- ・ 全学部にわたるコンテンツ（価値創造）が含まれていること。
- ・ 成績評価をはじめ、授業として成り立たせるための様々な工夫点をお話し頂き、大変勉強になりました。
- ・ 学部を超え、多数の教員がコンテンツづくりに関わる本学に不足するFDの形として、ようやくひとつの事例ができた点。また、数は少なくとも、全学共通の科目を設けることの意義を理解した。

⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。

- ・ 滋賀大学の学長、勝浦センター長の話が分かりやすく勉強になりました。
- ・ 大変ご苦労さまでございました。とてもよい企画だったと思います。
- ・ 企業が求める大学の在り方、教育など。
- ・ サービスサイエンス教育を広く認知する上で、良い機会であったと思う。
- ・ 企業側がデータサイエンス教育に何を期待しているのか？という事例が紹介されるとよいのかな？と考えております。

- ・全学共通科目としての実施に当たっての担当者の努力に頭が下がる思いです。また、内容選定等種々の調整の大変さが伝わりました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・非常に興味深く、参考になりました。
- ・非常に参考になりました。もし可能であればですが、データサイエンス関連科目を履修した文系学生の感想を詳しく知ることができれば幸いです。
- ・タイムリーな企画で、内容もとても良かったと思います。
- ・この科目に関する、本学の教職員の方々の御意見・御感想に関心があります。
- ・全般的に、データサイエンス教育の重要性が理解しやすいご講演だったと思います。ありがとうございました。
- ・個人的な疑問です。データサイエンス・AI入門を全学教育にするならば、IT・情報・コンピュータリテラシーが必須科目となる必要があると思いますが・・・。
- ・現在『データサイエンス・AI入門』をご担当されている文系学部・理系学部の先生方からも、実践している具体的な内容や本科目に対する所感などを聞ける機会があると、全学的に本科目への理解や協力体制が強化されると感じました。
- ・欧米で実績をあげている社会人となってからビジネスに役立つ教育法などの紹介などあれば聞いてみたい。
- ・応用版として、各学部のニーズに合った講義を展開できると、満足度がさらに高まるのではと感じました。
- ・非常に興味深く聞かせていただきました。
- ・『データサイエンス・AI入門』の教育プログラムが全学体制で良くできていると思いました。なお、適用事例については、なるべく最新的话题を盛り込めるよう、2～3年で更新するとよいのではないかと思います。
- ・データサイエンス・AIの取り組みについて関係者の皆様の様々のご尽力、あらためて感謝申し上げます。
- ・勝浦教授の最終版の資料を頂戴したいです。
- ・貴重なお話を拝聴させていただき、感謝申し上げます。

当日配布資料

1

データサイエンス教育の現状と展望

滋賀大学 学長
竹村 彰通

2023年1月13日
名城大学

2

項目

- データサイエンス・AIの教育に関する動向
- 高校「情報」関連
- データサイエンスの3要素と産学連携による教育
- 社会人のリスキリング需要
- 滋賀大学データサイエンス学部及び大学院
- 就職状況に見る人材需要

3

ビッグデータとデータサイエンス(DS)

データサイエンス：ビッグデータを対象として、そこから新たな知見を引き出し、価値を創造するための新たな科学

4

例：切符の変遷

5

ビッグデータ = 新たな資源

“21世紀の石油”

- 人々の行動履歴が直接観測できるようになったことが大きな変化
- 今後はモノや環境からも大量のデータ (IoT)
- この新たな資源を生かしたものが競争的優位に立つ
- データとそれを生かす技術の双方が必要
- データだけあっても、分析できなければ宝の持ち腐れ
- 日本は、データ自体を外国企業にとられ、活用もされてしまっている状況 ← ネットワーク効果

6

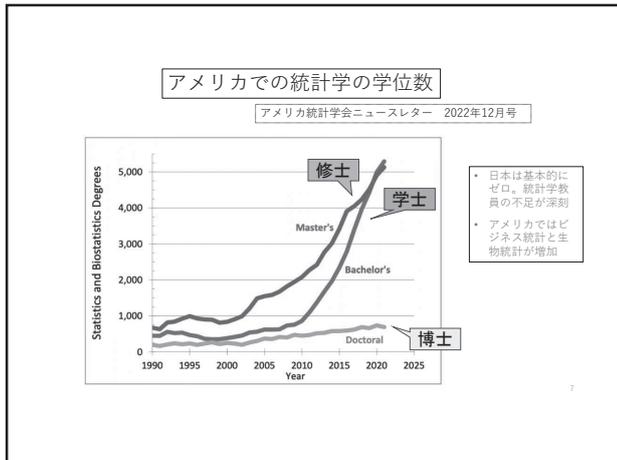
世界デジタル競争ランキング2022 (スイスのIMD)

JETRO

世界デジタル競争力ランキング、日本は29位に低下

特に低評価だった指数

- デジタル・技術スキル: 62位
- ビッグデータやデータ分析の活用: 63位



認定制度: リテラシーレベル (昨年)

文部科学省

令和3年2月24日

内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し、各大学・高等専門学校における数理・データサイエンス・AI教育の取組を奨励する目的で、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」を創設してきたこと、このたび、実施要綱等を決定し、募集を行うこととしましたので、お知らせします。

1. 目的

大学等の正確な情報であって、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること等を目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技能について体系的な教育を行うための文部科学省が認定を決定し奨励する目的により、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会を拡大し、貢献することとを目的とします。

応用基礎レベル (今年)

2. 認定状況

令和4年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定状況

○リテラシーレベル

令和4年1月18日から令和4年6月20日までの間、大学・短期大学・高等専門学校を対象に公募を行い、13件の申請がありました。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定審査委員会」による審査の上、3校の申請を認定しました。また、認定された教育プログラムの中から、先導的で独自の工夫・特色を有するものを「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として特選認定しました。

○応用基礎レベル

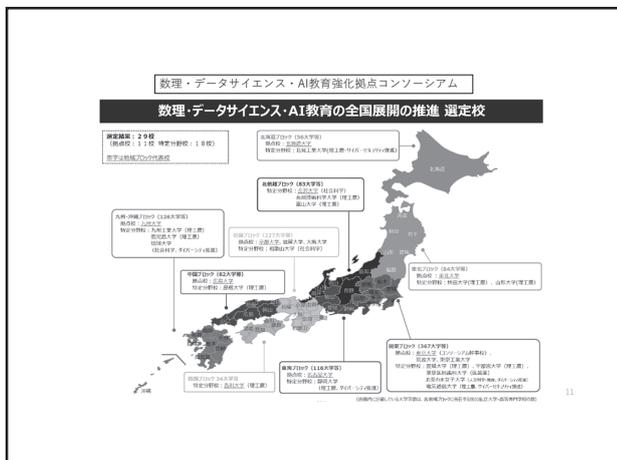
令和4年1月18日から令和4年6月20日までの間、大学・短期大学・高等専門学校を対象に公募を行い、6件の申請がありました。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定審査委員会」による審査の上、3校の申請を認定しました。また、認定された教育プログラムの中から、先導的で独自の工夫・特色を有するものを「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」として特選認定しました。

令和4年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定・選定について(PDF:602KB)

令和3年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定状況

○リテラシーレベル

令和3年1月17日から1月14日までの間、大学・短期大学・高等専門学校を対象に公募し、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定審査委員会」による審査の上、3校の申請を認定しました。また、認定された教育プログラムの中から、先導的で独自の工夫・特色を有するものを「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として特選認定しました。



コンソーシアム参加大学100校以上

見込校

(R) は特選プログラム代表校

法政大学 (R)	東法大学 (R)	東法大学 (R)
法政大学 (R)	東法大学 (R)	東法大学 (R)
法政大学 (R)	東法大学 (R)	東法大学 (R)

特定分野校

(R) は特選プログラム代表校

法政大学(理工系)	法政大学(理工系)
法政大学(理工系)	法政大学(理工系)
法政大学(理工系)	法政大学(理工系)

会員校

(R) は特選プログラム代表校

法政大学	法政大学	法政大学
法政大学	法政大学	法政大学
法政大学	法政大学	法政大学

相次ぐデータサイエンス系学部の創設

- 2017年 滋賀大学データサイエンス学部
- 2018年 横浜市立大学データサイエンス学部
- 2019年 武蔵野大学データサイエンス学部
兵庫県立大学社会情報科学部
- 2020年 長崎大学情報データ科学部
- 2021年 立正大学データサイエンス学部
群馬大学情報学部
- (2022年は無し)

- 「AI×専門」のみならず、高度DS人材が必要
- 専門学部への政策的支援が重要

13

相次ぐデータサイエンス系学部の創設

- 2023年
一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部
名古屋市立大学データサイエンス学部
京都女子大学データサイエンス学部
大阪成蹊大学データサイエンス学部
順天堂大学健康データサイエンス学部
- 2024年(報道されているもの)
宇都宮大学データサイエンス経営学部
秋田大学人間社会情報学部
富山県立大学情報工学部
下関市立大学データサイエンス学部

- 実は教員不足が深刻

14

統計エキスパート人材育成事業 ← 統計教員育成

- 統計数理研究所を中核機関とし、21大学等が参加機関として発足
- 滋賀大学はこの事業の「西の拠点」として貢献



15

高校「情報」関連

16

資料(公的なもの)

1. 国立大学協会「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度 - 国立大学協会の基本方針 -」
https://www.janu.jp/wp-content/uploads/2022/01/20210128_news_001.pdf
2. 文部科学省高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「情報編」
https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf
3. 文部科学省高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm
4. 文部科学省高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00742.html
5. 大学入試センター「情報サンプル問題」
https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shaken_jouhou/r7ikou.html
6. 大学入試センター「情報Ⅰ試作問題」(2022年11月)
https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou/r7mondai.html

17

2022年1月28日 国立大学協会会長談話(文献1関係)

2022年度から始まる高等学校の新学習指導要領では「情報」が全ての生徒が学ぶ必修科目として履修され、一方、国立大学においても既に多くの大学で、「数理・データサイエンス・AI教育」が文理を問わず全ての学生が身に付けるべき教養科目として履修されています。このような中において「情報」に関する知識については、国立大学の教育を受ける上で必要な基礎的な能力の一つとして位置付けられていくと考えています。それらを踏まえ、今回の基本方針では、一般選抜において、これまでの「5教科7科目」に「情報」を加えた、「6教科8科目」を課すことを原則としています。

18

- 指導要領解説(文獻2) 情報 I
 項目
 (1) 情報社会の問題解決
 (2) コミュニケーションと情報デザイン
 (3) コンピュータとプログラミング
 (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

(4) 情報通信ネットワークとデータの活用
 (イ) 情報通信ネットワークを介して流通するデータに注目し、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(1) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。

(2) データを収集、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと仕組みについて理解すること。

(3) データを収集、整理するための取組方法と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

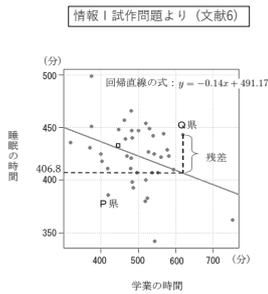
(1) 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要の構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えること。

(2) 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えること。

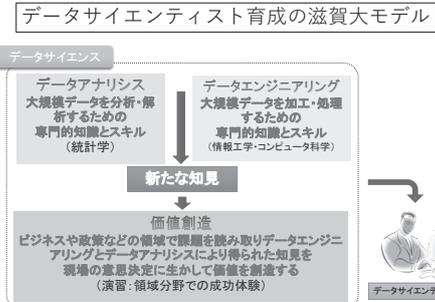
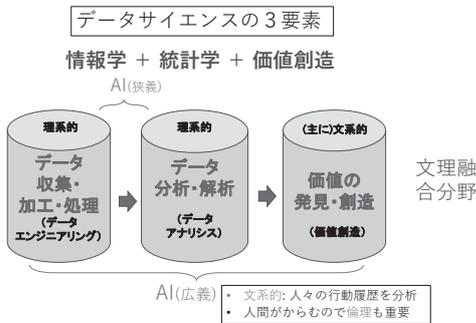
(3) データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善すること。

(情報 I の解説の最後の部分)
 具体的に、気温や為替などの変動、匿名化したスポーツテストの結果やオリンピック・パラリンピックの記録などのデータを分析する学習活動を行う場合、グラフや表などを用いてデータを可視化して全体の傾向を読み取ったり、問題を発見したり、予測をしたりすることが考えられる。その際、データの形式や分析目的に応じた可視化の方法を選択する学習活動を通して、相関係数などの統計指標、相関関係や因果関係などのデータの関係性、調べようとするもの以外で結果に影響を与えている原因である交絡因子、データの関係を数式的形で表す単回帰分析などについて扱うことが考えられる。

データを分析する過程については、データの分析を容易にするために必要な計算を事前に行っておくなど、データの傾向などを読むことを容易にする工夫を行う力を養うことが考えられる。更に、データを分析及び可視化するために適切なソフトウェアを活用する学習活動を通して、多くの項目のあるデータに対して、項目間の相関を見るためにデータを漏れないように組み合わせる複数の散布図を作成し、相関関係の見られる変数の組合せを見出し、その変数の組合せに関して回帰直線を考え、データの変化を予測する力を養うことが考えられる。



- データサイエンスの3要素と産学連携による教育
- 社会人のリスクリング



実際のデータを用いた価値創造教育

- 価値創造は講義では教えられない
- 実際のデータや課題は大学には存在しない
- 現場のデータを利用した価値創造PBL演習での成功体験が重要

→

- 企業・自治体等との連携
- 滋賀大では累計250社超

事例は後で説明

滋賀大の主な連携協力先 (2022年6月1日現在 五十音順)

あいおいつばめ同和損害保険㈱	㈱KOKUSAI ELECTRIC	(一社)データサイエンティスト協会	NPO法人E-コミュニティ
アイシン精機㈱	コグニロ㈱	㈱デンソー	㈱日百
㈱アイセロ	サカタインクス㈱	東京海上自動車火災保険㈱	フジック㈱
㈱アイディーズ	サスイト㈱	総務省統計局統計データ活用セカ	㈱平和堂
㈱Aqua Fusion	佐藤工業㈱	総務省統計局統計データ活用セカ	㈱東海アドバンステクノ
石原ミカル㈱	C C マーケティング㈱	大学並同用職労組連	㈱東海エステック
伊藤忠フィナンシャル ㈱	㈱滋賀銀行	情報・システム研究機構 統計数理研究所	㈱東海製作所
㈱イー・エージェンシー	(一社)E-Ragaku国際科学教育協会	独立行政法人統計センター	㈱マイナビ
㈱インテック	滋賀県商工大会連合会	富士エンジニアリング㈱	マザー㈱
㈱インテージ	滋賀中央信用金庫	トヨタ自動車㈱	㈱マクロミル
㈱ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ｲﾝﾌﾞﾙｽ	㈱滋賀レイクスターズ	トヨタファイナンス㈱	㈱三井住友ﾌｫｲﾝﾄﾞﾈｯﾄ ｸﾞﾙｰﾌﾟ
㈱インフューク	㈱シーラーズ・ティービー	日本電産(NEC)	村田機械㈱
㈱SMB C信託銀行	㈱新日本科学PPD	日本電工㈱	㈱メタルアート
NTTコミュニケーションズ㈱	㈱神楽環境ソリューション	日本電気㈱ (N E C)	守谷輸送機工業㈱
㈱NTTドコモ	㈱SRETEC(ﾓﾄﾛｰﾙ)ﾌﾞﾗﾝﾁﾝｸﾞ	日本電気電子㈱	㈱ヨシケイ温泉
エスビディア合同会社	スターツ出版㈱	㈱東谷エコーレーション	㈱池田重工業株式会社
エーザイ㈱	住友金属鉱山㈱	㈱バルコ	国立研究開発法人
㈱大塚食品	㈱セブン情報システムズ	パーク24 ㈱	理化学研究所革新知能統合研究セ
大塚ガス㈱	ﾌﾞﾗﾝﾁﾝｸﾞ ｻﾌﾞｼｽﾃﾑｽﾞ ㈱	第一生命ホールディングス㈱	レノボ・ジャパン合同会社
㈱オプトホールディング	第一工業製薬㈱	第一生命ホールディングス㈱	㈱ワッツ
社団法人ｲﾝﾌﾙｳﾝｽﾞ ㈱	第一生命ホールディングス㈱	ダイハツ工業㈱	その他 自治体等
カネテックリカバース㈱	ダイハツ工業㈱	㈱日立建機テイセラ	
㈱関西みらい銀行	タキイ糖田㈱	㈱日立製作所	
㈱関西	玉田工業㈱	PwC(ﾓﾝﾀﾞﾈｲ ｱﾀﾞﾊﾞｲｽ)	
㈱京奈銀行	田辺三菱製薬(株)	ピーワイズ㈱	
㈱クレオ	㈱帝国データバンク	プラザー工業㈱	
㈱神戸製鋼所	TMI(ﾄﾞｲﾝ&ﾓﾄﾞﾙ)ｺﾝｽﾀﾙﾃﾞｲﾝｸﾞ ㈱	㈱brista	

社会人のリスクリングの必要性

リスクリングでAI人材育成、140社が実施 日経調査

日本経済新聞がまとめた2022年の「スマートワーク経営調査」で、人工知能(AI)を使いこなせる人材をリスクリング(学び直し)で半年以上かけて育てる主要企業が約140社に達した。高度人材などの職務内容を守る「ジョブ型雇用」も2割が導入する。競争や感染症が招いた経済秩序の混乱を乗り切るため、スキルや発想に富む人的資本の価値を最大化する経営が広がる。

調査は6回目で、上場企業と有力非上場企業の計813社から有効回答を得た。AI活用を担う人材を集中育成する企業は137社と全体の16.9%にのぼった。AIはデータ分析や業務の自動化に有効で、使いこなす人材の育成は急務だ。

<https://smartwork.nikkei.co.jp/survey/20221104.html>

岸田首相所信表明演説(10月3日):
特に個人のリスクリングに対する公的支援については、人への投資策を「5年間で1兆円」のパッケージに拡充します。

- DS・AI分野を大学で習っていないかった ← 技術の急速な変化
- 統計学もあまり習わなかった ← 統計学部・学科がなかった

社会人の教育のありかた

- 様々な職種でDS・AIのリテラシーが必要
 - ← 学部レベルの内容も必要
- データ分析・解析部分の専門家も必要(内製化)
 - ← 大学院レベルの教育
- 繰り返し学ぶ機会を作る
- 博士人材の育成と企業による採用
- AIのアルゴリズム研究はGAFANAなど企業が主導
- 社会人の教育も産学連携で

- 滋賀大学データサイエンス学部及び大学院
- 産学連携によるPBLの事例
- 滋賀大学の提供する教材



**データサイエンス大系
データ可視化プログラミング**

分類 情報—情報工学
著者 佐藤智樹・田中琢哉 共著
定価 2,200円・本体2,000円
ISBN 978-4-7806-0706-4

**データサイエンス大系
データ構造とアルゴリズム**

分類 情報—情報工学
著者 川井明・梅澤高樹・高橋晶
芽・栗田由 共著
定価 2,200円・本体2,000円
ISBN 978-4-7806-0703-1

**データサイエンス大系
社会調査法**

分類 人文社会—社会学・文化
人類学
著者 伊藤平助・高田野矢 共著
定価 2,400円・本体2,200円
ISBN 978-4-7806-0704-8

「データサイエンス入門」
のカスタマイズ版



長崎大学に於いて、山梨学院大
学版を刊行予定

講談社 データサイエンス入門シリーズ

「教養としてのデータサイエンス」目次

1. 社会におけるデータ・AI活用
 - 1.1 社会でおきている変化
 - 1.2 社会で活用されているデータ
 - 1.3 データとAIの活用領域
 - 1.4 データ・AI活用のための技術
2. データリテラシー
 - 2.1 データを読む
 - 2.2 データを説明する
 - 2.3 データを扱う
3. データ・AI活用における留意事項
 - 3.1 データ・AIを扱う上での留意事項
 - 3.2 データを守る上での留意事項

リテラシーレベル
の大体の内容



「応用基礎としてのデータサイエンス」編集者



北川 謙一郎、竹村 彰浩 著
監修 遠藤 知太郎、今里 允彰、内田 誠一、清 賢也、
高野 渉、辻 真吾、原 園幸、久野 遼平、
松原 仁、宮地 光子、森嶋 明彦、植久 洋一

**応用基礎としての
データサイエンス**
AI・データ活用の実践

いますぐ身につけるべき
「データサイエンス」
「データエンジニアリング」「AI」の
基礎知識がここにある！

「難しいことをやさしく書いてある」と大好評の
「教養としてのデータサイエンス」に続く第2巻！

まとめ

- DS・AIの教育に関する動向を紹介した。
- DSの3要素と産学連携による教育の重要性を説明した。
- 社会人のリスクリングの考え方について説明した
- 滋賀大DS学部及び大学院について紹介した。
- 滋賀大DS学部の就職状況に見る人材需要を説明した。
- 滋賀大DS学部の提供している教材を紹介した。

1

**名城大学における
「データサイエンス・AI入門」**

**名城大学 経済学部
勝浦 正樹**

2023年1月13日

名城大学 第24回 FD・SDフォーラム「データサイエンス教育の現状と展望」

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY

2

「データサイエンス・AI入門」とは

- 2022年度前期に2単位科目として開講
- 全学(10学部)で共通の科目として設置
- 主に1年生を対象
- 完全なオンライン授業
- 文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に申請予定

3

本日の内容

- 「データサイエンス・AI入門」開講の経緯
- 科目の設計・準備
- 授業の実施
- 成績
- 評価(学生, 内部, 外部)
- 今後の課題

4

● 本報告は、以下で行った報告等を再構成したものであり、部分的に以下の内容と重複しています。

- 2020年10月28日: 第11回FD学習会
 - 「文系学部におけるデータサイエンス教育の実践」
- 2022年1月26日: 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 中部・東海ブロックFD研究会
 - 「名城大学における共通科目「データサイエンス・AI入門」の導入について」
- 名城大学の諸会議における本科目に関する報告
 - 「2022年度 データサイエンス・AI入門自己点検・評価報告書」など

5

科目開講に向けて流れ(概要)

- 2020年6月: 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 中部・東海ブロックの連携校に
- 2020年10月28日第11回FD学習会(名城大学)
 - 「文系学部におけるデータサイエンス教育の実践」
- 2020年11月ごろ: 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」で認定を受けることを目標に、科目設置の検討を開始

6

科目開講に向けて流れ(概要)[続]

- 2021年3月
 - 科目開講の決定, 検討WGの設置
- 2021年3月～7月
 - 科目内容(シラバス等)・担当者の検討
- 2021年7月～11月: コンテンツ作成
- 2021年12月～2022年3月: 全体調整, コンテンツ修正, 完成
- 2022年4月～7月: 開講
- 2022年9月～12月: 内部評価・外部評価

7

数理・データサイエンス教育の強化 Aoiya University

- 文部科学省「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」(2016)
 - 各大学で、数理・データサイエンスを中心とした全学的・組織的な教育を行う組織の整備
 - (仮称)数理・データサイエンス教育研究センター
 - 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの形成

6

8

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムとは Aoiya University

- コンソーシアムの構成
 - 拠点校, 特定分野校, 会員校
- 概要
- 活動概要
 - モデルカリキュラム作成
 - 教科書, 教材の開発
 - 教育用データベースの開発・公表
 - その他(情報発信, 調査・研究, ネットワーク構築…)

7

9

数理・データサイエンス・AI教育 Aoiya University プログラム認定制度

- 制度概要
- 認定要件
 - 正規の課程
 - 全学開講
 - 具体的な計画の策定, 公表
 - 必要な知識及び技術を体系的に修得
 - 自己点検・評価の実施, 公表

8

10

DS教育検討WGにおける検討内容 Aoiya University (2021年3月～7月)

- 科目名称:「データサイエンス・AI入門」
 - 全学共通の2単位科目
- シラバスの作成(部会で原案作成)
 - 授業内容(導入, 基礎, 心得)
 - 授業形態
 - 評価方法
 - テキスト
 - 試験の実施…
- 担当者(含池上先生)
- 各学部での科目の設置形態
 - カリキュラム改正, 既存科目での対応
- …

9

11

学部ごとの設置形態の違い Aoiya University

- 「データサイエンス・AI入門」を新規科目として設置
 - 要学則改正
 - 7月ごろまでに要決定
- 「データサイエンス・AI入門」を既存科目として設置
 - 特設科目, 特殊講義など
 - ex.(特I)データサイエンス・AI入門
 - 学則改正必要なし, 2年生以上の履修が容易
- その他, 学部ごとに作成を依頼
 - 履修系統図
 - 学位授与方針対応表…

10

12

授業設計の基本的な方針 Aoiya University

- 完全な遠隔講義(WebClassによるオンデマンド)
 - 全学共通での時間割上の問題
- 文系・理系で共通のコンテンツ
 - 数学的要素をできるだけ少なくする
 - PCの操作も初歩的な能力のみ前提
- 各学部のDS関連のリソースの活用
 - 担当者の負担の問題
- 担当者を文系・理系全体からできるだけ多くの学部(分野)から募る
 - (例)理系での応用例を文系の学生にも聴かせる
 - 総合大学の特性を生かす

11

授業設計の基本的な方針(続)

- 認定制度の取得
- 全国的な数理・データサイエンス・AIのカリキュラムを参照する

導入

- 社会におけるデータ・AI利活用
- データサイエンス・AIなどの必要性、利活用の現状

基礎

- データリテラシー、統計分析の基礎

心得

- データ・AI利活用における留意事項(個人情報保護などを含めた法的問題など)

(選択)

シラバス(導入)

1	【講義ガイダンス】 ・本講義の意義と注意事項(山田 宗男:情報工) ・基礎データサイエンスの必要性(池上 彰)「AIって何?何が出来る?」(山田 宗男:情報工)	講義の目的と到達目標、受講方法を理解する。
2	【社会で起きている変化】 経営学・マーケティングの観点から(新美 潤一郎:経営) ビッグデータ(山本 修善:情報工) データサイエンティストの役割(齊藤 公明:理工)	データサイエンスやAIとはどういう分野なのか、なぜ社会の関心を集めているのかなど、社会で起きている変化を知り、データサイエンスやAIを学ぶことの意義を理解することを目標とする。
3	【活用事例1(社会科学分野)】 経営学・マーケティングの事例から(新美 潤一郎:経営) 【活用事例2(法・人文科学分野)】 【活用事例3(理工学分野)】	データサイエンスやAIがどのように利活用されているのか、それぞれの分野での実際の活用事例を学習する。
4	【活用事例2(法・人文科学分野)】 【活用事例3(理工学分野)】	キーワード:マーケティング、ファイナンス、マクロ経済モデル、都市計画、REGAS
5	【活用事例3(理工学分野)】	キーワード:マーケティング、ファイナンス、マクロ経済モデル、都市計画、REGAS
6	【活用事例4(生命科学・薬学分野)】	キーワード:画像処理、音声処理、SNSデータの分析、ソーシャルビッグデータ、シミュレーション

シラバス(基礎)

7	【データの可視化】 データの可視化(須田 紗:経済)	データの可視化する様々な手法と可視化されたグラフの読み方を学び、起きている現象の背景や意味合いを理解する。グラフにはさまざまな種類があり、それぞれの特徴やどのような場合に活用できるのかについて学び、適切な可視化方法を選択して他者に説明できるようにする。
8	【分散分析、ヒストグラム、分散計】 データの可視化(須田 紗:経済)	分散分析、ヒストグラム、分散計の活用方法を学び、データの可視化や分散分析の意義を理解する。分散分析の活用方法を学び、データの可視化や分散分析の意義を理解する。
9	【分散計、相関係数】 データの可視化(須田 紗:経済)	分散計、相関係数の活用方法を学び、データの可視化や分散分析の意義を理解する。
10	【分散計、相関係数】 データの可視化(須田 紗:経済)	分散計、相関係数の活用方法を学び、データの可視化や分散分析の意義を理解する。
11	【分散計、相関係数】 データの可視化(須田 紗:経済)	分散計、相関係数の活用方法を学び、データの可視化や分散分析の意義を理解する。
12	【分散計、相関係数】 データの可視化(須田 紗:経済)	分散計、相関係数の活用方法を学び、データの可視化や分散分析の意義を理解する。

シラバス(心得)

13	【データ利活用における留意事項】 研究倫理(松本 俊次:法)	データを利用する際の様々な留意事項について学ぶ。また、データサイエンスがもたらす課題やリスクについて、その一部である。研究倫理の観点から、データの利用に関連する法律や個人情報保護・プライバシー保護・著作権保護(佐村 勇人:法)
14	【データ利活用における留意事項】 研究倫理(松本 俊次:法)	データを利用する際の様々な留意事項について学ぶ。また、データサイエンスがもたらす課題やリスクについて、その一部である。研究倫理の観点から、データの利用に関連する法律や個人情報保護・プライバシー保護・著作権保護(佐村 勇人:法)
15	【データ利活用における留意事項】 研究倫理(松本 俊次:法)	データを利用する際の様々な留意事項について学ぶ。また、データサイエンスがもたらす課題やリスクについて、その一部である。研究倫理の観点から、データの利用に関連する法律や個人情報保護・プライバシー保護・著作権保護(佐村 勇人:法)

15週の構成

- 第1週 インTRODクシヨン
 - 最初に池上彰教授によって、この授業を学ぶ重要性をアピール、授業の進め方
- 第2週~第6週:導入
 - DSやAIの基本
 - 様々な分野での活用事例の紹介(全学部)
- 第7週~第12週:基礎
 - 統計分析の基礎
 - Rの使い方
- 第13週~第14週:心得
 - データ・AI利活用における留意事項
- 第15週 総括と振り返り、発展的学習

導入:各分野での活用事例

- 第2週:社会で起きている変化
 - ビッグデータ、データサイエンティストなどの基礎概念を活用事例(購買履歴...)を交えて説明(営・情・理)
- 第3週:社会科学分野
 - マーケティング(営)、マクロ経済(済)、地域分析(都)
- 第4週:法・人文科学分野
 - 政治学(法)、心理学(人)、言語分析(外)
- 第5週:理工学分野
 - 画像処理、DL(理)、音声処理(情)、SNSデータ分析(情)
- 第6週:生命科学・薬学分野
 - ゲノム解析(農)、ランダム化比較実験(薬)、医療ビッグデータ(薬)

基礎	Aoiho University
<ul style="list-style-type: none"> ● 第7週: データの可視化 <ul style="list-style-type: none"> - 可視化の意義, データセット, グラフの作成(済) ● 第8週: 度数分布とヒストグラム <ul style="list-style-type: none"> - データの種類, 度数分布, 所得格差(済) ● 第9週: 代表値・散らばり <ul style="list-style-type: none"> - 代表値, 散らばり, 箱ひげ図(済) ● 第10週: 相関と回帰 <ul style="list-style-type: none"> - 相関, 単回帰, 重回帰(営) ● 第11週: 推測統計 <ul style="list-style-type: none"> - 母集団と標本, 推定, 検定(営) ● 第12週: Rの使い方 <ul style="list-style-type: none"> - インストール, コマンド, 基本統計量, 回帰(情・情) 	18

心得	Aoiho University
<ul style="list-style-type: none"> ● 第13週: データ利活用における留意事項 <ul style="list-style-type: none"> - ELSI(Ethical, Legal and Social Issues, 倫理的・法的・社会的課題), 研究倫理, プライバシー権, 個人情報保護法, 著作権法(法・法・法) ● 第14週: DS・AI利活用における留意事項 <ul style="list-style-type: none"> - AIと差別・人権, データバイアス, AIの透明性と説明可能性, 情報の保護, 情報漏洩・暗号化技術(法・法・情) 	19

担当者	Aoiho University
<ul style="list-style-type: none"> ● 「導入」 <ul style="list-style-type: none"> - 基本的に1コマを3名で担当 ● 「基礎」 <ul style="list-style-type: none"> - 同一担当者が1コマを担当 ● 「心得」 <ul style="list-style-type: none"> - 3名で1コマを担当 ● 1週目と15週目は, 成績担当者(2名)が担当 	20

学部	担当者数
法	3
経営(営)	2
経済(済)	2
都市情報(都)	1
人間(人)	1
外国語(外)	2
理工(理)	7
農	1
薬	1
合計	20

各週の構成	Aoiho University
<ul style="list-style-type: none"> ● 各週で, 基本的に3ユニット(3動画).オンデマンド ● 動画×3本(10~20分)+関連する課題 <ul style="list-style-type: none"> - 動画①(10~20分)+課題① - 動画②(10~20分)+課題② - 動画③(10~20分)+課題③ ● + 理解度確認テスト(選択式) ● 学生は, 予習→動画①→課題①→動画②→課題②→動画③→課題③→復習, 確認テスト, 課題 ● [動画視聴+課題・ノート整理の作業時間+確認テスト]で90分の授業時間を確保 ● ユニットごとの担当者が, 動画・課題・確認テストを作成 	21

コンテンツ: 毎週土曜日0:00~	Aoiho University
<ul style="list-style-type: none"> ● 掲示板: 出席確認 ● 動画(mp4)とスライド <ul style="list-style-type: none"> - スライドを使用しながら説明 - 動画はGoogleDriveに, スライドはWebClassにアップロード ● 課題 <ul style="list-style-type: none"> - 動画での説明内容を自分で課題を解くことによって, 定着させる ● 理解度確認テスト <ul style="list-style-type: none"> - 各ユニットで3-4問程度, 1週10問程度 - WebClass上で実施(1週間以内), 自動採点 - 翌週に解答を提示 	22

課題の例	Aoiho University
<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書の該当箇所を読む. ● 計算問題(オリジナルの問題, 他の書籍等の練習問題, 統計検定などの問題の利用) ● ExcelやRなどによる演習問題 ● 説明動画から, 特定の問題等について, 学生に考えさせる課題 ● 関連する資料を読ませる(新聞記事など) ● 関連するウェブサイトを開覧させる ● 説明動画の内容をまとめさせる ● 関連する動画を視聴させる ● 参考文献の必要な箇所を読ませる ● ... 	23

授業改善アンケート（設問・回答率）

◆ 本科目の点検・評価の一環として、15回目の講義において、科目の受講生に対して授業改善アンケートを実施した（回答率80.0%）。

名城大学 データサイエンス・AI入門（点検評価） 30

授業改善アンケート（理解度、満足度、推奨度）

この授業は、よく理解できましたか？

この授業の進め方・内容や、あなた自身のこの授業への取り組みや成果を振り返った時、この授業について満足していましたか？

あなたはこの授業の履修を他の学生にも奨めますか？

◆ 授業理解度を問う設問においては「よく理解できた」「理解できた」という回答が72%、授業満足度を問う設問では「満足した」「やや満足した」という回答が79%となっており、概ね良好な結果となっている。
◆ 他の学生への履修推奨度を問う設問においても、80%の学生が「強く奨める」「奨める」という好意的な回答をしている。

名城大学 データサイエンス・AI入門（点検評価） 31

授業改善アンケート（到達目標）

あなたは、この授業を受講して、シラバスに示されている到達目標1を達成できましたか？

あなたは、この授業を受講して、シラバスに示されている到達目標2を達成できましたか？

あなたは、この授業を受講して、シラバスに示されている到達目標3を達成できましたか？

◆ 本科目のシラバスに示された到達目標の達成度（学習成果）を測る設問では、到達目標1では72%、到達目標2では65%、到達目標3の達成度では79%の学生が「達成できた」「やや達成できた」と回答しており、各到達目標の学習成果は概ね達成できている。
◆ 到達目標2については他の到達目標と比べ数値が低いいため、改善の余地がある。

名城大学 データサイエンス・AI入門（点検評価） 32

外部評価委員の主なコメント

● 全般的に高い評価に値する授業である

● 全学部の学生を対象に、全学部の教員が授業を担当することは、学生にとってプラスである。

● データ分析などを通じて、ロジカルに考える習慣がつくことが就職してから必要で、そうしたことを意識して今後の授業を進めてほしい。

● この授業を踏まえ、実際の課題をデータサイエンスに基づいて分析した経験を、就職の面接でアピールできるようにすると、企業にとっても有難い。

● 基礎の部分では、できるだけ実際の事例を用いるとよい。

● 社会人にもこうした授業を受講させたい。

名城大学 33

今後の課題【学生への対応】

● 学習時間の確保

- 理解度確認テストは受けているが、動画の視聴や課題の取組みなど確認できない
- 金曜日の夜間にアクセスが集中（逆に、土曜日の0:00すぎに掲示板に書き込むなど）

● 理解度確認テストの難易度の調整

名城大学 34

今後の課題【コンテンツの充実】

● コンテンツの改善: アンケートの意見への対応

- 資料(スライド)
- 動画
- 課題
- 理解度確認テスト

● テキストの作成

- 現在のテキスト: 竹村彰通他編著『データサイエンス入門 第2版』学術図書
- 同書をカスタマイズして、名城大学版を作成する予定

名城大学 35

第16回 名城大学FD・SD学習会

GPS-Academicを活用した学修成果の可視化と活用について

- 日時 2022年7月15日(金) 16:00~17:20
- 講師 株式会社ベネッセiキャリア
大社接続営業部 西日本営業課 課長 藤井公雄
- 会場 Zoomによるオンライン開催
- 対象 学内教職員、非常勤講師、大学院生

企画趣旨

今年度、本学は第三期認証評価を受審します。第三期認証評価のポイントの一つは、「学修成果の可視化」です。しかし、多くの大学において学修成果の可視化を進めたにも関わらず、その後の活用が進まず、「可視化疲れ」だけが起こってしまったという声を聞きます。

本学習会では、本学における多くの学科が活用しているGPS-Academicを用いて、全国平均との比較から見える本学の特徴、入学後の成長内容とその要因、他大学によるGPS-Academic結果の活用事例等を紹介し、可視化された学修成果の活用方法のヒントを得られる内容となっていますので、是非ご参加ください。

こんな方にオススメ

- 可視化された学修成果の活用方法のヒントを得たい方
- DP（ディプロマ・ポリシー）の達成度測定にGPS-Academic項目を活用したい学科
- GPS-Academicについて知りたい方

申し込み方法

下記URL等からお申し込みください。

https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZuce-prTouE9UEwslYcDyxs6PVUba_zkT

お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。



《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター TEL: 052-838-2032 (内線: 2659)

第16回 FD・SD 学習会 実施報告

1. 実施概要

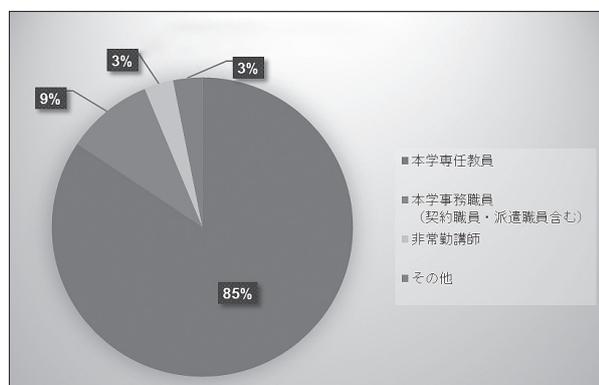
- ・日 時：令和4年7月15日（金）16：00～17：20
- ・開催方法：Zoom によるオンライン開催
- ・テ ー マ：GPS-Academic を活用した学修成果の可視化と活用について
- ・講 師：藤井 公雄 氏（株式会社ベネッセ i キャリア 大社接続営業部西日本営業課 課長）
- ・参加者数：70人（専任教員51人、事務職員17人、大学院生0人、その他2人）

2. アンケート方法等

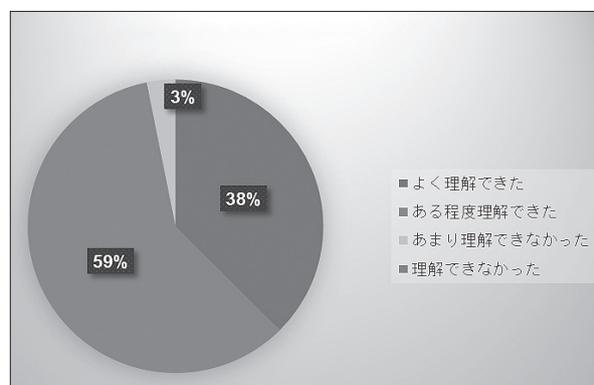
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②本日の内容は、理解できましたか？
 - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④本学習会の満足度について教えてください。
 - ⑤講演の感想をお聞かせください。
 - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
 - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：32人
- ・質問⑤～⑦については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

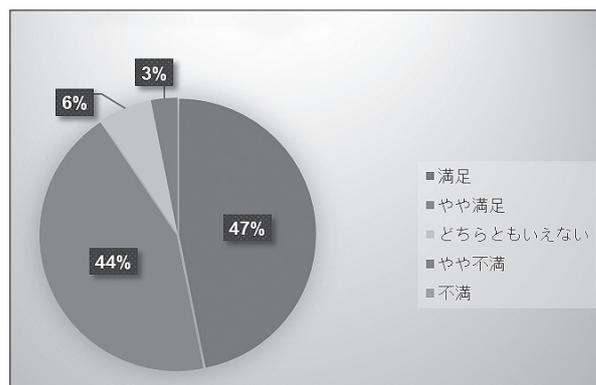
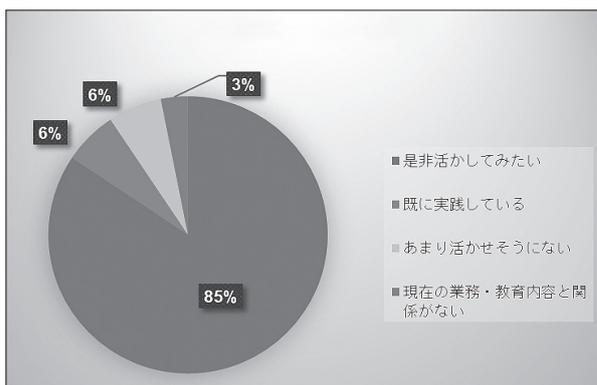
①所属をお知らせください。



②本日の内容は、理解できましたか？



- ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
- ④本学習会の満足度について教えてください。



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・ GPS-Academic を用いた分析方法や活用方法がよくわかった。
- ・ データ分析の技能がない人にもわかりやすかったと思います。
- ・ GPS-Academic の多彩な活用例は大変参考になった。
- ・ ただ分析結果を活用するフェーズにおいて、学生に積極性を促す形の教育はアカデミック・ハラスメントに取られかねないような危惧をした。
- ・ GPS-Academic の結果を具体的に、授業にどう生かすかその例をあげてくださったのがよかった。
- ・ 他大学の事例が参考になった。
- ・ こちらの理解度足らずで、もう一度聴きたいです。
- ・ 他大学における活用の事例紹介が参考になりました。
- ・ リーダーシップとかが伸びたとした場合にその背景がわかると、傾向が分かるという視点が大切だと感じた。
- ・ 学生指導につながる有益な情報、ありがとうございました。
- ・ とくに学生カルテの内容および他大学の活用方法等が参考になりました。
- ・ 前半のデータ分析は、自分の所属学部がどれなのか分かっていた方が、より集中してみる事が出来ると感じました。
- ・ 後半の他大学での実践事例は大変参考になりました。
- ・ 会議の関係で、後半しか参加できませんでした。可能なら、資料のコピーを頂けますでしょうか。どう参考にできるかの辺りを聞くことができませんでした。
- ・ ダイレクトに活かせるかはわかりませんが、沢山学ばせていただきました。
- ・ 無料の活用ツール（各学部ごとのデータ、教員の指導ツールなど）があるとのことですので、これまでのツールに加えて取り入れていただければ幸いです。
- ・ 学部名を出さない理由は理解できるが、自分の担当している学部がどうか分からなかったのが残念です。
- ・ GPS の見方がわかったので参加してよかったです。

- ・実際の活用事例などが紹介されていて勉強になりました。
- ・休学・退学をしてしまう学生が持つ傾向（レジリエンスやコラボレーションなど）が紹介されており、学生指導に役立てられるのではないかと思います。
- ・GPS-Academic をどのように使うかというヒントを多く得ることが出来ました。ただし、これを学部単位で行うのは、データ分析にかかる知識の面からも、さまざまなデータが学内の各セクションに分散しているという面からも、マンパワーの面からも、かなり厳しいというのが率直な印象です。学部専任のFD・SD 担当職員を配置していただくとか、あるいは全学単位としてのIR 室にデータ分析の依頼を気軽に行えるようにするとか、そのような全学単位からの積極的なサポートを学部としては必要としています。GPS-Academic をうまく使えばかなりいろいろなことが分かりそうだけに、歯がゆい思いがあるということ、講演を拝聴して強く感じた次第です。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・学部で GPS-Academic の実施をしており、指導学生の結果を見ているため。
- ・GPS-Academic の活用方法などを学ぶため。
- ・法学部にて GPS Academic の得点のデータ分析を担当していますが、ベネッセさんがどのような分析をされているかに関心があります。
- ・今年度より学部 FD・SD 委員となったことで、GPS-Academic をより深く理解したかったこと。
- ・人間学部で GPS-Academic を実施しているので。
- ・認証評価を目前にしているから。
- ・大学生になってからの大学間、学部間、学部内、そして時系列、個人別の学力の評価ができるすごい方法だと思ひまして。
- ・担当学部で GPS-Academic を導入しているが、活用方法が知りたかったため。
- ・GPS-Academic を今年度から実施しているため理解を深めたいと考えた。
- ・範囲が広いのでどこからアプローチしたらいいかのヒントが欲しかったから。
- ・学修成果をどう整理しどう活用するかに興味がありました。
- ・学部の DP に基づいた学修成果の可視化に活用しており、理解を深めるために参加しました。
- ・ゼミ履修者の GPS アカデミックの受検結果を配布されていたが、活用方法に悩んでいたため。
- ・GPS アカデミックの活用方法を知りたかったため。
- ・思考力・問題解決力の可視化に興味があったので。
- ・GPS とは？ということを知りたいことと成績がどのように関係しているのか。
- ・GPS-Academic の活用方法についてなど、あまり知らなかったので勉強のために申し込みをしました。
- ・学部内の FD を行うにあたり、GPS-Academic のより上手な使い方を知りたかったというのが決め手です。

⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・このテーマの学習会は継続的に開いていただければと思います。
- ・GPS アカデミックのデータを教員がアクセスして見ることはできるのでしょうか。
- ・内部質保証、教学マネジメント等、今大学教育に何が求められているのか改めて話しを聞いて見たい。
- ・必須のアンケート項目の中で、全部を聞けていないので、失礼な選択になってしまっていると思います。「該当しない」というのもあると助かったかも知れません・・・。
- ・キャリア科目（経済学部：キャリア形成論、農学部：キャリアデザイン学）を担当しています。授業の中で求められる人材像として思考力・コミュニケーション力等について触れています。該当学部が受検しているのかどうかもわからないのですが、受講しているとしたら、学生とそうでない学生あるいは経年比較するようなデータを出していただくことはできるのでしょうか？GPS の詳細が分からないので確認できれば授業との相関を見てみたいです。
- ・個別にて対応して頂きましてありがとうございました。

1

2022年7月15日
第16回 FD・SD学習会

名城大学 御中

GPS-Academicを活用した学修成果の可視化と活用について

※GPS=Global Proficiency Skills program

㈱ベネッセi-キャリア
本社接続営業部西日本営業課
藤井 公彦
kfujii@benesse-i-career.co.jp

2

弊社ベネッセi-キャリアの紹介

「まなぶとはたらくをつなぐ」をスローガンに、大学生の成長を支援しています

大学

大学教育支援

大学生

学生支援

企業

採用・人材開発支援

株式会社ベネッセi-キャリア

- 教育成果の可視化 アセスメント 年間26.6万人
- GPS-Academic (Global Proficiency Skills program)
- 授業・講座等 約7500コマ/年間
- 教育サービス 留学/ペルリッツ

doda (ドダ) セミ

オンラインキャリア講座

約200講座 260コマのべ10,000人が申込

doda (ドダ) セミ

契約社数6800社
登録学生数600,000名

doda (ドダ) セミ

契約社数4700社
年間支援2100名以上

GTEC (Global Test Evaluation Center)

üdemy business™

üdemy business™

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 2

3

GPS-Academic開発の背景：創造的な仕事や職業が増えている

現代の経済社会は、経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会（Society 5.0）」に向かっており、創造的な分析と思考が求められる仕事や対人能力の必要な創造的職業が増えています。

● Society 5.0 科学技術イノベーションが拓く新たな社会 | 内閣府

新たな社会 "Society 5.0"

1.0 Society 1.0 農業
2.0 Society 2.0 工業
3.0 Society 3.0 情報
4.0 Society 4.0 知識
5.0 Society 5.0 人間中心

● 職業種類の変化

David H. Autor and Brendan Price. (2013). "The Changing Task Composition of the US Labor Market: An Update of Autor, Levy, and Murnane (2003)." MIT Minisograph.

OECD FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS 2030 (OECD Learning Compass 2030) A SERIES OF CONCEPT NOTES | OECD.

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 3

4

GPS-Academic開発の背景：求められる力、アセスメントの変遷

	アセスメント1.0 インプット力	アセスメント2.0 模倣力	アセスメント3.0 創造力
経済社会	安定成長	成長に差がつく	成長するための答えが1つではない
人材に求められる力	過去の正解を正確・大量にインプットする力	過去の活躍人材の行動特性を模倣する力	初めて遭遇する問題を協力的に解決に導く創造力
アセスメント例	知識・技能テスト (基礎学力を身についているか等)	コンピテンシーテスト (モデル人材の行動特性に近いか)	クリティカルシンキングテスト (問題解決力にセンスに資するかがあるか)

創造的な仕事や職業が増えたことで、求められる力、アセスメントも変遷してきています

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 4

5

GPS-Academicの設計：答えが1つではない問いに対して問題を解決する力を測定

GPS-Academicは答えが1つではない問いに対して問題を解決する力を「思考力」「姿勢・態度」「経験」の3観点で測定。高大社共通の指標として使えるよう設計しています。

問題解決の質と深さを各々評価する

思考力

問題解決に向かう姿勢・態度

経験

学生意識調査

高大社共通の指標

高校	大学	社会
GPS-Academic Global Proficiency Skills program	GPS-Academic Global Proficiency Skills program	GPS-Business Global Proficiency Skills program

CBTの強み

- リアルタイムで学習成果を可視化
- いつでも、どこでも
- 即時返却

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 5

6

GPS-Academicの価値：大学として育てたい力と親和性があり、学位プログラムによらず評価・検証に使いやすい

GPS-Academicはの測定領域は学修成果のうち、大学側では評価しにくい「汎用的能力」を可視化。また、測定する「問題解決の質と深さをみる思考力」や「問題解決に向かう姿勢・態度」は大学として育てたい力と親和性があり、現代社会で求められる力でもあるため、学位プログラムによらず、評価・検証に使いやすい。

学位プログラムで保証すべき力

大学全体で保証すべき力

学部 文学部 経済学部 理学部 工学部 ...etc

知識・技能 (基礎学力)

汎用的能力 (思考力、姿勢・態度)

問題解決力 (GPS-Academic)

専門知識

DP

大学の学修成果

AP

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 6

GPS-Academicの価値：直接評価と間接評価があるため、改善の議論につなげやすい

GPS-Academicは直接評価（思考力・姿勢態度）と間接評価（経験・学生意識調査）があるため、結果の良し悪しだけでなく、背景が探れ、改善の議論につなげやすい。

問題解決力	直接評価	間接評価	GPS-A 測定項目		新・社会人基礎力	学力の要素
			思考力	姿勢・態度		
問題解決力	直接評価	間接評価	批判的思考力	創造的思考力	考え抜く力 (シンキング)	思考力 読解力 表現力
			協働的思考力	レジリエンス		
			リーダーシップ	コラボレーション		
問題解決力	直接評価	間接評価	自己管理	対人関係	チームで働く力 (チームワーク)	主体性を持って 多様な人と協働 して学ぶ態度
			計画・実行	学生意識		
			新入生の 在校生用			

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 7

GPS-Academic商品概要：大学様向け返却物

試験終了の日の翌日に大学管理者にWEB返却いたします

集計表
「思考力」「姿勢・態度」「経験」「学生意識調査」の各詳細項目が自動で集計されます。学部、学科、入試区分ごと等の数値を簡単に確認いただけます。

受験者個別データ
全受験者の個別のデータの出力が可能です。学内で深い分析や、学生個人の把握にお役立ていただけます。以ツール等へ取り込みやすい形式もご用意しております。

学部	学科	入試区分	度数分布(人数比率%)					分類別スコア	Q1	Q3	平均
			S	A	B	C	D				
総合	1100	41.0	11.7	17.3	27.8	42.2	41.0	41.0	41.0	41.0	
工学部	800	38.7	7.4	14.7	29.6	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6	
法学部	400	42.5	3.1	8.3	18.8	39.3	41.7	41.7	41.7	41.7	
一級法	1000	42.4	4.6	11.1	21.6	38.8	41.1	41.1	41.1	41.1	
経済法	1100	40.8	2.4	8.7	18.9	39.3	42.7	42.7	42.7	42.7	

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 8

GPS-Academic商品概要：学生様向け及大学様向け返却物

「思考力」
必要の姿勢・態度のバランスをもとにアドバイス

「姿勢・態度」
必要の姿勢・態度のバランスをもとにアドバイス

「経験」
大学で備えなくてはならない経験をもとにアドバイス

「学生意識」
大学で備えなくてはならない経験をもとにアドバイス

テスト終了後数分で結果が学生にWEB返却されます。「問題を解決する力」を思考力・姿勢態度・経験の観点で現状把握できるとともに、複数回受験する入学者からの伸びや推移を確認できます。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 9

GPS-Academic商品概要：学生様向けアフターフォローメニュー

- 個人結果レポート (無料)
- 事後トレーニング教材 (無料)
- dodaキャンパス (GPS-Academicの結果連携 (無料オプション))
- フォローアップガイダンス (有料オプション)
- 全国セミナー (無料)
- 就職生活ワークシート (無料)
- 自己分析・ES作成セミナー (無料)

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 10

GPS-Academic商品概要：大学様向けアフターフォローメニュー

受験者データ (ローデータ) から学生面談カルテを作成できるツールをご提供しています。(無料)

スコアで評価が出るので、細かい成長が把握できる

学生の考え方、行動、不安をアンダーで可視化しているの指導しやすい

例：大学生活でカチンかたは？ 受験にどう

例：進学意向はありますか？ 大学生活の不慣れはありますか？

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 11

GPS-Academic商品概要：大学様向けアフターフォローメニュー

- 01 分析報告会
受験データを集計・分析し、専任担当による報告会を実施いたします。学部、入試区分ごとの分析に加え、全国一歩先の数値、進学状況、経年変化分析等を提案。貴学のご導入の状況に応じて、一緒にサポートさせていただきます。
- 02 面談サポート
受験結果を活用した面談の流れ、事例が掲載した「面談サポートBOOK」や学生個人の様子がよくわかる、「学生カルテ」が出力可能なツールをご用意しております。
- 03 全国データ報告セミナー
全国データを集計して報告するセミナーです。全国データをベンチマークとした、学内データの具体的な分析手法についてもお伝えします。
- 04 データ可視化セミナー (ハンズオン形式)
受験データをお持ちの各種データを、Microsoft Power BIを活用し可視化する手順を基本操作方式から丁寧に説明いたします。

その他、活用支援セミナーを年間通して行っております。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 12

参考：GPS-Academic採択大学様（一部） Benesse i-Career

年間160大学20万人の学生に受検いただいているアセスメントです
※2021年度単年実績

青森中央学院大学、岩手県立大学、植草学園大学、宇都宮大学、追手門学院大学、桜美林大学、大阪経済大学、大阪樟蔭女子大学、岡崎女子大学、岡崎女子短期大学、小樽商科大学、神奈川大学、関東学院大学、九州大学、共愛学園前橋国際大学、京都産業大学、近畿大学、熊本学園大学、CSC通信大学、敬愛大学、慶應義塾大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、国学院大学、北海道短期大学、駒澤大学、札幌大学、湘南工科大学、女子栄養大学、成蹊大学、聖徳学園大学、成城大学、聖心女子大学、西南学院大学、尊修大学、高崎商科大学、高崎商科大学短期大学部、筑波学園大学、千葉商科大学、中央学院大学、中央大学、東海学園大学、東京家政学院大学、東京家政大学、東京家政大学短期大学部、東邦大学、東北学院大学、徳島大学、獨協医科大学、新潟経営大学、新潟食料農業大学、日本歯科大学、日本大学、日本農業経営大学校、広島学院大学、福井工業大学、福井大学、佛教大学、文京学院大学、別府大学、別府大学短期大学部、北海学園大学、松本大学、松山大学、高城大学、武蔵野大学、明治大学、名城大学、立正大学、龍谷大学、早稲田大学 ※50音順
(※2021年度弊社ユーザー会に参加大学のみ掲載)

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 13

Benesse i-Career

全国との比較からみえる貴学の特徴
～過去3年分（2019・2020・2021）の1年生結果から～

1年生平均・クロス集計（年度×学部） Benesse i-Career

受検年度	受検対象	受検人数	思考力			姿勢・態度			経験				
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
2019	全体	1250	43.5	42.0	41.8	43.5	47.2	46.5	49.0	53.0	50.8	55.2	53.0
	理工学部	40.4	38.7	38.4	40.9	47.7	46.7	48.5	52.8	50.4	54.3	53.8	
	文芸学部	40.3	37.8	39.0	41.3	46.3	48.4	50.8	56.6	57.4	60.7	57.7	
	法学学部	42.2	40.5	41.7	41.5	44.6	48.0	50.6	52.2	50.9	55.3	50.5	
	経済学部	42.8	41.8	40.0	42.9	48.5	46.9	50.0	52.7	50.0	55.3	52.8	
	国際学部	50.0	49.8	48.1	48.8	48.6	45.9	47.5	51.8	47.9	54.7	52.7	
	工学学部	47.9	46.6	46.5	48.3	47.3	45.5	47.3	51.8	50.1	53.6	51.7	
	看護学部												
2020	全体	1540	47.9	46.0	47.8	50.0	47.8	47.2	50.1	56.6	54.4	58.9	56.5
	理工学部	43.6	42.0	42.8	44.8	48.0	46.6	49.9	55.6	52.8	58.0	55.9	
	文芸学部	44.1	41.1	44.6	46.9	46.3	49.6	52.1	59.1	57.1	62.8	57.4	
	法学学部	44.5	42.7	43.5	46.6	47.5	47.2	51.0	57.4	55.9	60.0	56.3	
	経済学部	47.9	46.1	47.7	50.2	48.5	47.1	51.2	56.0	52.4	59.7	55.9	
	国際学部	54.5	52.6	54.5	57.5	49.9	48.1	49.2	56.3	52.6	58.7	57.6	
	工学学部	50.8	49.0	51.5	52.9	47.0	45.9	49.0	55.0	52.3	58.0	54.8	
	看護学部	52.4	50.3	53.2	55.0	47.1	47.4	49.3	57.9	58.0	57.6	58.0	

※学部別比較を目的としないため、学部名は文中/題名に記載しています。
※学部受検人数は上記欄外で表記しています。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 15

1年生平均・クロス集計（年度×学部） Benesse i-Career

受検年度	受検対象	受検人数	思考力			姿勢・態度			経験				
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
2021	全体1年生	43.5	43.0	40.5	44.9	48.2	47.5	50.3	56.9	54.6	60.1	55.9	
	全体	1677	46.7	46.4	43.8	48.6	47.2	46.9	49.7	55.4	53.3	58.3	54.6
	理工学部	42.8	42.5	39.0	44.4	47.6	47.3	49.3	54.7	52.8	57.4	54.0	
	文芸学部	42.4	41.1	39.3	45.1	46.0	46.6	50.4	56.1	55.3	59.4	53.6	
	法学学部	45.8	46.5	44.1	46.5	45.8	46.7	58.8	55.9	53.8	58.7	54.2	
	経済学部	45.6	45.7	42.8	47.5	48.2	47.6	50.1	56.3	52.5	60.3	54.4	
	国際学部	50.8	50.9	48.3	53.9	49.5	45.8	48.1	53.4	50.0	56.2	54.0	
	工学学部	49.4	50.1	46.2	53.3	46.7	46.3	48.7	55.6	53.4	57.6	55.8	
	看護学部	50.6	51.4	48.7	52.2	46.6	47.8	50.4	56.1	55.7	58.3	54.3	

※学部別比較を目的としないため、学部名は文中/題名に記載しています。
※学部受検人数は上記欄外で表記しています。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 16

1年生平均・クロス集計（学部×年度） Benesse i-Career

受検対象	受検年度	受検人数	思考力			姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係
理工学部 (18学部 併入)	2019	40.4	38.7	38.4	40.9	47.7	46.7	48.5	52.8	50.4	54.3	53.8
	2020	43.6	42.0	42.8	44.8	48.0	46.6	49.9	55.6	52.8	58.0	55.9
文芸学部	2019	42.8	42.5	39.0	44.4	47.6	47.8	49.3	54.7	52.8	57.4	54.0
	2020	40.3	37.8	39.0	41.3	46.3	48.4	50.8	56.6	57.4	60.7	57.7
法学学部	2019	44.1	41.1	44.6	46.9	46.3	49.6	52.1	59.1	57.1	62.8	57.4
	2020	42.4	41.2	39.3	45.2	46.0	46.8	50.4	56.2	55.3	58.4	53.6
経済学部	2019	42.2	40.5	41.7	41.5	44.6	48.0	50.6	52.2	50.9	55.3	50.5
	2020	44.5	42.7	43.5	46.6	47.5	47.2	51.0	57.4	55.9	60.0	56.3
国際学部	2019	45.8	43.3	44.1	48.5	45.8	46.7	50.8	55.9	53.8	58.7	54.2
	2020	42.8	41.8	40.0	42.9	48.5	46.9	50.0	52.7	50.0	55.3	52.8
工学学部	2019	47.9	46.6	47.7	50.2	48.5	47.1	51.2	56.0	52.4	59.7	55.9
	2020	45.6	45.7	42.8	47.5	48.2	47.6	50.1	56.3	52.5	60.3	56.1
看護学部	2019	50.0	49.8	48.1	48.8	48.6	45.9	47.5	51.8	47.9	54.7	52.7
	2020	54.5	52.6	54.5	57.5	49.9	48.1	49.2	56.3	52.6	58.7	57.6
その他学部 (併入)	2019	58.8	58.9	48.3	52.8	48.5	46.8	48.1	53.4	58.0	56.2	44.0
	2020	47.9	46.6	46.5	48.3	47.3	45.5	47.3	51.8	50.1	53.6	51.7
その他学部 (併入)	2019	50.8	49.0	51.5	52.9	47.0	45.9	49.0	55.0	52.3	58.0	54.8
	2020	49.4	50.1	46.2	51.3	46.7	46.3	48.7	55.6	53.4	57.6	55.8
その他学部 (併入)	2019	52.4	50.3	53.2	55.0	47.1	47.4	49.3	57.9	58.0	57.6	58.0
	2020	50.6	51.4	48.7	52.2	46.6	47.8	50.4	56.1	55.7	58.3	54.3

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 17

1年生平均・クロス集計（入試区分×年度） Benesse i-Career

受検対象	受検年度	受検人数	思考力			姿勢・態度			経験				
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
20学部 (併入)	2019	549	45.8	44.6	44.7	45.2	46.8	46.2	48.6	52.0	50.1	53.7	52.2
	2020	789	49.8	47.9	49.8	52.2	47.5	46.2	49.5	55.4	53.5	57.1	55.5
20学部 (併入)	2019	205	39.9	38.1	37.6	40.9	46.8	46.8	49.0	53.7	51.9	55.9	53.4
	2020	238	44.3	42.7	43.3	45.5	47.9	47.9	50.8	58.4	56.5	60.2	58.3
20学部 (併入)	2019	256	43.1	42.2	40.1	44.5	46.6	47.6	50.9	57.2	56.2	59.0	56.4
	2020	112	45.5	44.1	45.4	47.5	49.0	48.5	51.0	55.8	50.8	59.9	56.5
20学部 (併入)	2019	105	44.4	43.3	41.0	46.1	47.0	46.0	49.4	54.0	49.5	59.1	53.3
	2020	199	40.6	38.8	37.9	41.5	46.6	45.7	48.9	52.7	50.4	54.8	53.0
20学部 (併入)	2019	242	44.9	44.1	42.1	46.9	47.2	47.8	50.8	56.7	54.9	59.4	57.9
	2020	200	46.4	43.7	47.0	48.5	47.1	47.8	50.1	58.6	55.9	61.8	57.9

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 18

1 年生平均・クロス集計 (入試区分×年度) Benesse i-Career

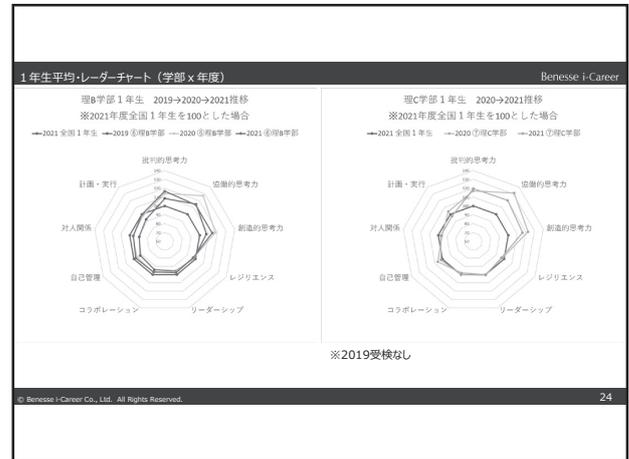
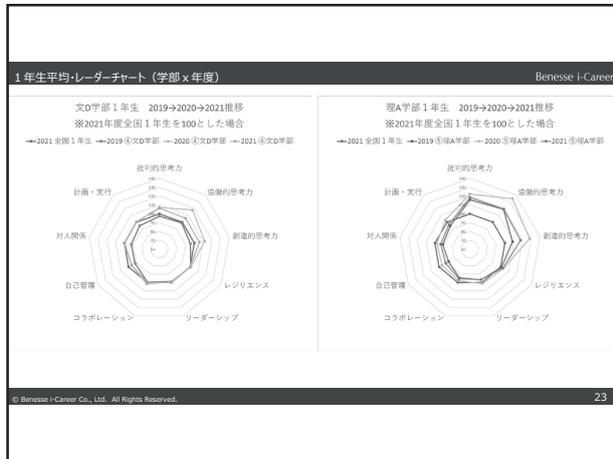
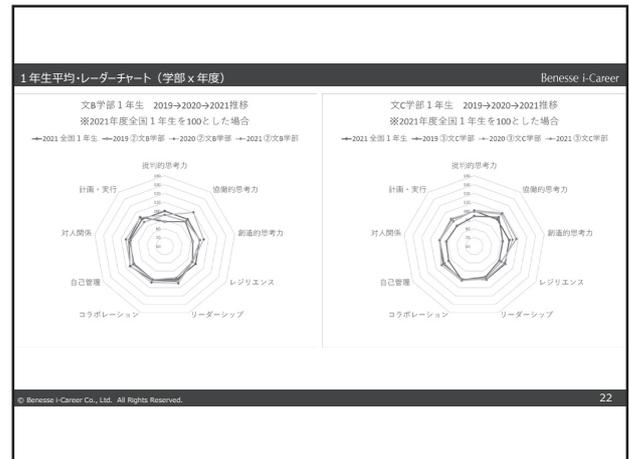
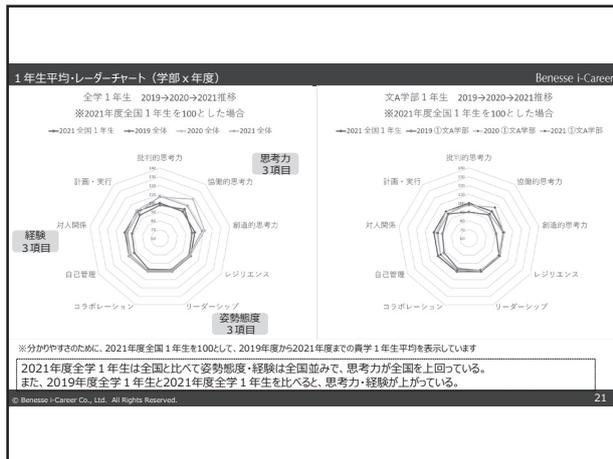
受験対象	受験年度	受験人数	思考力			姿勢・態度				経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
50. 学びの場 総合型選抜 募集要項 表1.1.1	2019	36	30.8	30.2	24.1	31.0	50.1	47.3	47.5	51.9	50.8	55.1	49.7
	2020	26	34.6	30.6	30.8	33.7	50.3	49.4	50.0	55.1	54.4	58.7	52.4
	2021	24	37.0	39.0	34.4	37.6	49.0	48.0	47.2	57.2	55.7	60.1	55.8
60. 総合型 選抜 (自: AO入試)	2019	4	42.2	44.2	34.0	42.3	51.2	49.5	46.9	63.3	56.3	64.2	69.6
	2020	9	39.0	35.1	39.3	42.5	50.6	55.3	57.7	68.5	65.0	78.3	62.2
	2021	21	36.7	34.6	33.2	38.6	48.3	49.0	51.3	61.9	61.7	66.1	57.8
70. 共通テ スト・特選入 試 (自: AO入試・面接 利用入試)	2019	152	49.2	47.4	49.4	49.2	48.9	47.3	49.8	54.6	51.1	58.1	54.6
	2020	161	50.5	49.2	50.5	53.1	48.3	48.7	51.1	57.6	55.7	60.3	56.9
	2021	170	50.7	50.5	48.7	53.1	48.1	45.8	48.6	53.6	48.3	58.9	53.6

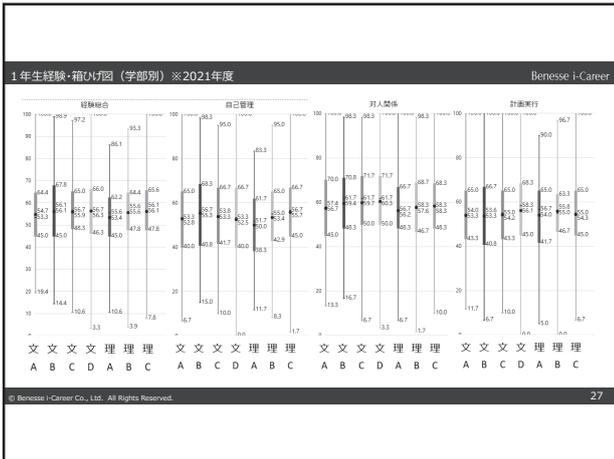
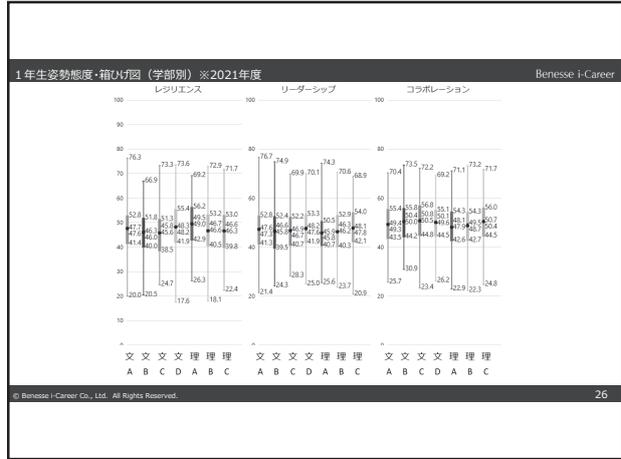
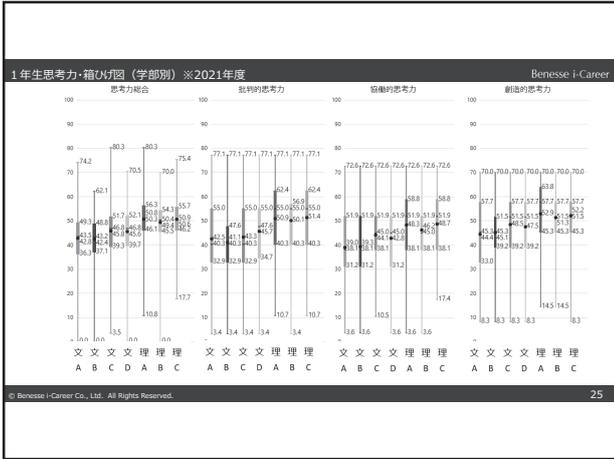
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 19

1 年生平均・クロス集計 (入試区分×年度) Benesse i-Career

受験対象	受験年度	受験人数	思考力			姿勢・態度				経験				
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行	
総合型選 抜	2019	3	31.3	27.2	21.7	40.6	48.7	51.5	47.3	62.8	62.8	56.7	65.6	66.1
	2020	1	34.4	18.7	33.2	41.7	53.0	64.5	52.2	62.8	65.0	63.3	60.0	
	2021	2	30.3	32.9	20.8	29.9	55.6	58.9	51.6	65.6	60.8	70.8	65.0	
その他の 選抜	2019	6	38.7	37.8	31.8	39.5	47.5	51.9	49.6	57.7	60.8	56.9	55.3	
	2020	4	37.2	24.0	34.9	40.0	53.2	51.6	55.3	66.9	70.4	65.4	65.0	
	2021	10	39.2	38.8	31.9	42.2	47.9	47.2	51.0	59.7	58.0	61.3	59.7	

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 20





Benesse i-Career

全国との比較からみえる貴学の特徴
～過去3年分(2019・2020・2021)の3年生結果から～

3年生平均・クロス集計 (年度×学部)

受検年度	受検対象	受検人数	思考力			姿勢・態度			経験				
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
2019	全体	370	44.4	42.8	43.3	45.7	48.9	47.9	50.0	53.1	50.2	57.4	51.8
	国文学部												
	国文学部		45.4	44.2	44.6	46.5	50.6	50.8	52.0	58.2	56.2	64.3	54.0
	国文学部		43.3	40.8	42.4	45.3	47.3	46.3	49.7	52.0	49.7	55.3	50.9
	国文学部		44.3	43.0	42.9	45.4	48.7	46.7	48.8	50.2	46.3	53.6	50.7
2020	全体	411	44.8	43.2	43.7	47.6	49.4	49.1	50.4	55.5	51.5	60.5	54.6
	国文学部												
	国文学部		42.4	41.9	41.7	46.1	50.0	52.7	51.7	59.5	54.9	66.9	56.7
	国文学部		43.9	42.7	43.9	45.9	47.7	48.3	50.3	54.7	51.5	59.0	53.6
	国文学部		45.9	44.0	44.2	49.4	50.6	48.6	50.1	55.0	50.5	59.8	54.8

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 29

3年生平均・クロス集計 (年度×学部)

受検年度	受検対象	受検人数	思考力			姿勢・態度			経験				
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
2021	全第3年生		44.7	43.9	42.4	46.5	49.0	48.1	49.9	56.3	52.8	60.0	56.0
	全体	1000	47.7	47.0	45.7	49.3	48.7	47.7	49.4	54.3	50.7	57.4	54.7
	国文学部		46.2	42.2	42.5	46.3	49.6	48.2	49.8	54.4	50.0	55.9	55.8
	国文学部		45.6	43.8	44.8	47.3	48.4	50.2	51.0	56.1	53.5	60.7	54.3
	国文学部		47.3	47.1	45.9	49.1	46.5	47.9	50.4	53.5	49.8	57.0	53.7
2021	国文学部		46.3	47.6	43.6	47.6	49.7	47.3	49.2	54.5	50.4	58.4	54.8
	国文学部		53.3	53.8	50.4	54.2	50.2	46.6	49.2	53.8	47.8	57.9	55.6
	国文学部		53.3	52.2	51.3	55.0	48.0	46.2	46.6	53.6	49.5	57.1	54.2

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 30

3年生平均・クロス集計 (学部×年度) Benesse i-Career

受験対象	受験年度	受験人数	思考力				姿勢・態度				経験					
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行			
①文A学部	2019															
2020																
2021			44.2	42.2	42.5	46.3	49.6	48.2	49.8	54.4	52.0	55.9	55.3			
①文B学部	2019		45.4	44.2	44.6	46.5	50.6	50.8	52.0	56.2	54.2	54.3	54.0			
2020			43.4	41.9	41.7	46.1	50.0	52.7	51.7	59.5	54.9	56.9	56.7			
2021			45.6	43.8	44.8	47.3	48.4	50.2	51.0	56.1	53.5	60.7	54.3			
①文C学部	2019		43.3	40.8	42.4	45.3	47.3	46.3	49.7	52.0	49.7	55.3	50.9			
2020			43.9	42.7	43.9	45.9	47.7	48.3	50.3	54.7	51.5	59.0	53.6			
2021			47.3	47.1	45.9	49.1	45.5	47.9	50.4	53.5	49.8	57.0	53.7			
②文D学部	2019		44.3	43.0	42.9	45.4	48.7	46.7	48.8	50.2	46.3	53.6	50.7			
2020			45.3	44.0	44.2	49.4	50.6	48.6	50.1	55.0	50.5	59.8	54.8			
2021			46.3	47.6	43.6	47.6	49.7	47.3	49.2	54.5	50.4	58.4	54.8			
②理A部	2019															
2020																
2021			53.3	53.8	50.4	54.2	50.2	46.6	49.2	53.8	47.8	57.9	55.6			
②理B部	2019															
2020																
2021			53.3	52.2	51.3	55.0	48.0	46.2	46.6	53.6	49.5	57.1	54.2			

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 31

3年生平均・クロス集計 (入試区分×年度) Benesse i-Career

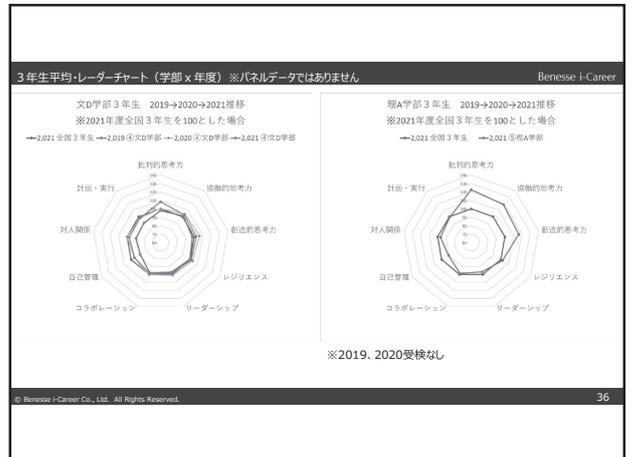
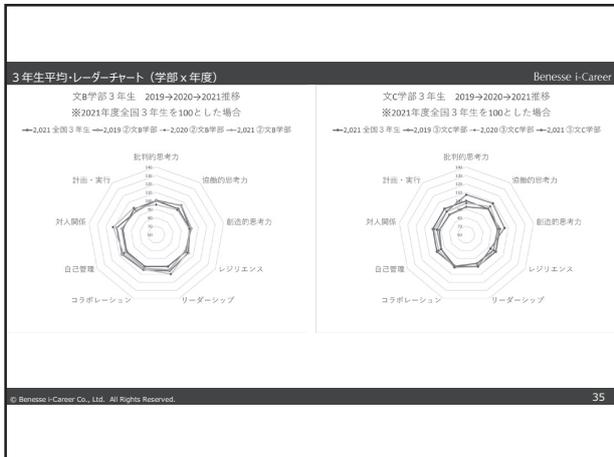
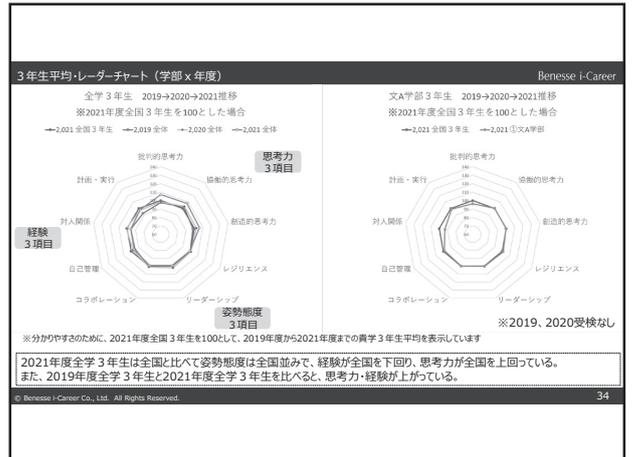
受験対象	受験年度	受験人数	思考力				姿勢・態度				経験					
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行			
①A-普通課程(国・英)	2019	132	44.5	42.6	43.7	45.2	48.5	48.4	50.5	54.0	52.4	57.7	51.7			
2020		155	45.4	43.2	44.2	48.2	48.2	49.3	49.9	55.9	53.4	59.2	54.9			
2021		437	49.4	48.4	47.7	51.2	48.1	46.9	48.0	53.7	50.1	56.5	54.5			
①B-学校推薦型選抜(国・英)	2019	52	38.8	36.6	36.7	41.5	48.1	48.4	50.3	56.4	55.0	57.7	56.3			
2020		56	42.0	40.9	40.6	43.0	49.0	49.1	51.0	57.7	53.5	63.7	55.8			
2021		173	43.4	42.9	41.3	44.4	49.8	49.2	50.1	54.5	51.4	57.1	55.1			
①C-学校推薦型選抜(国・英)	2019	33	43.0	42.4	43.5	43.1	49.1	46.7	51.9	49.7	43.7	58.6	46.7			
2020		29	40.9	39.5	39.4	40.8	56.6	51.5	50.4	58.1	53.6	62.4	58.4			
2021		63	46.3	46.6	45.3	46.3	49.9	48.7	50.4	57.6	54.0	60.8	57.9			
①D-学校推薦型選抜(国・英)	2019	57	43.8	41.3	42.4	46.1	50.4	47.4	49.2	52.7	49.1	57.4	51.7			
2020		68	42.9	41.1	43.3	45.8	49.7	48.8	51.3	53.9	48.8	60.0	53.1			
2021		146	47.1	46.7	44.8	49.6	48.1	48.1	49.7	54.3	50.1	58.5	54.2			

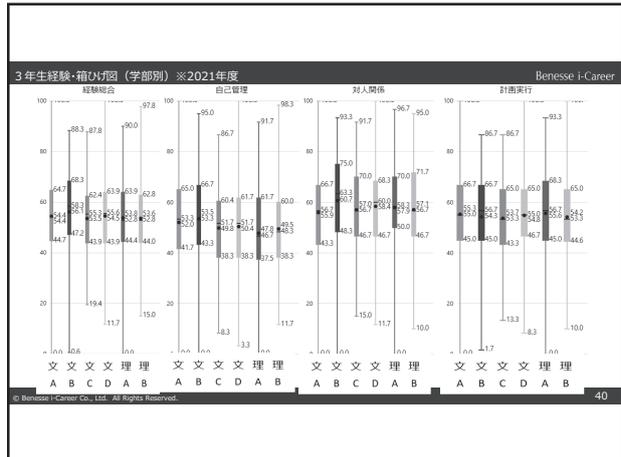
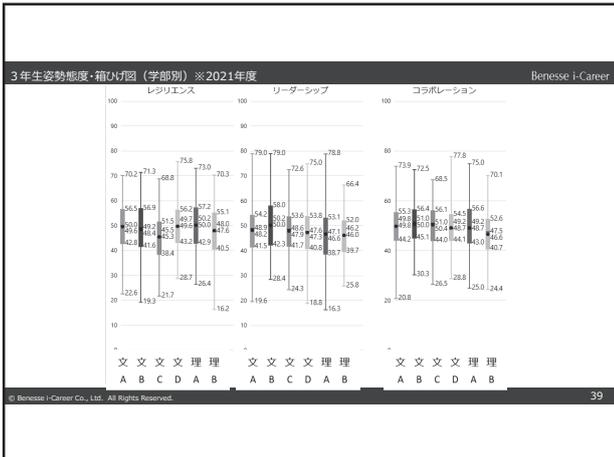
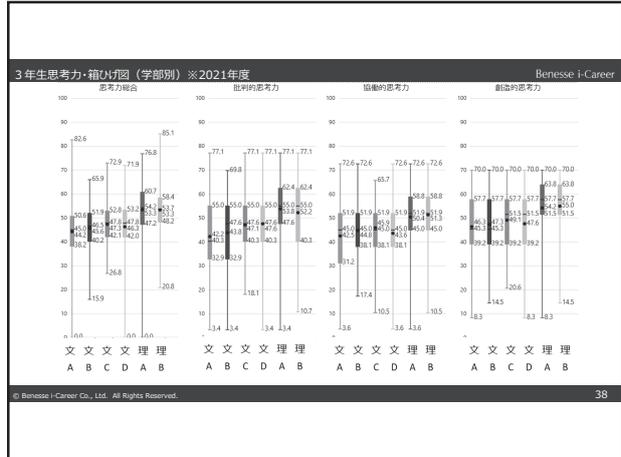
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 32

3年生平均・クロス集計 (入試区分×年度) Benesse i-Career

受験対象	受験年度	受験人数	思考力				姿勢・態度				経験					
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行			
①A-学校推薦型選抜(国・英)	2019	8	42.4	43.4	39.4	43.2	47.3	47.1	52.6	55.9	50.4	66.5	50.8			
2020		8	39.1	38.0	36.6	37.4	49.8	53.1	53.2	60.7	51.3	70.8	60.0			
2021		21	37.3	38.5	35.5	34.8	52.3	47.5	50.1	55.9	54.8	60.8	52.1			
①B-総合型選抜(国・英)	2019	0														
2020		2	50.4	57.3	53.8	52.2	51.5	47.1	49.5	45.8	35.0	64.2	38.3			
2021		6	47.9	47.6	45.0	51.5	54.7	52.7	53.1	58.1	50.3	63.3	58.6			
①C-共通型選抜(国・英)	2019	81	49.4	49.4	48.6	50.1	49.3	47.2	48.6	50.8	46.2	55.5	50.8			
2020		89	49.0	47.0	47.1	54.4	49.0	47.9	49.8	54.0	48.7	55.5	53.8			
2021		137	51.5	50.8	49.4	54.0	49.1	47.8	48.5	53.4	49.4	57.2	53.6			
①D-新卒生入試	2019	2	30.1	21.9	18.8	40.6	58.2	59.5	43.4	63.9	72.5	58.3	60.8			
2020		1	23.9	25.7	26.3	13.8	54.0	48.3	56.2	62.8	70.0	66.7	53.7			
2021		5	29.5	29.5	21.5	26.8	50.8	52.5	51.7	64.6	58.7	68.3	66.7			
①E-その他	2019	5	42.1	35.3	39.6	50.1	42.5	49.8	50.3	54.3	53.7	54.7	54.7			
2020		3	43.9	42.1	47.0	41.7	54.7	50.9	53.6	47.0	43.9	63.2	39.0			
2021		12	41.5	40.0	41.5	45.3	49.7	51.7	50.9	54.4	52.1	54.0	54.9			

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 33





Benesse i-Career

経年推移からみえる貴学の特徴
～2019年度と2021年度のパネルデータから～

3年生パネルデータ平均・クロス集計 (受検回 x 学部) ※対象は第1回 (=1年次) と第2回 (=3年次) 連続受検学生 Benesse i-Career

受検回	受検対象	受検人数	思考力				姿勢・態度			経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
第1回	全体	988	43.8	42.3	42.5	43.9	46.7	46.4	49.0	53.2	51.2	54.9	53.6
	①文①学部		40.9	39.3	39.0	41.3	47.5	46.8	48.8	53.4	51.1	54.6	54.5
	②文②学部		40.5	37.0	39.2	41.5	45.8	49.0	50.9	58.5	57.2	60.4	57.8
	③文③学部		42.7	40.6	42.8	42.5	44.0	45.5	50.4	51.1	50.2	53.7	49.3
	④文④学部		43.7	42.8	41.8	43.8	48.2	46.8	49.8	53.8	51.3	55.7	54.3
第2回	全体	928	47.6	46.0	45.7	49.2	48.7	47.8	49.5	54.4	51.0	57.3	54.8
	①文①学部		44.2	42.4	42.4	46.3	49.5	48.2	49.7	54.2	52.1	55.5	54.8
	②文②学部		45.7	44.1	44.8	47.2	48.5	50.3	51.0	56.3	53.6	60.8	54.5
	③文③学部		47.2	47.1	46.0	49.0	45.5	47.8	50.3	53.4	49.7	56.9	53.5
	④文④学部		46.3	47.6	43.9	47.8	49.9	47.6	49.5	55.0	51.1	58.6	55.2
第3回	全体	928	53.6	54.0	50.3	54.7	50.3	47.0	49.7	54.1	48.2	57.8	56.2
	①文①学部		53.3	52.0	51.7	54.7	48.1	46.4	46.3	54.1	50.5	57.1	54.8

※第1回は2019年頃に受検した1年次生、第2回は2021年頃に受検した3年次生結果です
※受検人数は科目別に異なる場合があります
※受検人数と経験値は異なる場合があります
※第1回と第2回の受検人数は2回連続で受検した学生とのパネルデータから、同一人に含まれません

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 42

3年生バネルデータ平均・クロス集計 (学部×受験回)

受験対象	受験回	受験人数	思考力				姿勢・態度				経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行	
①文A学部	第1回		40.9	39.3	39.0	41.3	47.5	46.8	48.8	53.4	51.1	54.6	54.5	
	第2回		44.2	42.4	42.4	46.3	49.5	48.2	49.7	54.2	52.1	55.5	54.9	
	差分	±0	+3.3	+3.1	+3.4	+5.0	+2.0	+1.3	+0.9	+0.7	+1.0	+0.8	+0.5	
②文B学部	第1回		40.5	37.9	39.2	41.5	46.8	49.0	50.9	58.5	57.2	60.4	57.9	
	第2回		45.7	44.1	44.8	47.2	48.5	50.3	51.0	56.3	53.6	60.8	54.5	
	差分	±0	+5.1	+6.3	+5.5	+5.7	+2.6	+1.3	+0.1	-2.2	-3.6	+0.5	-3.4	
③文C学部	第1回		42.7	40.6	42.8	42.5	44.0	45.5	50.4	51.1	50.2	53.7	49.3	
	第2回		47.2	47.1	46.0	49.0	45.5	47.8	50.3	53.4	49.7	56.9	53.5	
	差分	±0	+4.5	+6.5	+3.2	+6.4	+1.5	+2.3	0.0	+2.3	-0.4	+3.2	+4.2	
④文D学部	第1回		43.7	42.8	41.8	43.8	48.2	46.8	49.8	53.8	51.3	55.7	54.3	
	第2回		46.3	47.6	43.9	47.8	49.9	47.6	49.9	50.0	51.1	58.6	55.2	
	差分	±0	+2.6	+4.8	+2.1	+4.0	+1.7	+0.8	-0.3	+1.2	0.3	+3.0	+0.9	
⑤理A学部	第1回		50.3	50.4	48.3	49.1	47.7	45.7	47.8	52.1	48.5	54.2	53.7	
	第2回		53.6	54.0	50.3	54.7	50.3	47.0	49.7	54.1	48.2	57.8	56.2	
	差分	±0	+3.3	+3.6	+2.0	+5.6	+2.5	+1.3	+1.9	+6.0	-0.3	+3.5	+2.5	
⑥理B学部	第1回		48.6	46.7	48.0	49.0	46.5	44.4	46.1	51.7	49.9	52.7	52.7	
	第2回		53.3	52.0	51.7	54.7	48.1	46.4	46.3	54.1	50.5	57.1	54.8	
	差分	±0	+4.8	+5.3	+3.7	+5.7	+1.5	+2.0	+0.2	+2.4	+0.7	+4.4	+2.1	

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 43

3年生バネルデータ平均・クロス集計 (入試区分ごと)

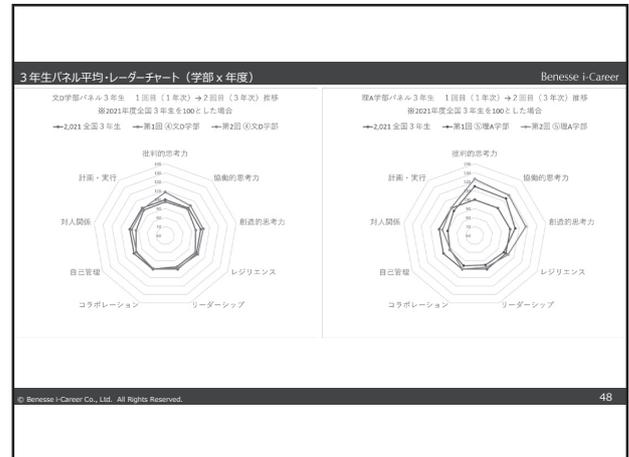
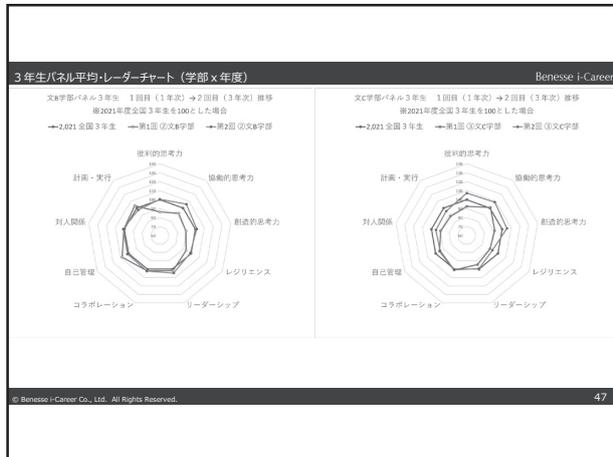
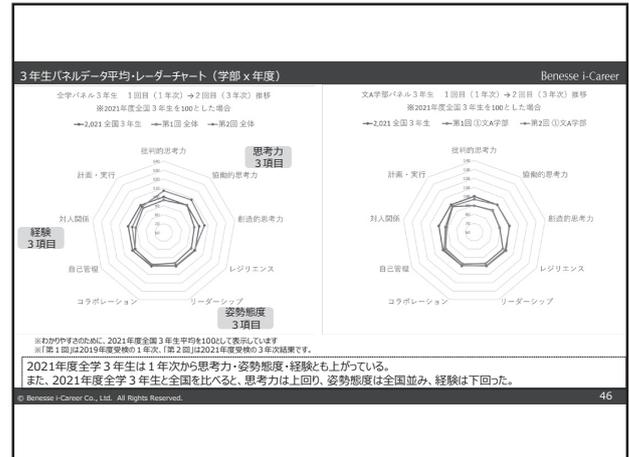
受験対象	受験回	受験人数	思考力				姿勢・態度				経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行	
① 文A学部 (自己推薦 入試)	第1回	408	46.0	44.4	45.2	45.6	46.5	45.8	48.6	52.4	50.5	53.8	53.0	
	第2回	408	49.3	48.4	47.5	51.0	48.1	47.2	49.1	54.1	50.7	56.7	54.8	
	差分	±0	+3.3	+4.0	+2.3	+5.5	+1.6	+1.4	+0.5	+1.6	+0.2	+2.9	+1.8	
② 文B学部 (指定校推薦 入試)	第1回	168	40.6	39.1	39.0	41.4	46.1	46.2	48.6	52.7	50.8	54.3	52.9	
	第2回	168	43.5	43.0	41.4	44.6	48.1	48.2	50.1	54.4	53.4	56.9	55.0	
	差分	±0	+2.9	+3.9	+2.4	+3.2	+3.0	+2.1	+1.5	+1.8	+0.6	+2.6	+2.1	
③ 文C学部 (指定校推薦 入試)	第1回	60	40.4	39.2	38.8	39.9	46.9	46.1	50.9	55.9	53.0	59.1	56.6	
	第2回	60	46.3	46.3	45.6	46.5	49.5	48.9	50.2	57.2	54.0	60.1	57.5	
	差分	±0	+6.0	+7.1	+6.8	+6.5	+2.7	+2.8	0.6	+1.3	+1.1	+0.9	+0.9	
④ 文D学部 (自己推薦 入試)	第1回	140	41.4	39.7	38.6	42.1	46.6	45.4	49.4	53.1	50.5	55.6	53.1	
	第2回	140	46.9	46.6	44.6	49.3	47.7	47.5	49.5	53.8	49.4	58.2	53.7	
	差分	±0	+5.4	+6.9	+6.0	+7.2	+1.1	+1.1	+0.1	+0.7	-1.1	+2.6	+0.6	

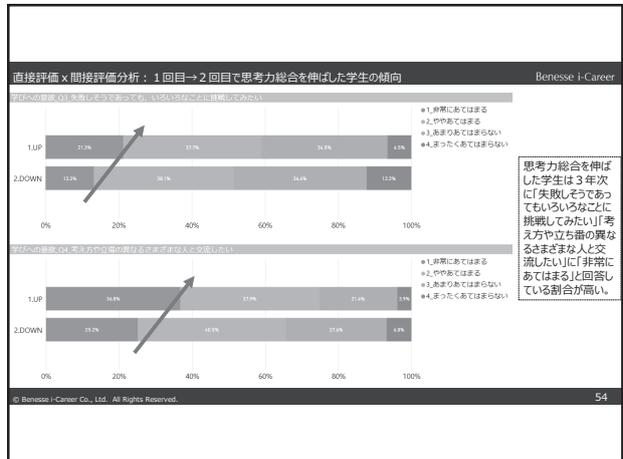
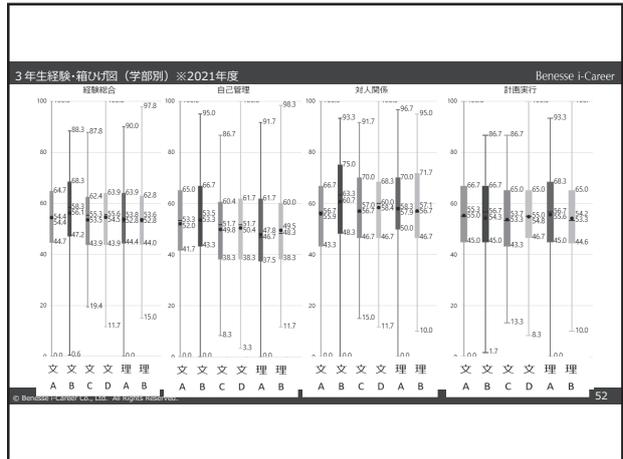
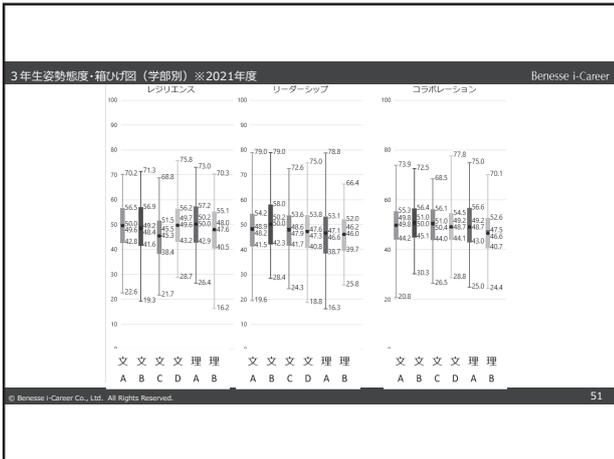
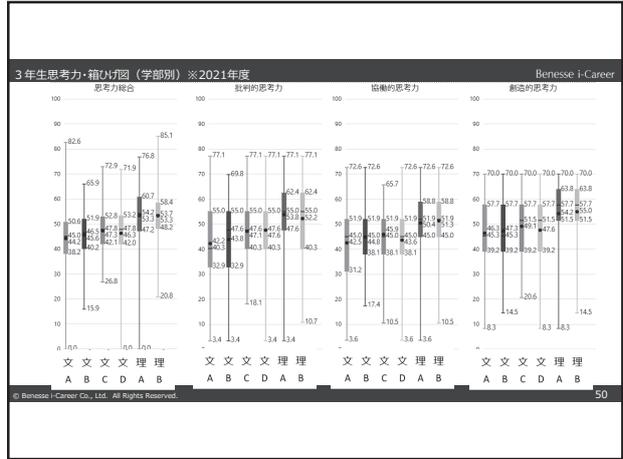
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 44

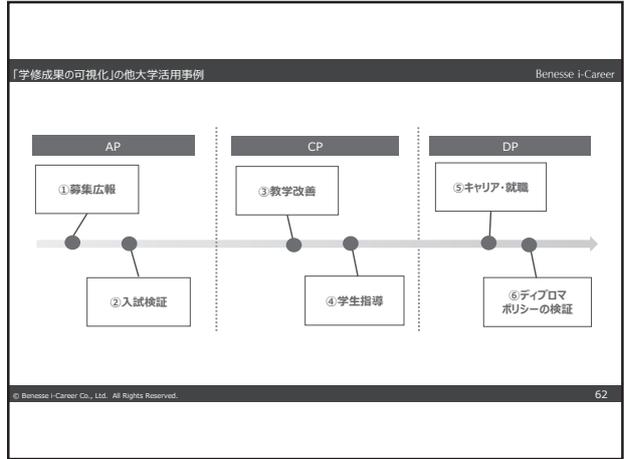
3年生バネルデータ平均・クロス集計 (入試区分ごと)

受験対象	受験回	受験人数	思考力				姿勢・態度				経験			
			思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行	
① 文A学部 (自己推薦 入試)	第1回	19	28.6	28.7	18.8	28.1	50.6	46.1	48.8	54.1	52.7	57.5	51.9	
	第2回	19	36.7	37.1	35.2	34.0	51.7	47.2	50.2	55.7	54.6	60.0	52.5	
	差分	±0	+8.1	+8.4	+16.4	+5.9	+1.1	+1.0	+1.3	+1.6	+2.9	+2.5	+0.5	
② 総合型 選抜 (自己 推薦入試)	第1回	6	46.0	46.3	43.4	47.4	50.6	50.9	49.6	42.3	53.6	70.8	62.5	
	第2回	6	47.9	47.6	45.0	51.5	54.7	52.7	53.1	58.1	50.3	65.9	58.6	
	差分	±0	+1.9	+1.3	+1.6	+16.1	+4.1	+1.8	+3.5	+8.3	-8.3	+5.1	-3.9	
③ 共通選 抜 (自己推 薦入試)	第1回	125	48.4	46.7	49.1	48.9	47.7	48.1	49.4	54.8	52.7	56.1	55.5	
	第2回	125	51.3	50.5	49.6	53.9	49.7	48.6	48.4	54.2	51.2	57.0	54.5	
	差分	±0	+2.9	+3.8	+0.5	+5.0	+2.0	+0.5	-0.6	-5.5	-5.0	+0.9	-1.0	
④ 総合型 選抜 (自己推 薦入試)	第1回	4	32.3	28.2	27.5	40.6	49.0	51.5	47.6	61.0	57.6	62.5	62.5	
	第2回	4	30.1	25.5	20.8	29.9	51.1	53.7	52.8	66.1	58.8	70.4	66.2	
	差分	±0	-2.2	-2.7	-6.6	-10.7	+1.1	+2.2	+5.2	+8.5	+8.2	+7.8	+3.7	
⑤ その他	第1回	8	35.2	34.6	30.7	33.8	43.0	50.1	49.3	53.5	57.5	46.9	56.3	
	第2回	8	44.0	40.3	42.4	45.3	48.0	54.7	51.7	49.9	49.2	47.5	53.1	
	差分	±0	+8.8	+5.6	+11.7	+11.5	+5.0	+4.5	+2.5	-3.6	-8.3	-0.6	-3.1	

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 45







①募集広報：GPS-Academicの全国共通学生意識調査結果を広報に活用（学習院女子大学様）

GPS-Academicの全国データと比べることで客観的に、在学生の満足度等を受験生や保護者に向けてアピール

①募集広報：学修成果を可視化し、教学マネジメントしていることをステークホルダーへアピール（日本大学）

②入試検証：入試の多面的・総合的評価・検証に活用（九州大学様）

アドミッション・ポリシー「主体的自律性」「協働的学習能力」「多角的思考力」「国際的視野」

入学者選抜～知識を問う試みから能力を見極める入試への転換

③教学改善：アセスメントを通じ、教職協働で教学改善（京都産業大学様）

IR推進室職員 GPSの直接評価と間接評価をもとに、学修成果が出ている学生の特徴を分析。

学部教員 学部内で学修成果が出ている学生を確認すると、特定科目を受講しており、その指導方法/授業分析一致。学部FD研学会で指導法を意見交換。

③ 教学改善：学部が求めている力を育成・評価できているか検証（明治大学様） Benesse i-Career

2020/11 GPS-Academic活用オンライン研究会 発表資料

3年次GPA×3年次思考力スコア

「思考力」という指標も、授業の改善検証や学生への帰属に役立っている。 明治大学 工学部 出見智 准之 先生

ゼミナールやアクティブラーニング形式の授業を展開する3年次カリキュラムの効果検証のツールとしてGPSを利用。3年次のGPAが高い学生ほど「思考力」が高いことが示され、育成・評価したいと考えている「考え抜く力」を評価できていたことが分かった。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 67

④ 学生指導：学生の長所を把握して褒めることで意欲を醸成（千葉商科大学様） Benesse i-Career

2020/11 GPS-Academic活用オンライン研究会 発表資料

千葉商科大学 国際教養学部 GPS-Academicを用いたリモート面談の実施

GPS活用による面談後のエピソード
① 教員の新たな気づき・自動の変化につながった
② 新入生が意欲的になった

千葉商科大学 国際教養学部 久保裕也先生

GPS-Academic活用による「個人面談」の意義

- 「すごいですね！」と褒めるための材料が得られた
- 教員での面接学生に対する個別指導や入社指導、学生が学びの成果を伸ばしている点なども、面談で明確に気づくことができた
- これにより、学生の長所を褒め、教師の力を発揮することができた
- 「なぜ、こういう評価がされたのか」という理由が、納得する点があり、質問することによって、学生の過去の人生経緯に気づき、納得することができた
- 評価が納得できず、些細な些細なことで意欲が落ちる学生も、面談を通じて気づき、意欲が回復した
- 大学の学びを「成長に向けた準備」と捉えやすくなった
- 自分の成長のプロセスに安心をもたせることができた
- 能力的な面だけでなく人間的成長を醸成させた(自覚を促した)

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 68

④ 学生指導：「学生の自己理解」と「教員の学生理解」の両面で主体的学修の実現へ（植草学園大学様） Benesse i-Career

2020/11 GPS-Academic活用オンライン研究会 発表資料

植草学園大学 理学部・教育学部センター長 橋名 俊一 教授
教育学部附属国際センター 18号館 飯田 昌輝 様

主体的学修の実現

教員の学生理解と学生の自己理解を得た面談は、モチベーションを支え、共に学修の仕方を探索する機会

学生理解
自己理解

面談にデータを取り入れることで、学生サポートの拡充を実現。学生の個性や置かれている状況をより多角的に把握できるよう。

データ分析も行い、新入生のベリソナを明らかにした上で授業内容の再構築や教授法の改善も図られている。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 69

④ 学生指導：要チェック学生のGPS-Academic傾向を基にした中退者低減の取り組み（高崎商科大学様） Benesse i-Career

2020/11 GPS-Academic活用オンライン研究会 発表資料

*GPS-Academic活用オンライン研究会 (2020/11/9~13)

① 申請者成績の取り組み

「要チェック」の項目に注目

レジリエンス コラボレーション

これらが「D」と判定された学生には、どのような取り組みが必要か

レジリエンス
リーダーシップ
コラボレーション

中退した学生のGPS結果を見てみると、姿勢態度の「レジリエンス」「コラボレーション」「D」の5段階評価で、最終の「D」が多かった。また、1年前のGPS結果でダブル「D」だった学生の現状を確認すると、実に38.9%が要チェック学生（退学・休学 GPA2.0未満）であった。→ダブル「D」の学生をせめて教員に情報共有すること

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 70

⑤ キャリア・就職：進路決定の遅い学生のGPS-Academic傾向を基にしたキャリア支援（東京工芸大学様） Benesse i-Career

2019/11 GPS-Academic活用研究会 (2019/11)

東京工芸大学 学長の発表資料

進路決定月のクロス分析

進路決定月とGPS-Aの結果を見てみると、4年生9月に以降に進路が決定している学生の「経験スコア（主観）」が学内平均以下であることが判明。

重点支援学生の特定を行ったことで、低年次からのキャリアセミナー参加の誘導や、経験の振り返りによるメタ認知の向上に取り組んでいる。

経験スコア
自己管理
対人関係
計画・実行

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 71

⑤ キャリア・就職：自分にあった応募先を見つけやすい仕組みづくり（北海道学園大学様） Benesse i-Career

2020/11 GPS-Academic活用研究会 発表資料

【お取り組み①】
早期内定有/無で、GPSの「経験」に差がある分析。→フォローガイダンスは、現時点で構えている/いない経験把握を促すようにした。

【お取り組み②】
インターンシップ企業/学内合設企業にインターンシップではどういった経験ができるか/採用ではどういった経験を持った学生を求めているかをGPSの「経験」項目をもとにチェックをした。→学生は「GPSの経験」の観点で自分にあった応募先を見つけやすくなった。

今後の取組み

早期内定有無(GPS)の「経験」に差が出た

インターンシップ・学内合設企業説明会での活用

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 72

Benesse i-Career

Appendix

GPS-Academic 出題例

Benesse i-Career

出題例 思考力 (批判的思考力) テキスト問題 ※動画問題例、音声問題例は商品HPでご覧ください

『事実と意見の区別』を問う問題の例

次のあ～おは「事実」ないしは「意見」についての語句で構成されている。うち2つが「事実」であるが、その組み合わせとなっているのは1～5いずれの選択肢が該当するか、答えなさい。

ただし、「事実」には「火星に生命は存在するか？」のように現時点で確認はできないが、つきとめれば「事実」として確定できるものを含む。

あ：IT技術の発達により生活は豊かになったか。
 い：地球温暖化のせいで見えにくくなったか。
 う：地球上の魚の数より虫の数の方が少ないか。
 え：仕事より趣味に時間を費やしている人が多いか。
 お：読書をするほど人生は豊かになるか。

1. あ～い
 ②. う～え
 3. う～お
 4. あ～お
 5. い～う

【出題のねらいと解答の傾向】
 この設問では、一般に「事実」に見る内容であっても、主観に即するものは客観的「事実」とはみなさない。すなわち「意見である」ということを見極められるかが問われています。

論理的な主張をするためには根拠が必要となりますが、事実と意見を区別することは、確かな根拠(事実)を提示する上で不可欠な力です。

解答の傾向としては、「あ：IT技術の発達により生活は豊かになったか」といった、自分の感覚や社会でよく取り上げられる意見を、事実として選択している受験者が多く見られました。

80

Benesse i-Career

出題例 姿勢・態度

「自分を良く見せようとするのができてしまう(反応歪曲)」を低く抑える効果のある「強制選択制」を採用しています。

◆強制選択制による出題例

問 以下のA～Cから、あなたに最もよく当てはまるものと、最も当てはまらないものをそれぞれ1つ選んでください。

A. 自分から先に立って物事を始める。
 B. 目標は常に高いところに置く。
 C. 頭の切り替えが早い。

3つの設問から、必ず、「最もよく当てはまるもの」と「最も当てはまらないもの」を選択させるという形式。

81

Benesse i-Career

出題例 経験

「思考力」「姿勢・態度」の背景として、どのような経験を積み、行動してきたかを、受験者自身で振り返るアンケートです。

自己管理	挑戦する経験	難しと思えることも挑戦した
	続ける経験	自分の目標を達成するまであきらめずにやり続けた
対人関係	ストレスに対処する経験	ストレスを感じたとき、その問題に向き合い克服した
	多様性を 수용する経験	自分の価値観で良し悪しを決めつけず、相手の立場や体験を尊重し付き合った
	関係性を築く経験	チーム内トラブルが起きたとき、自ら働きかけ問題を解決した
計画・実行	議論する経験	議論(話し合い)の場では何が課題で何を解決すべきかを明らかにしようとした
	課題を設定する経験	高い目標(成績)が得られなかったとき、なぜその目標にならなかったのかを考えた
	解決策を立案する経験	チーム活動などで計画を考慮する際、どのような効果的分子例しなげ解決した
	実行・検証する経験	試験の結果が出たとき、結果の良し悪しだけでなく、どうすれば良かったか(良かった)かを考えた

82

Benesse i-Career

出題例 学生意識調査

大学教育環境への期待・評価、学生の大学教育環境への傾倒度、などをアンケート調査しています。

学生調査 アンケート項目例	
新入生版	在校生版
大学・学部への魅力	入学後のイメージ変化
大学選択の理由	成長実感
授業内容への理解度	学部・学科の理解度
履修選択の考え方	大学教育・学生生活への満足度
学びへの取り組み	教育施設の利用度
大学・学部・学科への満足度	授業・科目に対する評価
学生生活への不安	学びへの取り組み
履修・進路への心構え	大学適応状況
	進路への準備状況
大学独自設問(方式1) 5問	大学独自設問(方式1) 5問
大学独自設問(方式2) 3問	大学独自設問(方式2) 3問
合計 6 5問	合計 9 4問

83

Benesse i-Career

参考：GPS-Academic測定内容と評価：思考力

1. 思考力(選択式問題、記述・論述式問題)
 大学の学びで育成される問題解決能力を9つの思考力で測定しています。

●測定内容

思考力の定義	評価の観点	測定方式	
批判的思考力	必要な情報を取り出し、いかにその観点から考え、自分の考えを根拠を立てて説明するための思考力	情報を読み取り、論理的に組み立てて表現する	選択式問題 記述・論述式問題
協働的思考力	他者との共通点・違いを理解し、合意を得たり、気づきを得たりして人と関わりあうための思考力	他者との共通点・違いを理解する	選択式問題 記述・論述式問題
創造的思考力	情報をつなぎたり、別の場面に応用したりすることで、問題を解決する	情報を活用する・発想する	選択式問題 記述・論述式問題

●評価：スコア、S・A・B・C・Dの段階で評価します。批判的/協働的/創造的思考力の過年度比較については、スコアをご活用ください。

○スコア＝[(項目得点合計点もしくは能力値)÷平均得点もしくは能力値]×標準偏差×10+50

※「思考力(選択式問題)」「姿勢・態度」は、大学生で基準集団(固定)を設定し集団の中での位置を数値化しています。
 ※「思考力(選択式問題)」において、受験者の正答率が極端に低い場合等、マイナスのスコアが出る場合があります。

84

参考：GPS-Academic測定内容と評価：姿勢・態度 Benesse i-Career

2 姿勢・態度
 問題解決に向かう姿勢・態度を測定しています。
 ※良い悪いを判別しづらい選択肢を並べ、その中から「最もよくあてはまるもの」「最もあてはまらないもの」を選択させる形式となっています。

●測定内容

レジリエンス	感情の制御(ストレス耐性) 立ち直りの早さ(回復力) 状況に応じ冷静に対応する力(自己統制力・柔軟性)
リーダーシップ	自ら先頭に立ち進める力(自主性・率先性) 未知のものに挑戦する力(チャレンジ精神・開放性) 粘り強くやり抜く力(持続力・現実性・動機性)
コラボレーション	相手の立場に立ちよとする姿勢(共感性) 他者と関わろうとする積極性(外向性・親和性)

●評価：スコア、S・A・B・C・Dの5段階で詳細します。
統計処理の前提として、予備アンケートを複数回実施し、尺度の安定性、一貫性を検証しています。

○スコア＝[(項目得点合計点もしくは能力値－平均得点もしくは標準偏差)÷標準偏差]×10÷50
 ※「思考力選択式問題」「姿勢・態度」は、大学生で標準集団(固定)を設定し集団の中での位置を数値化しています。
 ※「思考力選択式問題」において、受検者の正答率が極端に低い場合等、マイクスのスコアが出る場合があります。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 85

参考：GPS-Academic測定内容と評価：経験 Benesse i-Career

3 経験
 問題解決の力を磨くための経験や行動を、自己管理、対人関係、計画・実行という3つの分野で測定しています。

●測定内容

自己管理	目標を掲げ、自分の感情や行動を適切にコントロールしながら、達成に向けて粘り強く行動する	挑戦する経験 粘り続ける経験 ストレスに挑戦する経験
対人関係	自分と異なる意見や価値観、行動のしかたの違いを受け入れ、他者との意見を形成しよとする	多様性を受容する経験 関係性を築く経験 議論する経験
計画・実行	問題解決に必要なプロセスを適切に運用する	課題を設定する経験 解決策を立案する経験 実行・検証する経験

●評価：達成率で詳細します。全項目に「とてもよくやった」と回答した場合を満点とし、満点に對しただけ得点で得たかを達成率として表します。
 ※宣傳：宇都宮大学名譽教授磯川良彦先生に作問の吟味、監修をいたしております。
 統計処理の前提として、予備調査を複数回実施し、尺度の安定性、一貫性を検証しています。各項目の信頼性係数は0.7～0.9の範囲におさまっています。

○達成率＝(得点÷満点)×100
 ※「経験」は、「とてもよくやった」＝4点、「よくやった」＝3点、「時々やった」＝2点、「少しやった」＝1点、「ぜんぜんやっていなかった」＝0点。

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved. 86

アクティブラーニング型授業としての 反転授業

- 日時 2022年9月12日(月) 10:30~12:00
- 講師 角田 和巳 教授
(芝浦工業大学 工学部 機械工学科)
- 会場 Zoomによるオンライン開催
- 対象 学内教職員、非常勤講師、大学院生

企画趣旨

教育におけるICT化が進み、授業外の学習時間の増加、教育の質向上等に有効とされる反転授業が改めて注目をされています。また、現在多くの大学で行われているオンライン教育への取り組みは、今後反転授業を展開していく契機となる可能性もあります。

今回のFD・SD学習会では、芝浦工業大学の角田 和巳教授をお招きし、反転授業を中心とした授業設計の考え方、事前学習教材を準備するときの留意点などについてご紹介をいただきます。

反転授業に関心のある方、ご自身の担当科目に反転授業を取り入れてみたいと考えている方は是非ご参加ください。

申し込み方法・問い合わせ先

下記URL等からお申し込みください。

<https://us06web.zoom.us/join/register/tZckdemprT8rGNHICNynTwoezPTxelDoDzI>

※お申し込み後、参加方法の詳細が 自動メールにより送付されます。

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター
TEL: 052-838-2032 (内線: 2659)



第17回 FD・SD 学習会 実施報告

1. 実施概要

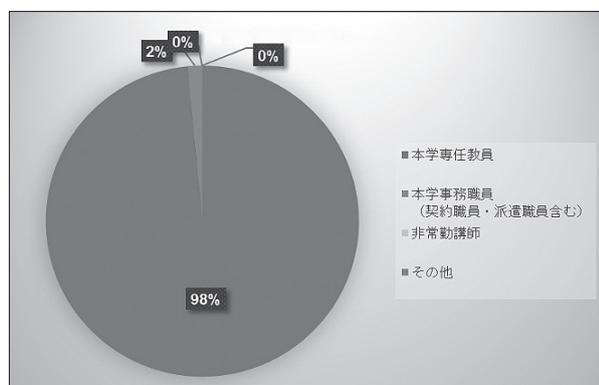
- ・日 時：令和4年9月12日（月）10：30～12：00
- ・開催方法：Zoom によるオンライン開催
- ・テ ー マ：アクティブラーニング型授業としての反転授業
- ・講 師：角田 和巳 氏（芝浦工業大学 工学部 機械工学科 教授）
- ・参加者数：108人（専任教員100人、事務職員8人、大学院生0人、その他0人）

2. アンケート方法等

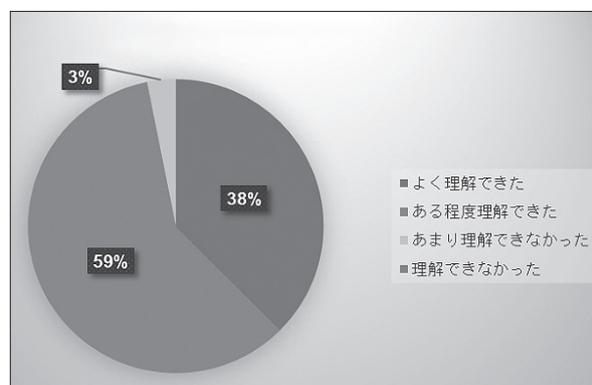
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②本日の内容は、理解できましたか？
 - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④本学習会の満足度について教えてください。
 - ⑤講演の感想をお聞かせください。
 - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
 - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：65人
- ・質問⑤～⑦については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

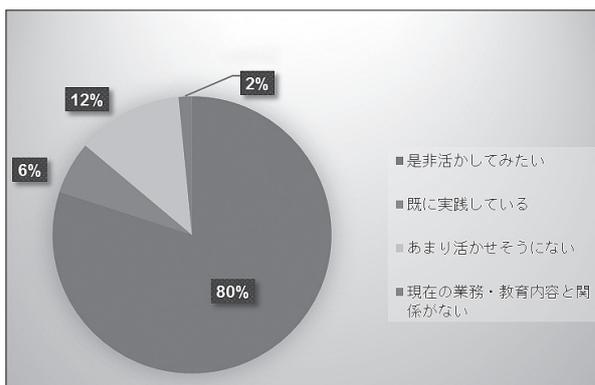
①所属をお知らせください。



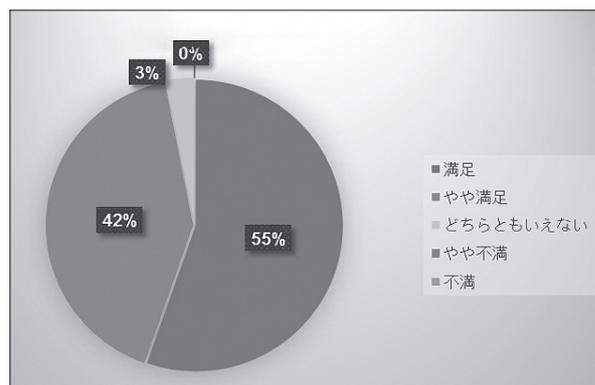
②本日の内容は、理解できましたか？



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください。



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・学生の理解度向上という点では非常に有益であると考えている。
- ・授業で活用できる新しい手法を学ぶ事ができたのでよかったですと思います。
- ・どうしても教員側の負担増がネックで実施できなかったが、これまでに撮り貯めた授業動画を反転授業に活かすという発想は良いと思った。前向きに考えてみたい。
- ・とても理解しやすい講演で、質疑でのお答えも含めまして、今後の講義に参考になりました。
- ・具体的な例を見させていただき、わかりやすかったです。参考にさせていただき、少しずつ取り入れていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・一部の演習授業で採用していますが、前向きにやらない学生への対応がまだまだ出来ていません。
- ・反転授業の実例を知ることができたのは良かったです。
- ・反転授業の設計に必要なことがらについて、実感を持てるよう説明してもらえてよかったです。
- ・非常に参考になりました。理工系基礎科目では「知識の伝達」が重要なので、反転授業をどう設計するか大変興味があったのですが、多くの疑問が解消できました。
- ・反転授業は、全授業回ではなくとりあえず1回だけでも導入可能なことがわかったのが有益でした。
- ・講演そのものに対する感想ではないが、参加者のマイクがオンになって聞き苦しい時があった。内容的にも全教員に知られてはいけないことであったように思う。こうしたトラブルは、ウェビナー形式での開催にするか、ミーティング形式をとるにしても、参加者のミーティング参加時にマイクがミュートになるよう設定いただければ避けられると思う。
- ・再度、続編があれば聴講したい。
- ・反転授業について気になることがうまく解説されていて助かりました。
- ・反転授業の具体的な構築の仕方についてイメージすることができました。ただ、文系の大講義においてそれがどのくらい可能なのかといった点については考える必要がありそうです。おそらくはICTをさらに活用する必要があるのでしょうか。
- ・予習テストというかたちでなんちゃって反転授業を実施していました。今では過去の講義動

画を一部公開してます。いざ、対面授業で対面でなければならぬ講義とは？と考える機会をいただきました。

- ・説明が非常に具体的でわかりやすかった。
- ・効果的な学習活動だと思います。勉強させていただき感謝しております。しかし、私の現実の授業への導入においては、更にいくつかの工夫などが必要と感じております。
- ・けっこう準備や労力が大変そうだが、来年度の授業から導入してみたいと感じた。
- ・反転授業の具体的な実施方法について理解できました。ゼミ単位の少人数ではビデオは使わないにしても似たことはやっているように思いますが、通常の講義の場合はなかなか難しいところがあるとも感じました。
- ・コロナ禍により従来の授業形態が制限され、やむを得ず取り入れた「動画による予習＋対面での実地」という形態が有効な教育手法の一部であるという点で疑心暗鬼に進めていた授業にやや安心できた。
- ・反転授業についてデータとともに詳細に教えていただき、大変有意義でした。ありがとうございました。
- ・学生に興味をどのように持たせるか？学生にどのようにして効率的に学習するのか？が問題ですね。
- ・ビデオ作成時の苦労やポイントなどのリアルなところをもう少しお聞きしたかったです。
- ・反転授業の概要について知識がなかったため、とても勉強になりました。
- ・まさに反転授業について知りたいと思っていた内容が具体的かつ非常にわかりやすくまとまっていた待望の講演会でした。同じ理系として非常に参考になった。
- ・とても参考になりました。どうもありがとうございます。
- ・反転授業の実施方法やその効果について、大変分かりやすかったです。
- ・私が現在担当している科目は反転授業とは相性が良くないように思えた。一般的に、授業内容において学生が思考する余地が多い科目ほど反転授業の効果が大きそうに思えた。
- ・反転授業の効果については理解できたが、講義以外の他の業務もあり実践には負担が多い。
- ・最後の質問へのご回答を含め、実際の運用例や学生の取り組み度合いなど具体的なお話があって、大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・講演で聞いた方法を実践できれば理想だが、時間負担（教員だけでなく学生も）を考えると難しいのかなと思う。多くの教員が講義に追加してビデオ聴講を要求すると、時間が足りなくなると思う。15回を半分対面、半分遠隔ならできるだろうが。
- ・興味深いお話しでした。9割近くが予習してくるとのことでしたが、本学のように学生に分布が幅広い場合、講義で対象とする学生の学修意欲、学力に合わせた形にしないと難しい仕組みであること、さらに学生数が多く、科目数が多い場合については教員負担が非常に多くなりそうなので、やり方をしっかり考える必要があることも分かった。
- ・講演でお示しいただいた授業形態については高い教育効果が期待できると思います。ただ、担当者によって授業形態が異なると学生が戸惑うので、学部全体で導入するなど、学部の方針を示す必要があるように感じました。

- ・反転授業のことが分かり良かったと思います。
- ・反転授業の効果について、再認識することができました。
- ・現在の所属学生は、コロナ禍につきオンデマンド・オンラインの受講やLMSの操作に慣れている（そうせざるを得なかった）世代であるため、反転授業も導入しやすい状況かと考えます。一方で、今後の入学生、つまりほぼ全科目を対面講義で受講する世代では、操作面に関する個別の質問の増加が懸念されます。これらにもできるだけ対応したいと考える反面、個々の教員が、多数の受講生に対してきめ細やかなサポートを行うのは限界もあるかと考えます。操作面の質問は共通項目が多いのではないかと考えられますので、長期的な視点で、大学としてのサポート体制の構築について、ぜひご検討いただけましたら幸いです。
- ・質の高い授業動画が簡単に視聴できる時代になった今、講師の先生がおっしゃっていたように、「わざわざ教室に来たからこそ学ぶことができる授業」を設計していくことは、もはや避けられないことだと思います。優秀な学生に選ばれる大学になるためには、反転授業・アクティブラーニング型授業は「できたら良い」授業ではなく「当たり前」となる必要があります。しかし、依然として、従来型のいわゆる「一方的な知識伝達型」の講義はまだまだ本学でも多い現状があります。その大きな理由として、教員は「研究業績」で評価される割合が非常に高い一方、「授業」は教員の評価でのウエイトが低い点が挙げられます。そのため、授業の質向上に時間をかけるよりも、むしろ授業になるべく時間を取られないようにして、いかに研究を進めていくか？が教員にとって重要な命題になっています。学生の授業評価も、教員の自己評価チェックも、教員全体の評価としては大きな影響を与えていません。授業への取り組みが教員の評価にダイレクトに効いてくるような仕組みになると、本腰を入れた取り組みになるのではと思います。

今回の講師の先生は、反転授業の動画作成、予習のノート提出に対する添削、欠席者用の授業動画の編集などを行っているとのことでした。それほど授業に時間をかけることが自分にできるだろうかと不安になりました。スクラップ&ビルドで、授業に対する質を向上させる取り組みを進めるならば、それにかかることができる時間を、研究へのエフォートを減らさずに確保できるような仕組みづくりも必要だと感じました（例えば、会議の回数や時間を減らす、オンライン化する、メールベースではなくチャットベースで教職員とのやりとりができるようにする、など）。また、今回のようなFD研修会に参加してこない先生こそ問題で、大学全体としては、その先生たちの授業力を高める必要があると思います。学生の授業評価と連動した研修の仕組みなども検討する必要があるのではと思いました。また、授業の質向上に関して意欲のある教員が、気軽に情報交換をしたりできる場があると良いと思いました。例えば、フェイスブックのようなSNSのグループを活用したり。

最後に、オンラインでの研修会を企画して下さいありがとうございました。今後も、オンライン（またはハイブリッド形式）での研修ですと、色々な仕事の合間にでも参加しやすく、とても有難いです。

- ・ご自身での運用事例についても示され、非常に有意義な講演だったと思います。このような講義を実施するためには、単独では負担感が強くなるため、どのように導入していけばいい

のだろうというところが一番の疑問でした。

- ・何かしらの強制力を持って実施を加速するという点については学科、学部、大学としてどうやって行くのが重要だと感じさせられました。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・反転授業導入の検討に係る情報収集。
- ・いつも学習会に参加しようと思っています。
- ・Zoomなので自室から参加できる。テーマが自分の興味に一致した。
- ・今後の講義の有り方、進め方に活かすため。
- ・アクティブ・ラーニング型の授業に興味があり、私の理解では反転授業もアクティブ・ラーニング型の授業の一つだったので、申し込みをさせていただきました。
- ・大学教育開発センターからの案内。
- ・反転授業に興味があったから。
- ・自分が教育改善委員になったことと、反転授業というキーワードに興味があったこと。
- ・反転授業に関心があったためです。
- ・反転授業についての知識がなかったので理解を深めたかったから。
- ・学習会のテーマに関心を持ったため。経済学部の大学教育開発センター委員として、必要な知識を得るため。
- ・時間的な余裕があったから。
- ・コロナへの対応に応じた講義の在り方、検索すれば多くの知識が得られる状況下での講義の在り方について考える必要があると感じているため。
- ・理工系+座学の授業で反転授業やアクティブラーニングを行う方法を知りたいと思い、参加しました。
- ・反転授業についてほとんど知らなかったため、どのようなものか知りたかった。
- ・反転授業の具体的な例を知りたいために申し込みをしました。
- ・反転授業をいつかは導入してみたいと思っているため。
- ・反転授業について学習するための機会になるため。
- ・反転授業について興味があったため。
- ・反転授業にもともと興味があった。
- ・アクティブラーニングとしての反転授業について、どのようなものでどのように実施しているのかが分からなかったので参加いたしました。
- ・教員のFD・SD活動実績が克明に提示される点。
- ・反転授業について理解を深めたかった。
- ・以前から反転授業には興味があり、できれば自分の授業でも取り入れたいと考えていたため。
- ・前から関心はあったが、講義が無い期間なので予定が開いていたため、参加した。
- ・10年ほど前に海外の大学で行われていた反転講義からどのくらい改善されてきたのかを知りたかったから。

- ・反転授業の具体的なところを知りたかったため。
- ・アクティブラーニング型授業としての反転授業に関する知見を得るため。
- ・近い分野の先生における取り組みを伺えると思ったため。
- ・今回ご紹介いただいた反転授業に近いものを自分の科目で実施しているが、あまり効果がみられなかったため、成功例についての情報を得て、参考にしたいと考えたから。

⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・障がい学生支援等のインクルーシブ教育について。
- ・企業が大学に何を求めているのか（採用に関連し）。
- ・高校生までの情報教育が進められているはずですが、実際にはPC慣れしている学生と慣れていない学生の差が大きいです。実態はどのようなものなのかわかる講演があれば聞きたいです。
- ・学習用のビデオや教材作成の具体的なスキルや、作成するために使えるソフトの紹介など技術的なハードルが下がるようなお話を伺ってみたいです。
- ・現在の高校教育の方針等と高大連携についての講演が聴きたい。入学生の雰囲気や受講態度が年々変わっていくのが感じられるが、それに対しての教員の対応を逐次アップデートする意味でも、高校教育の現状を知りたい。
- ・今回の研修も、アクティブラーニング型や反転授業型で実施できないでしょうか。研修を行ったものの、一体どれくらいの参加者が能動的に学んだかは疑問です。「教員が何を教えたか？」ではなく、「学生がどう学んだか？」が求められる中、本日の講義も、一方的な知識の伝達型になっており、もっと能動的に学ぶ仕組みが必要だと思います。
- ・海外の大学に勤務されている日本人の先生に、海外の大学の授業や教育の仕組みや取り組みについてお聞きしたいです。

1

名城大学 第17回FD・SD学習会

アクティブラーニング型授業としての
反転授業

- 2022年9月12日 -

芝浦工業大学 工学部 機械工学科 角田 和巳

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

2

本日の話題提供の流れ

1. 反転授業の概要
2. 反転授業の設計
 - 事前学習の設計
 - 対面学習の設計とアクティブ・ラーニング
3. 反転授業の事例紹介

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

3

1. 反転授業の概要

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

11/46

4

反転授業 (Flipped classroom) とは

▶ 基本事項の解説や知識の説明などを収めた映像教材で授業前に自己学習させ、教室の対面授業では知識の定着や知識活用力を育成するための演習、グループワークなどを行う教授方法

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

5

従来型授業と反転授業との比較

従来型授業 Traditional classroom	反転授業 Flipped classroom
授業前 Before class	授業前 Before class
授業中 During class	授業中 During class
授業後 After class	授業後 After class

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

6

反転授業の種類^{i, ii}

- ▶ 完全習得学習型
 - 学習者全員が一定の水準に到達することを目的とする
 - 教室での対面授業は演習やチュータリングが中心
 - 事前学習で学んだ内容を、対面授業での繰り返し学習によって定着させる
- ▶ 高次能力学習型
 - 事前学習で学んだ知識を活用し、対面授業では発展的活動を行う
 - 教室での対面授業は協調学習や討論・発表が中心
 - プロジェクト学習を実践できるような教員の力量が必要

ⁱ 森朋子, 反転授業-知識理解と連動したアクティブラーニングのための授業枠組み-, ディープ・アクティブラーニング, 松下佳代 編著, (2015) pp.52-57.
ⁱⁱ 東京大学大学院情報学環・反転学習社会連携講座 <https://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/archives/flit/seminar/20140212-2.html> (参照日: 2021年1月10日)

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

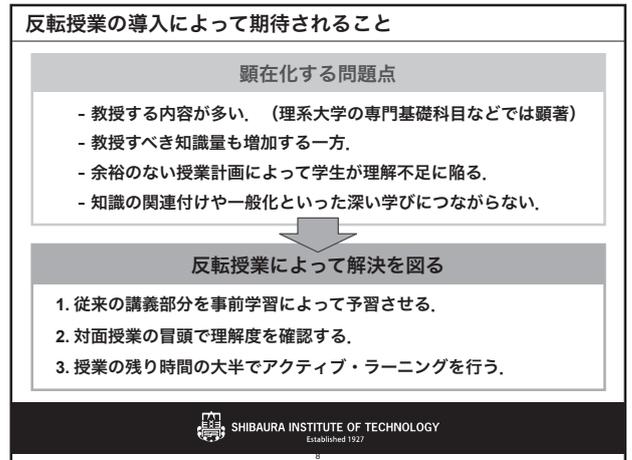
7

反転授業の利点・課題

代表的な反転授業の例			長所・利点・期待される効果	短所・課題・懸念される事項
事前学習	1. 予習ビデオ（15分程度）の視聴 2. ノートの作成 3. 確認用演習問題の答案作成		学生	
対面授業	1. 事前学習の振り返りと質疑応答 2. 演習問題への取り組み（個人作業） 3. 演習問題のグループディスカッション 4. 2～3の繰り返し 5. 授業の振り返り	20分（10分） （10分） 60分 10分		

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

8

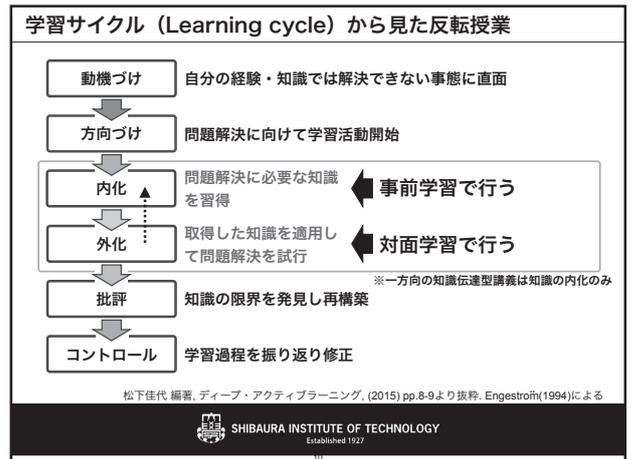


9

2. 反転授業の設計

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

10



11

事前学習の設計（1）

▶ 予習ビデオの準備

1. テキストではなく動画を用意する
 - 教室での講義の代替という反転化の本質に立てば、講義動画を用意することが必要
 - 教員による解説が講義動画を介して行われることにより、授業相当分の学習となる
 - 情報量が豊富（文字、画像、音声、映像）
 - 動画1本の長さは10分程度
 - トピックごとに作成

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

12

事前学習の設計（1）

▶ 予習ビデオの準備

1. テキストではなく動画を用意する
 - 高精度画像でなくともよいが、文字の視認性は確保する
 - 授業映像利用の場合は板書に注意
 - 音声は明瞭
 - 簡潔な表示と説明
 - 凝った演出は不要
 - 講師映像は必ずしも必要ではない

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

事前学習の設計 (1)

▶ 予習ビデオの準備

2. 動画を作成する。作成方法は様々、

- 講義の様子をビデオ撮影する
- Zoomの録画機能を利用する
- PC画面のキャプチャソフトを利用する

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

事前学習の設計 (1)

▶ 予習ビデオの準備

3. 動画を配信する

- 配信サーバへアップロード
※ 以下の例はMicrosoft stream

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

事前学習の設計 (2)

▶ 事前課題の準備

- 予習ビデオの内容を確認する仕掛けを用意しておく
- ビデオにクイズを埋め込む
- ビデオの内容を要約させる
- ビデオの内容に対応した演習課題を提出させる、等々

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

予習ビデオの代表的な作成方法

方法	長所	短所
教室でビデオ撮影	- 授業の様子をそのまま利用可能 (講義時間を別途設定する必要なし)	- 撮影機材、スタッフが必要 - 編集作業が必要 - 肖像権への配慮が必要
スタジオでビデオ撮影	- 高質な動画作成が可能	- 設備、スタッフが必要 - 編集作業が必要 - 時間が必要
プレゼンテーションソフト	- 教材準備、録画作業が簡単 - 低額 (ほぼコスト不要)	- 複雑な処理は困難
スクリーンキャスト※ + ペイントソフト	- 教材準備、編集作業が簡単 - プレゼンテーションソフト単体より複雑な処理が可能	- ソフト固有の操作感

※ ペイントソフトやプレゼンテーションソフトによるPC画面上の作業をナレーションも含めて録画するソフト

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

対面授業の設計

▶ 事前学習との接続

- 十分な知識の内化 (事前学習による知識習得) が前提
→ 対面授業は知識の外化を目的に設計する
- 事前に講義動画を視聴した方が得になるように設計する
→ 対面授業では講義動画の内容を説明しない

▶ 教室での活動

- 完全習得学習型では学生への直接指導・個別指導が中心となる
- 対面授業にアクティブ・ラーニングを取り入れることで知識の外化を実現する

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【参考】アクティブ・ラーニングの定義

▶ Bonwell & Eisonによる説明

- 学生にある物事を行わせ、行っている物事について考えさせること

▶ アクティブ・ラーニングが備えるべきポイント

- 学生は授業を聴く以上の関わりをしていること
- 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
- 学生は高次の思考 (分析, 総合, 評価) に関わっていること
- 学生は活動 (例: 読む, 議論する, 書く) に関与していること
- 学生が自分自身の態度や価値観を探索することに重きが置かれていること

【参考】 Bonwell, C.C. and Eison, J.A., Active Learning: Creating excitement in the classroom, ASHE-ERIC Higher Education Report No.1, 1991

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【参考】アクティブ・ラーニングの定義

▶ 中教審質的転換答申（2012年）での説明

- 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である学生にある物事を行わせ、行っている物事について考えさせること。

【参考】中央教育審議会、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）、(2012.8.28)

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

アクティブ・ラーニングとは

▶ そもそも学習は能動的なのでは？ 受動的な学習などあるのか？

- 学習という行為が能動的な性質を持つのは当然
- 学習活動が相対的に「能動的か」「受動的か」が問われる
- 「一方向的な講義を聴く学習」に対して相対的に能動的な学習活動をアクティブ・ラーニングと捉える

↓

- 「講義を聴く」以上の能動的学習とは「書く・話す・発表する」などの活動をさす

- これらの活動を通じて、学生が思考・推論・判断した結果をアウトプットすることが必要（アクティブなラーニングではない）

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

アクティブ・ラーニングの設計

▶ アクティブ・ラーニングにおける学習プロセス

個別学習（個別に知識や考えの書き出しを行う）
↓
協働学習（グループ内での話し合いなど）
↓
個別学習（振り返りによる知識や概念の定着）

※ このプロセスの繰り返しによって深い学習へと導く

- 小テスト
- 演習
- クリッカー
- 個別指導
- グループワーク
- ミニッツペーパー

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

反転授業の設計プロセス

▶ 授業目標の設定

- 学生に習得してもらいたい能力は何か。
- 反転授業の導入が望ましいか。
- 導入する場合、完全習得学習型か高次能力学習型か。

▶ 事前課題・対面授業の設計

- 上記の能力を習得するために必要な学修活動は何か。
- 事前課題と対面授業をどのように組み合わせるか

▶ 評価の設計

- 目標が達成されたかどうかを何を基準にどのように評価するか。
- 形成的評価と総括的評価のどちらを採用するか。

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

3. 反転授業の事例紹介

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

11/46

【事例紹介】従来型授業から反転授業への転換

	従来型授業	反転授業
授業前	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予習 <ul style="list-style-type: none"> - 教科書該当ページの指定 - 配布資料確認の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予習ビデオ <ul style="list-style-type: none"> - 運動方程式（x成分）の導出方法の解説 ■ 事前課題 <ul style="list-style-type: none"> - 前回の復習問題 - 予習ビデオのノート作成
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義 <ul style="list-style-type: none"> - 前回の復習問題の解説 - 運動方程式（x成分）の導出方法の解説 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 演習 <ul style="list-style-type: none"> - 運動方程式（y成分）の導出・発表 - 運動方程式（z成分）の導出・発表 ■ グループワーク <ul style="list-style-type: none"> - 運動方程式の近似方法・発言
授業後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 復習 <ul style="list-style-type: none"> - 関連する演習問題の指定 - 授業収録ビデオの視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 復習 <ul style="list-style-type: none"> - 授業収録ビデオの視聴

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【事例紹介】事前学修

予習ビデオ (20:38)

流体力学1 予習ビデオ
・流体の運動方程式・

事前課題 (3問)

人数

平均値: 89分
中央値: 80分

学修時間 (min)

SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【事例紹介】事前学修 (答案と添削)

SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【事例紹介】対面授業

1. 事前課題の返却 2. 事前課題 (復習問題) の解説 3. 本日の授業目標の説明

10:50 - 10:54 10:55 - 11:06 11:06 - 11:09

4. 事前課題 (予習問題) の確認 5. 演習1 6. 演習1の解答発表

11:09 - 11:12 11:12 - 11:26 11:26 - 11:40

SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【事例紹介】対面授業

7. 演習2 8. 演習2の解答発表 9. 関連事項の解説

11:25 - 11:45 - 11:56 11:56 - 12:10

10. 演習3 (グループワーク) 11. 次回授業の予告

12:10 - 12:27 12:27 - 12:30

SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

SCOT制度

▶ SCOT : Students Consulting on Teaching

- ・ 研修を受けた学生が、教員の要望により授業の記録や観察を行い、学生の視点に立った客観的な情報を教員に提供する制度
- ・ 学生との協働による授業改善が期待できる

▶ 主な授業観察内容

- ・ 教室における教員の行動範囲
- ・ 板書の仕方
- ・ 授業中の各活動に費やされた時間
- ・ 学生の各活動への参加状況
- ・ 受講学生へのインタビュー
- ・ その他教員からの依頼事項

SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【事例紹介】SCOTによる授業観察

▶ SCOTからのコメント

- ・ 多くの学生が集中して授業を最後まで受けていた。
- ・ 予めビデオを見て予習している効果もあり、授業内容についてきている学生がとても多いと感じた。演習も大半の学生が取り組んでおり、先生と学生の距離が近く一緒に授業を作っていることを強く感じた。
- ・ 授業始めに授業目標の提示をされており、モチベーション向上につながっていると感じる。
- ・ 質疑応答の際、積極的に発言する学生や解答の板書を快く引き受ける学生が多く、明るい印象を受けた。
- ・ 演習が授業の2/3程度占めており、演習量が去年より増えていると感じた。
- ・ 机間巡視を教室に満遍なくされており、学生とのコミュニケーションもとられていたため、学生のつまづいていた問題の解決につながっていた。
- ・ 事前課題のビデオの質に関する意見が多く見受けられた。改善の方法を探る必要があると感じた。

SHIBURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【事例紹介】 予習ビデオの改善

【 授業収録映像 (90分 / 22GB) 】

2018年度 (20分38秒 / 251.6MB) 2019年度 (8分18秒 / 28.4MB)

Keynoteで作成

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

オンラインによる反転授業の設計

事前学習 授業 (ライブ配信)

予習ビデオ 従来の対面授業に相当する部分

- Zoomを利用
 - チャット, 直接会話による質疑応答
 - ブレイクアウトルームでのグループワーク
- LMSを利用
 - テスト, アンケートによる確認テスト (提出期限を設定)
 - 課題による演習の提出, 質疑応答 (提出期限を設定)
 - メールによる質疑応答, 演習の提出, など

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

オンライン反転授業の一例 (予習パート: オンデマンド型)

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

オンライン反転授業の一例 (授業パート: 理解度の確認)

学生画面 (解答中) 学生画面 (解答後) 教員画面 (解答後)

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

オンライン反転授業の一例 (授業パート: ライブ配信 or 対面)

- 遠隔参加者にはZoomのチャット等を利用して指導

- 教室参加者には机間巡回で指導 (+ チャット)

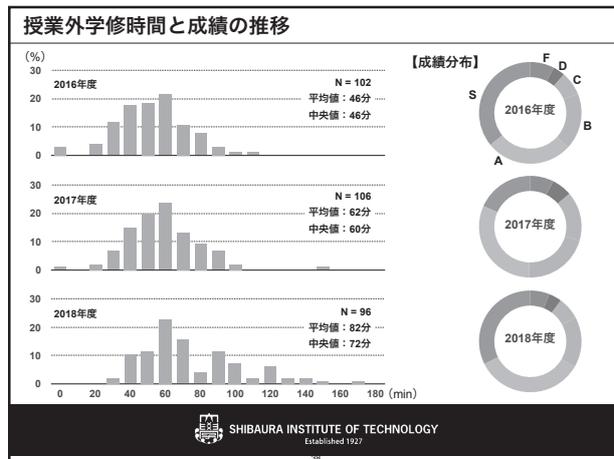
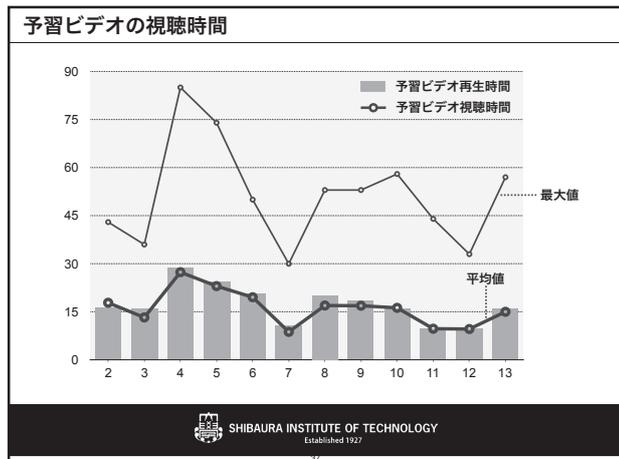
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

予習ビデオアクセス状況

月日	アクセス件数
4月 13	13
4月 20	20
4月 27	27
5月 11	11
5月 18	18
5月 25	25
6月 1	1
6月 8	8
6月 15	15
6月 22	22
6月 29	29
7月 6	6
7月 13	13
7月 20	20

開講期: 2017年度前期
開講年次: 3年
履修者数: 109名

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927



【参考】著作権への配慮

- ▶ 著作権法の一部を改正する法律 (2018年5月)
 - 教育機関は「授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS)」に補償金を支払うことで、個別に著作権者等の許諾を得ることなく著作物を利用できる。
- ▶ 授業の過程で利用することが条件
 - 授業目的の公衆送信 (第三者著作物そのものまたはそれを利用したレジュメ等のLMSでの公開、講義映像の配信など) も可能。
- ▶ 第三者著作物の利用における注意点
 - 必要と認められる限度において、著作権者の利益を不当に害することのない範囲で利用する。

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【参考】著作権への配慮 - CCライセンス採用の著作物利用 -

ライセンスマーク	意味
	- BY (表示) 作品を創作した人 (著作者) の氏名や作品のタイトルなど、作品に関する情報を表示しなくてはならないことを表します。
	- NC (非営利) 営利目的で利用してはならないことを表します。(営利目的で利用したい場合には、作品の権利者にコンタクトして別途許諾を得る必要があります。営利目的で許諾を得た場合は、本アイコンを付ける必要はありません。)
	- ND (改変禁止) 作品を改変しないことを表します。(その作品の全部または一部をそのまま利用することを言います。)
	- SA (継承) 作品を改変することは自由ですが、もしも作品を改変して新しい作品を作った場合には、その新しい作品にも元の作品と同じライセンスを付けることを表します。例えば、あなたが「表示」と「継承」のアイコンが付いた作品を改変して新しい作品をつけた場合、その作品は必ず「表示」と「継承」のライセンスのアイコンを付ける必要があります。

【参考】 <https://creativecommons.jp/licenses/>, <https://creativecommons.org/>

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

【参考】CCライセンスの組み合わせ

	原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示することを主な条件とし、改変ももちろん、営利目的での二次利用も許可される最も自由度の高いCCライセンス。
	原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示し、改変した場合には元の作品と同じCCライセンス (このライセンス) で公開することを主な条件に、営利目的での二次利用も許可されるCCライセンス。
	原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示し、かつ元の作品を改変しないことを主な条件に、営利目的での利用 (転載、コピー、共有) が行えるCCライセンス。
	原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示し、かつ非営利目的であることを主な条件に、改変したり再配布したりすることができるCCライセンス。
	原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示し、かつ非営利目的に限り、また改変を行った際には元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開することを主な条件に、改変したり再配布したりすることができるCCライセンス。
	原作者のクレジット (氏名、作品タイトルなど) を表示し、かつ非営利目的であり、そして元の作品を改変しないことを主な条件に、作品を自由に再配布できるCCライセンス。

【参考】 <https://creativecommons.jp/licenses/>, <https://creativecommons.org/>

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

まとめ

- ▶ 反転授業の導入に向けて
 - 必ずしも全ての週を反転化しなくてもよい
 - 例えば以下のような授業週を対象とするのも一案
 - ・ 時間が不足する授業週
 - ・ 学生にとって理解が困難な授業週
 - ・ アクティブ・ラーニングの機会がある授業週
- ▶ ニューノーマルにおける教育のヒント
 - 対面授業、オンライン授業をどのような戦略で取り入れるか
 - 反転授業の設計思想を活用

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

主な参考文献

1. Bergmann, J. and Sams, A., Flip Your Classroom: Reach every student in every class every day., (2012), International Society for Technology in Education.
2. ジョナサン・バーグマン, アーロン・サムズ, 上原裕美子 (訳), 山内祐平, 大浦弘樹 (監修), 反転授業: 基本を宿題で学んでから、授業で応用力を身につける, (2014), オデッセイコミュニケーションズ
3. 松下佳代, 溝上慎一, 森朋子, Barkley, E.F., Marton, F., 安永悟, Mazur, E., 田口真奈, 関田一彦, 三津村正和, 小野和宏, 日向野幹也, ディープ・アクティブラーニング: 大学授業を深化させるために, (2015), 勁草書房.
4. Khosrow, G., Mohammad H.Q., Ellen, J., Ping, H. and Sutee, S., ムーク (MOOC) と反転授業がもたらす学びの変革 -米田サンノゼ州立大学の挑戦-, 大学教育と情報, No.3 (2013), pp.2-15.
5. 重田勝介, 反転授業 -ICTによる教育改革の進展-, 情報管理, Vol.56, No.10 (2014), pp.677-684.
6. 溝上慎一, 学習とパーソナリティ 「あの子はおとなしいけど成績はいいんですね!」をどう見るか, (2018), 東信堂.
7. Bonwell, C.C. and Eison, J.A., Active Learning: Creating excitement in the classroom, (1991), ASHE-ERIC Higher Education Report No.1.
8. 文部科学省, 著作権法の一部を改正する法律案の概要, http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/02/23/1401718_001.pdf
9. 中村壽宏, 著作権法改正が大学教育に与える影響 -その理論と現実および著作権法改正の動向, 2020年度私情協教育イノベーション大会資料, (2020), pp.92-94.

実践！遠隔講義に役立つ Googleサービス

- 日時：2022年5月6日（金）16:30～18:00
- 講師：山田 宗男 教授（教育担当副学長）
旭 健作 准教授（情報工学部）
- 対象：令和4年度採用新任教員（参加必須）、学内教職員
- 方法：対面開催
- 場所：共通講義棟東501 情報処理教室

企画内容

本学が提供しているGoogleサービスを実際に操作しながら、遠隔講義に役立つ方法を説明する。具体的には、Googleドライブへの講義動画や講義資料のアップロード方法、学生への資料や動画の提示方法、Googleフォームを用いたレポート課題や小テストの作成方法、小テストの回答結果をGoogleスプレッドシートに自動で帳票させる方法などを紹介する。

申し込み方法

事前にメール申し込みをしてください。

（大学教育開発センター：edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp）

令和4年度採用新任教員は参加必須としていますが、4月28日（木）17時までに、メールにて申し込みを行ってください。

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター

TEL: 052-838-2032（内線：2653）

令和4年度・新任教員FD・SD研修会

「実践！遠隔講義に役立つGoogleサービス」 アンケート結果報告について

1. 実施概要

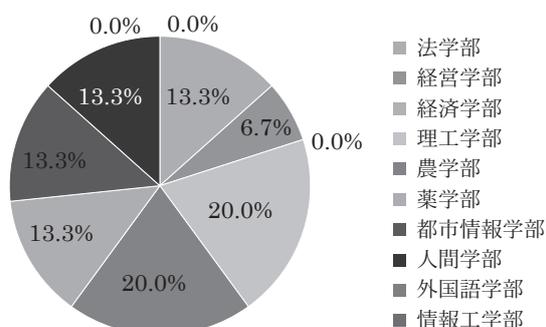
- ・日 時：令和4年5月6日（金）16：30～18：00
- ・開催方法：対面開催 共通講義棟東501 情報処理教室
- ・テ ー マ：実践！遠隔講義に役立つGoogleサービス
- ・講 師：山田 宗男 氏（名城大学 副学長、大学教育開発センター長、情報工学部 教授）
旭 健作 氏（名城大学 情報工学部 准教授）
- ・参加者数：18人（新任教員17人、その他1人）

2. アンケート方法等

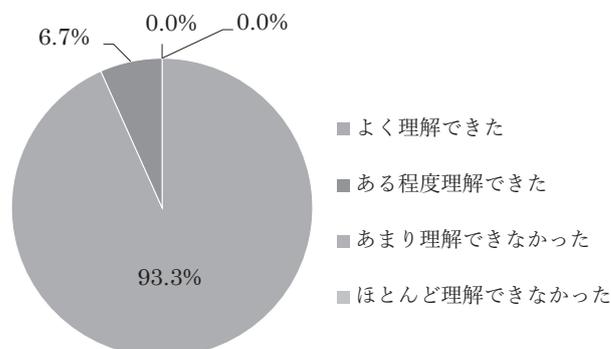
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください。
 - ②研修の内容は、理解できましたか？
 - ③研修で学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④研修の満足度について教えてください。
 - ⑤研修の感想をお聞かせください。
 - ⑥テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：15人
- ・質問⑤～⑥については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

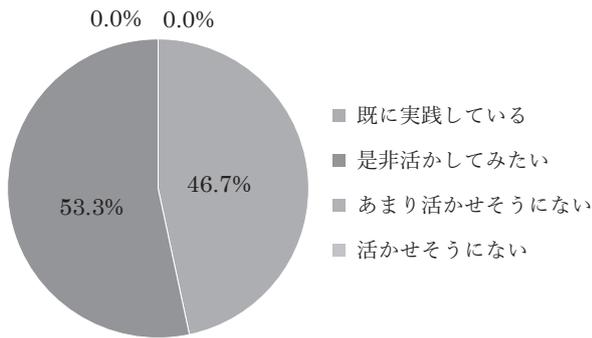
①所属をお知らせください。



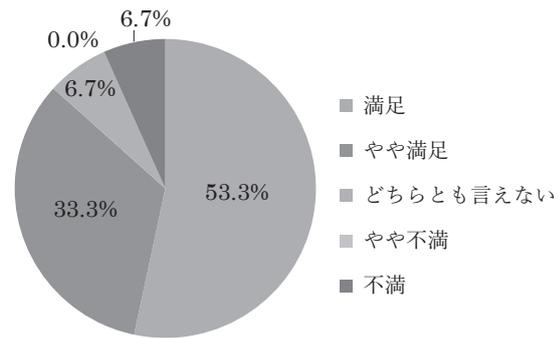
②研修の内容は、理解できましたか？



③研修で学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④研修の満足度について教えてください。



⑤研修の感想をお聞かせください。

- ・とても丁寧に説明いただき、内容を理解することができました。今後の教育ですぐに実践することができそうです。研修内容には大変満足しております。
- ・実際に作業を行いながらだったので、理解しやすかった。
- ・既に利用しているサービスではあったものの、改めて専門家の方からのご説明を受けて、より効果的な利用方法を知ることができた。
- ・Google フォームなど基本的な操作について学ぶことができました。今後はより発展的な使用方法についての講習もあると良いと思いました。
- ・研修内容は、名城大学で行っている FD の中で見つけた課題で新任教員が遵守すべき具体的事柄や、WebClass など授業で必ず使用するものの中で共通認識が必要なものなど、自分では調べることが難しいものが良かったと思います。今回の内容はほとんどの教員は既に知っていると思いますし、知らなくても自分で調べれば5分で解決するものでした。必須の内容ではなかったことも出席を必須にしたことと矛盾していると感じました。また内容的に時間指定で対面で集合させる必要は全くなかったと思います。FD に真面目に取り組んでいる教員ほど自分でよく調べているので、研修では既に知っている内容が多くなり、参加を必須にすると時間的な負担が増えるだけになる可能性があります。そういった事態になれば FD に対する意欲が低下すると思います。今後は、研修資料を事前公開して、参加を必須ではないようにした方が良いのではないのでしょうか。

⑥テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・個人的にはもう少し早めに（4月上旬～中旬頃に）開催していただけると、4月の段階から研修で学んだ内容を授業で実践できるため、もっと良かったと思います。特に、（私も含めて）他大学から着任された先生方は、着任前の使い慣れた LMS から本学の LMS に慣れていく必要があり、着任前から不安に思っている方も少なからずいると思います。それと、研修の資料の電子データをいただくと良かったです。
- ・Google サービスの使い方の HP（親切な解説が良いです）を紹介していただけると、ありが

たいです。

- ・他の名城大学で活用できるシステムやソフトの使い方を教えていただきたい。
- ・Google Drive に格納した音声データのリンクを WebClass の資料に埋め込むと、再生できないとの連絡や個人 Gmail アカウントからと思われるリクエストが受講生からかなりの数届きます。WebClass のお知らせや指示にしたがえば再生できるはずですが、こうした受講生にどう対応するとよいか（クレーム対応?）、例示していただけると助かります。
- ・4月は遠隔授業で WebClass を使うことになったので、授業が始まる前に WebClass の説明を聞けたらとは思いましたが、授業開始前に開催するのは日程調整が難しいかと思います。名城大学の Google サービスは一部利用できないものもあるが、このあたりの留意点も説明してもらえるとより理解が深まると感じた。

1

令和4年度 新任教員 FD 研修会

実践！

遠隔講義に役立つ Google サービス

大学教育開発センター (20220506) 1

2

学内の主なサービス

- ① **Web Class**
本学の LMS (Learning Management System)
- ② **Google サービス (G-Suite)**
G-Mail, G-Drive などの各種サービス
- ③ **マイクロソフト包括ライセンス**
Office, MS365, Windows OS
- ④ **Adobe Creative Cloud**
Acrobat, Photoshop, Illustrator, Premiere など
- ⑤ **教室録画サービス**
教室における授業を自動収録/ダウンロード
- ⑥ **zoom ライセンス**

大学教育開発センター (20220506) 2

3

統合ポータルサイト

大学教育開発センター (20220506) 3

4

Google サービスとは？

大学教育開発センター (20220506) 4

5

講義に有用な Google サービス

直感的に言えば・・・

Word, Excel, PowerPoint 等の機能を、クラウド上で共有できる！

大学教育開発センター (20220506) 5

6

Google アカウントへログインする (1)

- ① Google アカウントへのログインは、色々なサイトから可能ですが、例えば下記の Google のホームページから行ってみます。
- ② Google アカウントのログイン画面が表示されます。

大学教育開発センター (20220506) 6

7

G Google アカウントへログインする (2)

① ポータルサイトへのログイン画面が表示されます。

② ログイン完了!

③ ポータルサイトへログインしてください。

「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、ポータルサイトへ「ログイン」してください。

Google ログインが正常に完了すると、プロフィール画像または名前のアイコンが表示されます。

これで、Googleサービス利用の準備が整いました!

大学教育開発センター (20220506)

8



大学教育開発センター (20220506)

9

M Gmail を使ってみましょう

① 右上のメニューの「Gmail」をクリック

② 「Gmail」画面に切り替わります

大学のメールアドレス	Gmail のアドレス
xxxxxxx@meijo-u.ac.jp	xxxxxxx@ccalumni.meijo-u.ac.jp

(Gmailのアドレスは、大学のアドレスに「ccalumni」を追加したものです)

Gmail のメールアドレスは、大学のメールアドレスと紐づいており、大学のメールアドレスに送られたメールを含んでいます。そのため、学外からでも Gmail で大学のメールを確認したり送信・返信することができるようになっています。

大学教育開発センター (20220506)

10

まずはファイル共有を体験してみましょう!



Googleスプレッドシートで 本日の出欠確認をします

出席確認用の Google スプレッドシートのリンクアドレスを、皆さんにメールでお送りしましたので、Gmail で確認してリンクアドレスをクリックしてください。

大学教育開発センター (20220506)

11



Google ドライブ

Google クラウド上のファイルスペースです。インターネット環境があれば、いつでも・何処からでも利用可能です。
(名城大学の教員は、容量無制限で利用可能です。)

大学教育開発センター (20220506)

12

Google ドライブ

① 右上のメニューの ☰ をクリック

② Google サービスメニューがポップアップしますので、「Google ドライブ」を選択

③ 「マイドライブ」が開きます

この「マイドライブ」が、自由に使用可能なクラウド上のファイルスペースです。(名城大学の教員は、容量無制限です)

大学教育開発センター (20220506)

13

Google ドライブ

本日の FD 学習会用の作業フォルダを作成してみましょう！

- ① 画面上で「右クリック」
- ② 「新しいフォルダ」を選択
- ③ 「第12回 FD 学習会」と入力
- ④ 「新任教員 FD 研修会」のフォルダが作成されました

大学教育開発センター (20220506) 13

14

ファイルのアップロード

講義動画や講義資料を Google ドライブにアップロードしてみましょう！

- ① 右クリックで「ファイルをアップロード」を選択
- ② ドラッグ＆ドロップ中の「講義ビデオ.mp4」を選択し、「開く」をクリック
- ③ 「講義ビデオ.mp4」がアップされました
- ④ 同様に「講義資料.pdf」もアップしてください

大学教育開発センター (20220506) 14

15

ファイルの共有 (学生への提供)

講義動画や講義資料を学生に共有 (提示) してみましょう！

- ① 「講義ビデオ.mp4」上で右クリック
- ② メニューの「リンクを取得」を選択
- ③ 「制限付き」をクリック
- ④ 「リンクをコピー」をクリック
- ⑤ 「名域大学」を選択

これで、「講義ビデオ.mp4」の公開先アドレスが、クリップボードにコピーされますので、掲示板やメール等に張り付け (Ctrl+C) でクリップボードの内容がコピーされますので学生へ連絡してください。

大学教育開発センター (20220506) 15

16

講義動画・資料を学生に提供

共有された講義動画・資料を見てみましょう

講義動画・資料のリンクアドレスを、皆さんにメールでお送りしましたので、Gmail で確認してリンクアドレスをクリックしてください。

大学教育開発センター (20220506) 16

17

Google フォーム

Google フォームを用いると、レポート課題、小テスト、アンケート等が簡単にオンラインで実施できます！

大学教育開発センター (20220506) 17

18

Google フォームの起動

まず、Google フォームを起動しましょう

- ① 右上のメニューの ☰ をクリックして、メニューから「Forms」を選択
- ② 「無題のフォーム」が開きます

これで、Google フォームの作成準備が完了しました！

大学教育開発センター (20220506) 18

19

Google フォームで作成可能な回答形式 (1)

① 記述式の回答形式
回答者が入力画面に自分で記述（テキスト入力）する形式です。記述する形式は2種類あり、それぞれで入力できる回答の長さが異なります。どちらの形式でも正規表現を利用した入力ルールを設定が可能です。また、回答の最大文字数や最小文字数などの設定も可能です。

(1) 記述式（短文（800文字）を入力させたい場合）

(2) 段落式（長文を入力させたい場合）

大学教育開発センター (20220506) 19

20

Google フォームで作成可能な回答形式 (2)

② リストから選択する回答形式
予め設定された選択肢から回答を選択させる回答形式で、3種類の形式が用意されています。回答の結果に応じて、指定の質問へジャンプしたり、選択肢の順序をシャッフルすることも可能です。

(1) ラジオボタン（どれか一つを選択させたい場合）

(2) チェックボックス（複数を選択可としたい場合）

(3) フルダウ（リストから一つを選択させたい場合）

大学教育開発センター (20220506) 20

21

Google フォームで作成可能な回答形式 (3)

③ ファイルをアップロードさせる形式の回答
回答者が質問への回答として、word, excel, PDF, 画像 (jpg, bmp), 音声などのファイルデータをアップロードできる形式です。回答者がアップロードしたファイルは、アンケート作成者の Google ドライブへ保存されます。また、アップロード可能な最大ファイルサイズやファイル数、ファイル種類の制限等も設定可能です。

大学教育開発センター (20220506) 21

22

Google フォームで作成可能な回答形式 (4)

④ リストから選択（グリッド形式）する回答形式
元の「リストから選択」をグリッド形式（行列）に拡張した形式です。質問に対しての5段階評価など、回答者が特定の選択肢から選択して回答をする回答形式です。各行に一つの回答を必須にすることも、回答数を1列につき一つに制限することも可能です。また、行の順序をシャッフルすることもできます。

(1) 均等評価（均等評価の回答をさせたい場合）

(2) 選択式（グリッド形式にしたい場合）

(3) チェックボックス（グリッド形式にしたい場合）

大学教育開発センター (20220506) 22

23

Google フォームで作成可能な回答形式 (5)

⑤ 日付・時刻の回答形式
日付（年月日）および時刻を入力させることも可能です。

(1) 日付（日付を入力させたい場合）

(2) 時刻（時刻を入力させたい場合）

大学教育開発センター (20220506) 23

24

Google フォームで小テストを作成 (1)

配布した小テストを作成してみましょう！

Google フォームによる小テスト作成手順

大学教育開発センター (20220506) 24

Google フォームで小テストを作成 (2)

Google フォームによる小テスト作成練習

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「所属学部」の入力フォームを作成します。
この問題は、短テキスト入力ですので、「記述式」のフォームを用います。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「学籍番号」の入力フォームを作成します。
この問題は、短テキスト入力ですので、「記述式」のフォームを用います。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「氏名」の入力フォームを作成します。
この問題は、短テキスト入力ですので、「記述式」のフォームを用います。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

大学教育開発センター (20220506) 25

Google フォームで小テストを作成 (3)

Google フォームによる小テスト作成練習

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「記述式」の入力フォームに切り替わります。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「@」をクリックすると、説明が追加されます。
「学籍番号」「氏名」の説明を挿入して作成してみましょう。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「学籍番号」「氏名」も短テキスト入力ですので、同様の手順で作成してみてください。

大学教育開発センター (20220506) 26

Google フォームで小テストを作成 (4)

Google フォームによる小テスト作成練習

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「所属学部」「学籍番号」「氏名」の入力フォームが出来ました！

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

大学教育開発センター (20220506) 27

Google フォームで小テストを作成 (5)

Google フォームによる小テスト作成練習

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「問1」の入力フォームを作成します。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

この問題は、選択（1択）形式ですので、「ラジオボタン」のフォームを用います。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

大学教育開発センター (20220506) 28

Google フォームで小テストを作成 (6)

Google フォームによる小テスト作成練習

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「質問」および「選択肢」の内容をテキストで入力します。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「問1」の入力フォームが出来ました！

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「その前」をクリックすると、自由記述の項目も追加することができます。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

大学教育開発センター (20220506) 29

Google フォームで小テストを作成 (7)

Google フォームによる小テスト作成練習

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「問2」の入力フォームを作成します。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「問2」は、短文入力形式ですので、先ほどと同じく「記述式」のフォームで作成できますね。

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

「問2」の入力フォームが出来ました！

所属学部: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

大学教育開発センター (20220506) 30

Google フォームで小テストを作成 (8)

・次は「問3」の入力フォームを作成します。

Google フォームによる小テスト作成練習

問3は、複数選択の入力形式ですので、「チェックボックス」のフォームで作成します。

大学教育開発センター (20220506) 31

Google フォームで小テストを作成 (9)

・最後に「問4」の入力フォームを作成します。

Google フォームによる小テスト作成練習

問4は、長文記述の入力形式ですので、「段落」のフォームで作成します。

大学教育開発センター (20220506) 32

Google フォームで小テストを作成 (10)

すべての設問が作成できました！

◎をクリックすると、実際に回答者に提示される画面をプレビューすることができますので、確認してみてください。

大学教育開発センター (20220506) 33

小テスト ↔ 連携 ↔ 回答結果

Google フォーム ↔ Google スプレッドシート

作成した小テストを実施して、回答結果を Google スプレッドシートに自動で帳票させてみましょう！

大学教育開発センター (20220506) 34

小テストを開始するにあたっての各種設定

・右上メニューの ⚙️ をクリックすると、「設定」画面がポップアップします。

- (1) メールアドレスを収集する**
回答者のメールアドレスを記録してくれます。
- (2) 回答のコピーを送信**
回答結果のコピーを回答者へ自動的に送信してくれます。回答者の希望の有無による設定も可能です。
- (3) 名称大学と連携できる組織のユーザに限定する**
回答者を名称大学の学生、つまり、大学のメールアドレスでログインしたものに限定することができます。
- (4) 回答を1回に制限する**
回答する機会を1回のみ限定します。
- (5) 送信後に編集**
回答者が回答後に回答内容を修正できるようにします。
- (6) 概要グラフとテストの回答を表示**
回答者に全回答者の回答状況や、回答結果の概要を表示します。

大学教育開発センター (20220506) 35

作成した小テストの開始と終了

・「回答」のタブをクリック

・「開始」と「終了」はスイッチで切り替えます。また、回答の状況を確認することもできます。

「回答受付中」と「受け付けていません」を切り替えることができます。

大学教育開発センター (20220506) 36

回答結果をスプレッドシートに自動で帳票させる

「回答」のタブで、 をクリック

「回答先の選択」メニューがポップアップします。「新しいシートを作成」を選択してください。

これで、全回答者の回答結果を自動的に、一覧表形式でスプレッドシートに帳票してくれますので、採点および成績管理が大変便利になります。

なお、このスプレッドシートは、Google ドライブ（小テストのフォームと同じ場所）に自動で作成されます。

大学教育開発センター (20220506) 37

小テストのリンクアドレスを取得する (1)

右上メニューの をクリックすると、「フォームを送信」画面がポップアップします。

をクリックしてください。

大学教育開発センター (20220506) 38

小テストのリンクアドレスを取得する (2)

「回答者の名城大学のメールアドレス・・・」と、「URL を短縮」をチェックします。

「コピー」をクリックしてください。

これで、Googleフォームで作成した小テストの公開先アドレスが、クリップボードにコピーされますので、掲示板やメール等に張り付け (Ctrl+[V] でクリップボードの内容がコピーされます) で学生へ連絡してください。

大学教育開発センター (20220506) 39

小テストをやってみる

私が作成した小テストのリンクアドレスを皆さんにメールでお送りしましたので、回答してみましょう！

大学教育開発センター (20220506) 40

教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度は、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループを表彰する教育功労賞と、教育功労賞受賞者のうち、全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞からなり、いずれも各学部及び研究科等から推薦された者について大学教育開発センター委員会において審査し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

令和4年度は3件の推薦があり、大学教育開発センター委員会（令和5年1月5日開催）で慎重に審査した結果、推薦のあった3件を教育功労賞候補者として相応しい旨を学長に報告した後、大学協議会（令和5年1月27日開催）の総意を踏まえ、学長が承認しました。

表彰者について

1. 教育功労賞受賞者

NO.	氏名・グループ名	所属学部等	活動・テーマ
1	宮田 喜久子	理工学部	実践的教育機会の実現支援と高大連携教育による次世代の育成
2	新学部検討ワーキンググループ (カリキュラム関係)	情報工学部	情報工学部設置に伴う「柔軟な学びのフレームワーク」の提案と実装

2. 特別教育功労賞受賞者

NO.	氏名・グループ名	所管部署	活動・テーマ
1	「データサイエンス・AI入門」 科目運営委員会及びワーキング グループ	大学教育 開発センター 学務センター	「データサイエンス・AI入門」の構想および運営

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等 理工学部長 齊藤 公明

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等	理工学部 交通機械工学科	候補者氏名	宮田 喜久子
取組タイトル	実践的教育機会の実現支援と高大連携教育による次世代の育成		

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名	
学部等・氏名（代表）	学部等・氏名
学部等・氏名	学部等・氏名

1. 推薦理由

推薦者は、実践的な活動を教育課程に積極的に取り入れ就学意欲向上を試みる施策を実施している。特に低学年や高校生に向けた施策に力をいれ、次世代の育成を狙っている。

希望者を募り半年間かけて CanSat（自律動作する模擬衛星）の実験内容を提案させ、それを実現するシステムを設計・製作・試験・検証させ成果を発表させたり、宇宙機を利用したプロジェクト内容とそのプロジェクトを実現させるためのシステムを提案させたりするカリキュラムを1年生向けの基礎ゼミナールにおいて整備した。グループでのプロジェクト経験や、成果発表会などから情報発信能力についても低学年から指導できるようにしている。ゼミナール終了後も CanSat プロジェクトを継続する学生もおり、年度末に種子島で実施される大会の参加を目指している。それらの活動には、今年度から学びのコミュニティ創出支援事業「小型宇宙機システムの実践学習機会の提供による主体的な学生の育成および地域社会への貢献」を開始し支援している。この事業においては、基礎ゼミナールの内容を発展させ工学的にロジカルに思考を整理する手法なども紹介し、今後の技術者に必要な主体的に活動する技能を有する人材育成を目指している。さらに地域社会の希望者などに対するアウトリーチ活動も実施、今年度は愛知総合工科高校と高大連携教育を結び、高校生の製作したモデルロケットで大学生の製作した CanSat を打ち上げる合同実験や成果発表会を実施した。これらの活動を通じて、参加学生の理解度や発信能力向上を試みている。高校生には具体的な興味・就学意欲や目的を持つ形での大学進学を期待しており、高校の担当教員からも大学進学意欲が増した学生がいるとの報告もあった。

他にも、講義内容の理解を深めるための実験科目の追加整備を実施、学科オープンキャンパス実施内容の更新や、実践的な研究開発を実施している研究者を招く講演会の実現に対し中心的な役割を担う形で積極的に取り組んだ。以上のことから、本賞の推薦に足る人物と判断する。

2. 取組の発展性について

実践的な教育活動を低学年のうちから体験させ、適用先を見据える形で座学を受講することにより、就学意欲を向上させるという試みは、個別科目に特化する内容ではなく、多くの分野で効果が見込まれる内容であると考ええる。

高大連携教育は大学生としては学んだことを教えることによる理解の深化が見込まれ、主体的に活動可能な今後の技術者に必要な技能を有する人材育成に効果があった。高校生に対しては具体的な興味・就学意欲や目的を持った形での大学進学が促されたとのことで、大学としては多方面に良い効果を得ることができる試みと考えられる。こちらについても、個別科目に特化する内容ではなく、多くの分野で効果が見込まれる内容であると考ええる。

3. その他教育活動に係る特記事項

今年度現時点までにおいては、特定非営利活動法人（NPO）大学宇宙工学コンソーシアム（University Space Engineering Consortium, UNISEC）の理事として大学・高専学生による手作り衛星（超小型衛星）や CanSat（超小型の模擬人工衛星）・ロケットなど宇宙工学の分野における実践的な教育活動の実現を支援している。特に大学発小型衛星の軌道上実験機会の支援（<http://unisec.jp/service/j-cube>）や成功率向上のための施策（<http://unisec.jp/service/ma-handbook>）について携わっている。また、KiboCUBE Academy: Season 2（United Nations Office for Outer Space Affairs（UNOOSA）講師、生涯学習講師（味岡ゆうゆう学級、宇宙航空人材育成プログラム「民間における宇宙利用2週間コース」）や高校出前講義講師など、学外に向けた各種教育活動も積極的に実施している。

昨年度までにも、高校生向けの教育活動を積極的に参加し、宇宙工学講座講師（岐阜県）、缶サット甲子園岐阜大会審査員、あいち宇宙イベントの講師などを務めた実績もある。

以上のように、学内のみならず国内外の幅広い年代へ関連教育活動を継続していることも評価し、本賞の候補者として推薦する。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

情報工学部

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等

候補者氏名

取組タイトル

情報工学部設置に伴う「柔軟な学びのフレームワーク」の提案と実装

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名 新学部検討ワーキンググループ（カリキュラム関係）

学部等・氏名（代表） 情報工・坂野 秀樹

学部等・氏名 情報工・宇佐見 庄五

学部等・氏名 情報工・小中 英嗣

学部等・氏名 情報工・旭 健作

1. 推薦理由

理工学部情報工学科を改組して情報系の新学部（後の「情報工学部」）を設置する案が大学執行部から示されたことを受け、情報工学科では新学部の具体的な構想に着手し、全体の構想を「新学部ワーキンググループ」で検討した後、カリキュラムの具体案を「カリキュラムワーキンググループ」で検討した。今回推薦するグループのメンバーは、これら2つのWGのメンバーとして新学部のカリキュラムの設計に貢献し、特に、新学部のカリキュラムの特徴の一つに掲げる「柔軟な学びのフレームワーク」のアイデアを提案し、具体的なカリキュラムとして実装した点が、推薦の主な理由である。

「柔軟な学びのフレームワーク」は、コース制とプログラム制を組み合わせることによって、学生が自らの特性や目標に合わせて学びをアレンジできる仕組みである。プログラム制自体は理工学部情報工学科ですでに導入済みの制度であり、情報工学分野を4つの分野に細分したプログラムを提供することで、学生が「何を学ぶか」を複数も含め選択可能になり、自らの関心や意欲に合わせた学び方を選択できる制度である。ここに新学部設置に伴い追加されたコース制は、新学部の特徴であるPBLを代表とする応用指向的な学習の比率を大きくとった「先進プロジェクトコース」と、理工学部情報工学科における伝統的な積み上げ型の学習の比率を大きくとった「総合コース」を提供することで、学生が「どのように学ぶか」を選択可能になり、自らの資質や進路に合わせた学び方を選択できる制度である。

これらプログラム制とコース制の2つを組み合わせることで学生は「何をどのように学ぶか」

を自分で考えて学習計画を立てることが可能となるが、実際のカリキュラムとして実現するには、下記のような多くの課題があった。

- 先進プロジェクトコースに対応する授業科目の選定（新科目の追加や科目内容の検討を含む）
- コースとプログラムの可能な組み合わせに対する修了要件等の設定（ディプロマポリシーとの整合性のチェックを含む）
- コース定員の設定およびコース配属方法、など

これらの課題を、文部科学省への新学部設置に係る事前相談のための資料作成の期限が迫る中、科目担当教職員や教務担当事務職員との打合せ、臨時の開催も含む学科会議での検討を精力的に重ね、実現させた功績は非常に大きく、教育貢献表彰に値するものとしてここに推薦する。

2. 取組の発展性について

コース制とプログラム制という考え方の異なる複数の制度を組み合わせにより柔軟なカリキュラムを提供し、学生に選択の幅を持たせることで自らの学びについて主体的に考えさせるというアイデアは多くの分野で応用可能な手法であり、全学的な波及効果が期待できる。

3. その他教育活動に係る特記事項

なし

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等 大学教育開発センター

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等 大学教育開発センター、学務センター 候補者氏名

取組タイトル 「データサイエンス・AI入門」の構想および運営

【グループの場合は、以下にグループ名等を記載してください。】

グループ名 「データサイエンス・AI入門」科目運営委員会及びワーキンググループ

学部等・氏名（代表） 経済学部・勝浦 正樹 学部等・氏名

学部等・氏名 学部等・氏名

1. 推薦理由

2019年に策定されたAI戦略2019では、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎的な素養を身に付けた人材の育成に向けて、大学や高等専門学校が全ての学生を対象に「AI・データサイエンス教育」を導入することを求めている。具体的には2025年までに、大学・高等専門学校卒業生全員に当たる50万人にリテラシーレベルの教育を実施し、年間2000人程度を課題解決型のAI人材として育成することを目指すものである。

本学では将来の社会に向けての潮流を鑑み、2021年度より大学協議会の下に「データサイエンス教育検討WG（2022年度から「データサイエンス・AI入門」科目運営委員会として独立）」を設置し、全学での実施方法の検討を開始した。当該科目の全学での設置・実施にあたっては、先ずは各学部のカリキュラムの調整が必須であり、担当教員の確保、実施形態、教材作成、学力試験の実施方法、成績評価方法等々、多岐に亘る解決すべき難問が山積し、これら全ての問題に向き合い調整・解決を得て実施に至った功績は、教育功労として高く評価されるべきものであると考える。

上述の「データサイエンス・AI入門」科目運営委員会の下には、当該科目を担当する教員で構成されるワーキンググループ（座長：勝浦正樹 教授）が設置され、シラバスの検討および教材・小テスト・定期試験問題の作成等、具体的な運営方法および授業内容についての詳細な検討がなされている。全学部から21名の先生が科目担当者として協力し、各学部でのデータサイエンス・AI教育の特徴を活かした授業内容をオムニバス形式で構成することで、文・理共通科目と

して実現している点は他大学に無い特筆すべき特徴であり、この点についても高く評価し、本賞の候補者として推薦する。

なお、当該科目の設置経緯（資料1）および2022年度前期における当該科目の実施内容（資料2）および科目の点検評価結果（資料3）については、添付資料を参照されたい。

2. 取組の発展性について

本取り組みは、文・理共通科目として「データサイエンス・AI入門」科目の全学整備を実現したものであり、全学的な教育貢献を果たしており、今後も継続可能な取り組みである。

また先にも触れたように、特筆すべきは、全学部から有志の教員が集まり（資料3）、それぞれの学部におけるデータサイエンス教育の特徴を活かしつつ授業内容を構成し、文・理共通科目として実現させた点である。今後益々必要とされるであろう「全学での教育実施」の礎となる貴重な取り組みであると言える。2022年度は全学で2,479名もの学生が履修している。

さらに、当該科目の整備・実施を受けて、情報工学部および都市情報学部においては、「データサイエンス・AI副専攻」の整備、さらには数理・データサイエンス・AI教育認定制度の応用基礎レベルの申請の準備に入っており、全学的な波及効果を既にもたらしている。

3. その他教育活動に係る特記事項

当該科目の内容は、2021年度に制定された「数理・データサイエンス・AI教育認定制度（リテラシーレベル）」の内容も踏襲しており、2022年度前期での授業実績を以て、本認定制度への申請を予定している。これにより、本プログラム認定時に学生に修了証を発行し、学修した成果を自身の就職時のキャリア等に活用することが可能になる。

さらに、当該科目の単位認定については、海外の多くの大学や企業が取り入れている「デジタルバッジ」を合格者に認定証として付与する準備を進めている。この取り組みについても、本学では初の先進的な取り組みであり、高く評価されるものであると考える。

7. 資 料

大学教育開発センター要項

(目的)

第1条 大学教育開発センター（以下「本センター」という。）は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の実施及び各学部、研究科へのFD活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

(業務)

第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
- (2) 教員の教育力向上に関すること
- (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
- (4) 高大連携及び接続教育に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

(センター長)

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

(委員会)

第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学教育開発センター長
- (2) 学務センター長のうち1名
- (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
- (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
- (5) 教職センターから選出された教育職員 1名
- (6) 大学教育開発センター事務部長
- (7) 学務センター事務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附 則

① この要項は、平成29年4月1日から施行する。

② 従前の「FD委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

8. おわりに

あ と が き

大学教育開発センター

本報告書は、令和4年度の本学におけるFD・SD活動、正課外教育活動及びその詳細についてまとめたものです。

本学のFD・SD活動は、各学部・研究科等を主体とし、大学教育開発センター委員会がサポートする形で企画運営、各種取組を推進しています。

大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会とともに、国の文教政策の動向を踏まえ、本学の発展のため、今後も引き続き教育改善に取り組みます。

本報告書により、本学のFD・SD活動等の現状を確認いただき、次年度に向け、抱負を新たにしていだけますと幸いです。

最後になりますが、各FD・SD活動の企画・運営、そして本報告書の企画・編集にご協力いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。

令和5年3月

発行：名城大学 大学教育開発センター

編集：名城大学 大学教育開発センター

住所：〒468-8502
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電話：(052)838-2032

FAX：(052)833-5230

